徳島大学
Tokushima University

第27回学生生活実態調査報告書

キャンパスライフ

ま　え　が　き

キャンパスライフ―「第27回学生生活実態調査報告書」―を皆様にご報告申し上げます。この調査は，本学学部生の生活の実態や要望を把握し，今後の修学支援並びに福利厚生施設等の改善に資する基礎資料を得る目的で，平成27年11月に，全学部の学生全員にアンケートを実施しました。本報告書には，①基本事項，②住居・通学，③収入・支出，④健康状態，⑤食事，⑥学生生活上の問題点，⑦修学状況，⑧課外活動，⑨進路・就職などについて，全部で79問の質問により調査されたアンケート結果に加えて，その結果から得られた各学部の現状と課題，これらをまとめた総括と提言が報告されています。

近年，少子化が招来し，我が国の大学教育は，大学全入時代を迎えています。これに伴い，知識，学習力・学習意欲，興味・関心，資質・能力，自主・自立性，職業観などの面で，多様な学生が本学に入学しています。一方，グローバル化が加速し，グローバル化に対応した教育環境づくりの整備も欠かせません。この様な時代において，学生の能動的な活動を後押しし，社会を牽引するような人材，社会に貢献できる人材を大学から送り出すことが社会から強く大学に求められています。

本学は，「明日を目指す学生の多様な個性を尊重して，人間性に富む人格の形成を促す教育を行い，優れた専門的能力と，自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけた人材の育成に努める」を教育目標としており，この目標に向かって学生，教職員共に協働しながら努力しているところです。しかし残念ながら，「大学全入時代」を迎え，入学後に将来の夢を持てず，目的意識・学習意欲を失い，留年や退学，また精神的に不安定に陥る学生が増加しているのも事実です。

教育の目的が豊かで健全な未来社会の実現に貢献できる人づくりであることを考えるとき，多様な人材の育成のためには，日頃の授業は勿論のこと，学生目線を重視したきめ細かい正課外の教育支援や学生生活支援が不可欠であり，一人一人の学生に合った適切な指導を行い，学生と共に考えて行くことがわれわれ教職員の責務であります。本報告書が，これからの本学における学生の立場に立った教育改革に活用されることを強く望みます。教職員のみならず，学生諸君に大いに活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが，徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員の先生方，協力いただいた先生方および学務部職員の方々には，この調査に関してアンケート項目の設定から，調査の実施，集計，結果の分析まで，ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき，早期に報告書を作成していただきましたことに対し，伏見賢一支援室長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝申し上げます。また，調査にご協力いただいた学部生の皆さんにもこの場を借りて感謝致します。

平成28年3月

徳島大学理事・副学長（教育担当）
総合教育センター長
高　石　喜　久

目　　次

まえがき……1

序　章　学生生活実態調査の概要……4
　1　調査の目的……4
　2　調査の組織……4
　3　調査の対象及び方法……4
　4　調査の時期……4
　5　調査の内容……4
　6　略語等の表示等……5
　7　調査票の回収状況……5
　調査票「平成27年度　学生生活実態調査（学部学生対象）」……7

第1章　住居・通学について……15
　1－1　住居区分……15
　1－2　1か月の家賃……15
　1－3　住居満足度……16
　1－4　住居（部屋）の紹介・斡旋者……17
　1－5　通学方法……17
　1－6　通学時間……18
　1－7　通学中の交通事故……19

第2章　収入・支出について……20
　2－1　家庭の年収……20
　2－2　授業料の免除について（年収が500万円未満の家庭）……20
　2－3　1か月の平均収入額【自宅外通学者】……21
　2－4　保護者からの援助額【自宅外通学者】……22
　2－5　1か月の平均支出額【自宅外通学者】……23
　2－6　1か月の平均の食費【自宅外通学者】……23
　2－7　経済状況……24
　2－8　奨学金……24
　2－9　1週間のアルバイト従事日数……25
　2－10　1週間のアルバイト従事時間数……25
　2－11　アルバイトと勉学……26
　2－12　アルバイトの目的……26
　2－13　アルバイトの種類……27
　2－14　アルバイト収入……27
　2－15　アルバイトの紹介者……28
　2－16　アルバイトのトラブル内容……29

第3章　健康状態について……30
　3－1　睡眠時間……30
　3－2　気になる症状……31
　3－3　喫煙について……32
　3－4　飲酒について……33

第4章　食事について……35
　4－1　朝食……35
　4－2　昼食……36

４－３　夕食……36
４－４　昼食の利用場所……37
４－５　弁当を食べる場所……37
４－６　学生食堂について感じること……38

第５章　学生生活上の問題点……40
５－１　大学生活の意義……40
５－２　悩みと相談……41
５－３　迷惑行為……43
５－４　教職員・友人との交流……49
５－５　大学事務室の対応への満足度……52
５－６　盗難等犯罪被害……53

第６章　修学状況について……56
６－１　本学を選んだ理由と所属学部の満足度……56
６－２　単位取得状況と授業出席状況……57
６－３　授業の満足度……58
６－４　授業予習復習時間とカンニング経験……59
６－５　オフィスアワーの利用状況……60
６－６　図書館の利用状況……61

第７章　課外活動について……63
７－１　サークル加入状況……63
７－２　活動状況……64
７－３　加入の動機……65
７－４　サークルに加入していない理由……67
７－５　学生行事……69
７－６　大学祭への参加状況……71
７－７　ボランティア活動……72

第８章 進路・就職について……74
８－１　進路情報入手手段……74
８－２　就職・進学希望について……74
８－３　就職先選択で重視するもの……75
８－４　就職情報の入手方法……75
８－５　希望する職種……76
８－６　就職セミナーへの参加……77
８－７　キャリア支援室の利用状況……77

第９章 学部の現状と課題……79
９－１　総合科学部……79
９－２　医学部……80
９－３　歯学部……82
９－４　薬学部……86
９－５　工学部……88

第10章　総括と提言……90

あとがき……93

序章　学生生活実態調査の概要

1　調査の目的

この調査は，本学学生の学生生活の実状を把握し，今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2　調査の組織

この調査は，徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員及び協力者が中心となり，調査を実施し，分析作業を行った。

区　分	氏　名	所　属	職名
委員長	伏見賢一	大学院ソシオ･アーツ･アンド･サイエンス研究部	教授
委員	鶴尾吉宏	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	松山美和	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	滝口祥令	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	西野秀郎	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	井﨑ゆみ子	保健管理・総合相談センター	准教授
委員	金　成海	国際センター	教授
協力者	山本真由美	保健管理･総合相談センター　総合相談部門	部門長
協力者	成行義文	総合教育センター　キャリア支援部門	部門長

3　調査の対象及び方法

この調査は，本学に在学する学部学生全員 5,900 人（平成 27 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は，各学部の学務(教務)係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配付し，回答用紙(マークシート）を回収した。

4　調査の時期

この調査は，平成 27 年 11 月 4 日から 11 月 12 日まで実施し，11 月 1 日現在の実状について回答を依頼し，回答用紙の提出期限を 11 月 16 日までとした。

5　調査の内容

調査項目については，調査の継続性を考慮し，学部学生の生活全般を把握できるように精選した。

6　略語等の表示等

本報告書中，一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また，端数処理の関係で合計が100％にならない場合や，複数回答の場合で実回答者数を母数としてそれに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100％を超えるものがある。

工学部昼間コース　→　工学部昼間

工学部夜間主コース　→　工学部夜間

平成23年度学生生活実態調査（学部学生）　→　前々回調査

平成25年度学生生活実態調査（学部学生）　→　前回調査

7　調査票の回収状況

調査票の回収状況は，調査対象者5,900人のうち回答数は3,488人で，回収率は59.1％であった。学部・学科別，学年別，男女別の回収状況は次表のとおりである。

平成27年度学生生活実態調査集計表

＜学部・学科別＞

学部	学科	対象者数	回収数	回収率(％)
総合科学部	人間文化学科	421	229	54.4
	社会創生学科	422	266	63.0
	総合理数学科	265	187	70.6
	人間社会学科	1	0	0.0
	計	1,109	682	61.5
医学部	医学科	682	141	20.7
	栄養学科・医科栄養学科	203	87	42.9
	保健学科	512	304	59.4
	計	1,397	532	38.1
歯学部	歯学科	249	168	67.5
	口腔保健学科	60	60	100.0
	計	309	228	73.8
薬学部	薬学部共通学科	174	78	44.8
	薬学科	162	127	78.4
	創製薬科学科	76	66	86.8
	計	412	271	65.8
工学部	建設工学科	388	230	59.3
	機械工学科	537	408	76.0
	化学応用工学科	356	270	75.8
	生物工学科	271	243	89.7
	電気電子工学科	493	194	39.4
	知能情報工学科	409	303	74.1
	光応用工学科	219	127	58.0
	計	2,673	1,775	66.4
合計		5,900	3,488	59.1

＜学年別＞

学　　年	対象者数	回収数	回収率(%)
1　　年	1,382	969	70.1
2　　年	1,418	688	48.5
3　　年	1,398	782	55.9
4　　年	1,326	900	67.9
5　　年	203	79	38.9
6　　年	173	70	40.5
計	5,900	3,488	59.1

＜男女別＞

学　　部	回　　収　　率(%)		
	男	女	計
総合科学部	60.3	62.6	61.5
医　学　部	24.2	49.0	38.1
歯　学　部	58.3	86.5	73.8
薬　学　部	62.4	69.3	65.8
工　学　部	63.9	81.6	66.4
計	56.7	63.5	59.1

平成27年度　学生生活実態調査（学部学生対象）

平成２７年１１月
徳　島　大　学

お 願 い

この調査は，みなさんの学生生活を把握し，今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は，平成27年11月1日現在，本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので，ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く，大変とは思いますが，この調査の趣旨をご理解のうえ，ご協力をお願いします。

［調査実施期間　11月4日～11月12日］

回答用紙（マークカード）の提出期限は，11月16日（月）です。
所属学部の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

1　平成27年11月1日現在で記入してください。
2　回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで，その番号を塗りつぶして回答してください。
　ただし，複数回答可を指定している場合は，複数選んでも差し支えありません。
3　質問中，回答者を指定している箇所は，指定された人のみ回答してください。
4　マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので，問30については気になる具体的症状を，問44についてはその具体的内容を，また学生生活全般について気づいたことや要望したいこと，あるいは期待することがあれば，自由に記入してください。
5　＊は，前回からの継続調査項目です。

学 生 生 活 実 態 調 査 票

A．基本事項について

1 ＊	【全員】 性別はどれですか。	1．男　　2．女
2 ＊	【全員】 所属学部はどこですか。	1．総合科学部　2．医学部　3．歯学部 4．薬学部　5．工学部(昼間コース)　6．工学部(夜間主コース)
3 ＊	【全員】 学科はどこですか。	総合科学部 〔1．人間社会学科　2．人間文化学科 3．社会創生学科　4．総合理数学科〕 医　学　部 〔1．医学科　2．栄養学科　3．医科栄養学科　4．保健学科〕 歯　学　部 〔1．歯学科　2．口腔保健学科〕 薬　学　部 〔1．薬学科　2．創製薬科学科〕 (薬学部1～2年生については，〔1．薬学科　2．創製薬科学科〕の選択は不要) 工　学　部 〔1．建設工学科　2．機械工学科　3．化学応用工学科 4．生物工学科　5．電気電子工学科　6．知能情報工学科 7．光応用工学科〕
4 ＊	【全員】 何年生ですか。	1．1年生　2．2年生　3．3年生 4．4年生　5．5年生　6．6年生

B．住居，通学について

5 ＊	【全員】 あなたの住居区分はどれですか。	1．自宅(家族と同居)　2．アパート・マンション(家族と別居) 3．学生寮　4．間借り（下宿） 5．親戚・知人宅　6．国際交流会館・日亜会館 7．その他
6 ＊	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃（電気代，ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。	1．3万円未満　2．3万円～4万円未満 3．4万円～5万円未満　4．5万円～6万円未満 5．6万円～7万円未満　6．7万円～8万円未満 7．8万円以上
7 ＊	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 現在の住居に満足していますか。	1．満足している　2．ほぼ満足している 3．どちらともいえない　4．やや不満足である 5．不満足である
8 ＊	【問7で「4」,「5」を選んだ方】 その理由はどれですか。 〈複数回答可〉	1．狭い　2．家賃が高い 3．通学に不便　4．日常生活に不便 5．周りの環境が良くない　6．その他
9 ＊	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 住居（部屋）の紹介・斡旋者は誰ですか。	1．徳大生協　2．徳大教員 3．友人・先輩　4．不動産業者 5．新聞・雑誌　6．その他
10 ＊	【全員】 あなたの主な通学方法は何ですか。	1．徒歩　2．自転車 3．バイク（原付自転車・自動二輪）　4．自動車 5．バス・ＪＲ
11 ＊	【全員】 通学時間はどのくらいですか。	1．１５分未満　2．１５分～３０分未満 3．３０分～１時間未満　4．１時間～２時間未満 5．２時間以上

12 ＊	【全員】 通学中に交通事故をおこしたことまたは交通事故の被害にあったことがありますか。	1．ある 2．ない

C．収入・支出について

13 ＊	【全員】 あなたの家庭の年収(税込み)はどれくらいですか。	1．250万円未満　2．250～500万円未満 3．500～750万円未満　4．750～1,000万円未満 5．1,000～1,500万円未満　6．1,500万円以上
14 ＊	【問13で「1」又は「2」を選んだ方（年収500万円未満の家庭)】 授業料免除についてお尋ねします。(直近のものでお答えください。)	1．授業料免除は知っているが申請していない 2．全額免除を受けている 3．半額免除を受けている 4．申請したが不許可だった 5．授業料免除制度を知らなかった
15 ＊	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均収入額（保護者等からの援助を含む）はいくらですか。	1．３万円未満　2．３～５万円未満 3．５～７万円未満　4．７～１０万円未満 5．１０～１５万円未満　6．１５～２０万円未満 7．２０～２５万円未満　8．２５～３０万円未満 9．３０万円以上
16 ＊	【自宅外通学者】 保護者等からの援助はいくらありますか。	1．全くない　2．３万円未満 3．３～５万円未満　4．５～７万円未満 5．７～１０万円未満　6．１０～１５万円未満 7．１５～２０万円未満　8．２０万円以上
17 ＊	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。	1．３万円未満　2．３～５万円未満 3．５～７万円未満　4．７～１０万円未満 5．１０～１５万円未満　6．１５～２０万円未満 7．２０～２５万円未満　8．２５～３０万円未満 9．３０万円以上
18 ＊	【自宅外通学者】 1か月の平均の食費はどのくらいですか。	1．２万円未満　2．２～３万円未満 3．３～４万円未満　4．４～５万円未満 5．５～７万円未満　6．７万円以上
19 ＊	【全員】 現在の経済状況について	1．ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ） 2．普通（あまり不自由を感じない） 3．やや苦しい（奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる） 4．大変苦しい（定期的なアルバイトが必要である）
20 ＊	【全員】 奨学金を受けていますか。	1．現在受給中であり，受給の継続を希望する 2．現在受給中であるが，更に増額を希望する 3．現在受給中であるが，次は希望しない 4．現在受給していないが，新たに受給を希望する 5．現在受給していないし，希望もしない
21 ＊	【全員】 現在，アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。	1．いいえ　2．１日 3．２日　4．３日 5．４日　6．５日以上
22 ＊	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 1週間の従事時間は合計何時間ですか。(移動に要する時間も含む)	1．５時間未満　2．５～１０時間未満 3．１０～１５時間未満　4．１５～２０時間未満 5．２０～２５時間未満　6．２５時間以上
23 ＊	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。	1．支障が生じている 2．支障は生じていない
24 ＊	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトは主にどのような目的でしていますか。 〈複数回答可〉	1．生活費や学費のため　2．レジャー・旅行費のため 3．日常の娯楽・嗜好品等のため 4．高額商品(自動車・パソコン等)購入のため　5．課外活動費のため 6．社会体験のため　7．その他

25 ＊	【問 21 で「2」～「6」を選んだ方】 どのようなアルバイトをしていますか。 〈複数回答可〉	1．家庭教師・学習塾講師等　2．会場設営・撤収，搬入搬出 3．受付・接客　4．イベントスタッフ補助 5．商品販売　6．商品等整理・包装 7．飲食店等手伝い　8．駐車場整理員 9．引越しスタッフ　10．その他
26 ＊	【問 21 で「2」～「6」を選んだ方】 あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。	1．３万円未満　2．３～５万円未満 3．５～７万円未満　4．７～１０万円未満 5．１０～１５万円未満　6．１５万円以上
27 ＊	【問 21 で「2」～「6」を選んだ方】 そのアルバイトはどこで（誰に）紹介してもらいましたか。 〈複数回答可〉	1．徳大生協　2．友人・先輩 3．アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ　4．教員 5．家族　6．自分で開拓 7．その他
28 ＊	【問 21 で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。 〈複数回答可〉	1．ない　2．給料の不払い 3．給料が契約より低かった　4．客とのトラブル 5．解雇　6．雇用者との意見の不一致 7．事故・ケガ　8．その他

D．健康状態について

29 ＊	【全員】 １日の睡眠時間は平均何時間ですか。（休日を除く）	1．４時間未満　2．４～６時間未満 3．６～８時間未満　4．８～１０時間未満 5．１０時間以上
30 ＊	【全員】 現在気になる症状は何ですか。 〈複数回答可〉	1．特にない　2．頭痛・めまい 3．アトピー・アレルギー　4．不眠 5．動悸・不整脈　6．下痢・便秘 7．咳・痰　8．生理痛・生理不順 9．その他(マークカードの裏面の自由記入欄に具体的な症状を書いてください)
31 ＊	【全員】 喫煙について	1．喫煙したことはない　2．ときどき喫煙している 3．毎日喫煙している　4．過去に喫煙していたが，現在はしていない 5．その他
32 ＊	【全員】 飲酒について	1．飲酒はしない　2．たまに飲酒する 3．１週間に１～２日飲酒している　4．１週間に３～４日飲酒している 5．１週間に５日以上飲酒している
33 ＊	【問 32 で「4」～「5」を選んだ方】 １回に飲む量はどのくらいですか。 (日本酒ならコップ１杯(180mℓ)，ビールなら中瓶１本(500mℓ)を１合としてお答えください。)	1．１合未満 2．１合以上２合未満 3．２合以上３合未満 4．３合以上４合未満 5．４合以上５合未満 6．５合以上

E．食事について

34 ＊	【全員】 朝食を取りますか。	1．毎日食べる　2．時々食べる 3．ほとんど食べない
35 ＊	【全員】 昼食を取りますか。	1．毎日食べる　2．時々食べる 3．ほとんど食べない
36 ＊	【全員】 夕食を取りますか。	1．毎日食べる　2．時々食べる 3．ほとんど食べない

37 ＊	【全員】 昼食は主にどこを利用していますか。	1．常三島第１食堂（生協）　2．常三島第２食堂（工学部構内） 3．蔵本会館食堂　4．弁当を購入 5．自宅（下宿）　6．その他
38 ＊	【問 37 で「4」を選んだ方】 どこで食べていますか。	1．教室　2．屋外 3．自宅（下宿）　4．その他
39 ＊	【全員】 学生食堂について感じていることはどれですか。 〈複数回答可〉	1．メニューが少ない　2．昼食時の混雑がひどい 3．値段が高い　4．開店時間が短い 5．場所が不便　6．特にない 7．その他

F．学生生活上の問題点

40 ＊	【全員】 あなたは，大学生活で何を第一においた生活をしていますか。	1．勉強や研究　2．サークル活動 3．趣味・娯楽　4．豊かな人間関係を結ぶこと 5．将来を考えた資格等の取得　6．アルバイト 7．特に重点もなく程々に　8．ただ何となく 9．その他
41 ＊	【全員】 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。 〈複数回答可〉	1．ない　2．経済状態　3．勉学 4．交友・異性関係　5．身体的不調　6．家族関係 7．自分の性格　8．就職や進路　9．生き甲斐や目標 10．その他
42 ＊	【全員】 悩み事は誰に相談しますか。 〈複数回答可〉	1．友人　2．家族　3．教員 4．学生相談室　5．学務(教務)係　6．その他 7．誰にもしない
43 ＊	【全員】 あなたは，クーリング・オフの制度について知っていますか。	1．はい　2．いいえ ※クーリング・オフとは 普通，一度成立した契約は一方的に解消できないが，分割払いの割賦販売，セールスマンによる訪問販売などで勧誘にのせられ，つい不要なものの購入契約をした消費者が，一定の期間（通常８日間）内なら違約金無しに契約の解除（契約申し込みの解除）ができるという制度。
44 ＊	【全員】 あなたは，これまで迷惑行為を受けたことがありますか。 〈複数回答可〉	1．受けたことはない　2．悪徳商法に引っかかった 3．いたずら電話を受けた　4．ストーカーにあった 5．大学内でセクハラを受けた　6．大学内でアカハラを受けた 7．サークルを辞めようとしたが，辞めさせてもらえなかった 8．サークル内でいじめ（嫌がらせを含む）を受けた 9．カルトの勧誘を受けた　10．その他 （※「2」～「10」を選んだ方：マークカードの裏面の自由記入欄に具体的内容を書いてください） ※アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは 大学などで，指導教員等が学生に対し，教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。
45 ＊	【問 44 で「5」又は「6」を選んだ方】 誰に相談しましたか。	1．友人　2．家族　3．教員 4．学生相談室　5．学務(教務)係　6．その他 7．誰にもしない
46 ＊	【全員】 学生相談室を利用したことがありますか。	1．利用したことがある 2．学生相談室があるのは知っているが，利用したことはない 3．学生相談室があるのを知らない
47 ＊	【全員】 あなたは，今年度中に教員と話や質問をしたことがありますか。	1．全くない　2．１回はある 3．２～３回程度したことがある　4．４～６回程度したことがある 5．７回以上したことがある
48 ＊	【全員】 あなたには，親しい教職員や親しい友人はいますか。 〈複数回答可〉	1．親しい教職員がいる 2．親しい友人がいる 3．親しい教職員も親しい友人もいない
49 ＊	【全員】 大学事務室の対応に満足していますか。	1．満足している　2．ほぼ満足している 3．どちらともいえない　4．やや不満足である 5．不満足である

50 ＊	【全員】 あなたは，入学以来，盗難(盗み)，強盗，傷害，痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。 〈複数回答可〉	1．被害に遭ったことはない　2．盗難（盗み） 3．強盗　4．傷害 5．痴漢　6．その他
51 ＊	【問 50 で「2」～「6」を選んだ方】 あなたは，どこで被害に遭いましたか。 〈複数回答可〉	1．大学構内 2．自宅，アパート 3．路上 4．その他

G．修学状況について

52 ＊	【全員】 あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。 〈複数回答可〉	1．地元の大学だから　2．親や親戚に進められたから 3．高校の進学指導による　4．希望する学部・学科があったから 5．就職等将来を考慮して　6．国立大学だから 7．ただ何となく　8．先輩や友人に勧められて 9．その他
53 ＊	【全員】 あなたは所属している学部・学科に満足していますか。	1．満足している　2．ほぼ満足している 3．どちらともいえない　4．やや不満足である 5．不満足である
54 ＊	【全員】 これまでの単位の取得状況はどうですか。	1．全部取得できた　2．ほとんど取得できた 3．半分程度取得できた　4．あまり取得できなかった 5．全く取得できなかった
55 ＊	【全員】 授業によく出席していますか。	1．全部出席している　2．ほとんど出席している 3．出たり出なかったりしている　4．ほとんど出席していない 5．全く出席していない
56 ＊	【問 55 で「3」～「5」を選んだ方】 授業を欠席する理由はどれに当たりますか。 〈複数回答可〉	1．勉学の意欲がわかない　2．授業に魅力がない 3．授業が理解できない　4．その他
57 ＊	【問 56 で「3」を選んだ方】 あなたは，授業内容が理解できなかった場合，どのようにしていますか。 〈複数回答可〉	1．教室で質問する　2．教員に後で個人的に質問する 3．先輩・友人と議論・相談する　4．参考書等で調べる 5．気になるけど何もしない　6．気にしない 7．その他
58 ＊	【全員】 あなたは，受講している授業に満足していますか。	1．満足している　2．ほぼ満足している 3．どちらともいえない　4．やや不満足である 5．不満足である
59 ＊	【問 58 で「3」～「5」を選んだ方】 授業が満足できない理由は何ですか。 〈複数回答可〉	1．授業内容が難し過ぎて理解できない　2．授業内容がつまらない 3．教員の教え方に工夫が足りない 4．受講者が多すぎて精神集中できない　5．休講が多すぎる 6．試験・レポートが多すぎる　7．単位認定が厳しすぎる 8．その他
60 ＊	【全員】 あなたは，1日平均何時間ぐらい授業の予習・復習をしていますか。 ただし，試験期間中は除いてください。	1．1時間未満 2．1時間以上～2時間未満 3．2時間以上～3時間未満 4．3時間以上～4時間未満 5．4時間以上～5時間未満 6．5時間以上
61 ＊	【全員】 あなたは，カンニングをしたことがありますか。	1．はい 2．いいえ

62 ＊	【全員】 オフィスアワーを利用したことがありますか。	1．利用したことがある 2．オフィスアワーがあるのは知っているが，利用したことはない 3．オフィスアワーがない 4．オフィスアワーについて知らない
63 ＊	【問62で「2」を選んだ方】 オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。	1．講義内容を充分理解できるのでその必要がない 2．オフィスアワーの時間が短く利用しにくい 3．オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる 4．教員に相談するのが面倒である 5．講義の理解は充分ではないが，どのように質問してよいかが分からない 6．その他
64 ＊	【全員】 図書館を利用していますか。	1．毎日　2．週2，3回程度　3．週1回程度 4．月2，3回程度　5．月1回程度　6．利用しない 7．その他
65 ＊	【問64で「6」以外を選択した方】 図書館を利用する主な目的は何ですか。 〈複数回答可〉	1．図書等の貸し出し　2．図書等の閲覧やコピー 3．自習　4．グループ研究（学習） 5．パソコンの利用　6．気分転換 7．授業等の間の時間調整　8．その他

H．課外活動について

66 ＊	【全員】 学内外のサークル（以下同好会を含む）に加入していますか。（文化系及び体育系サークルの両方に加入している人は，主として活動している方に回答してください）	1．学内の文化系サークルに加入している 2．学内の体育系サークルに加入している 3．学外の文化系サークルに加入している 4．学外の体育系サークルに加入している 5．以前加入していたが現在は加入していない 6．加入したことがない
67 ＊	【問66で「1」～「4」を選んだ方】 サークルでの活動状況はどうですか。	1．かなり熱心に活動している 2．まあまあ熱心に活動している 3．どちらともいえない 4．あまり活動していない 5．ほとんど活動していない 6．その他
68 ＊	【問66で「1」～「4」を選んだ方】 サークルに加入した主な動機は何ですか。	1．サークルの活動内容に魅力があったから 2．集団活動に魅力があったから　3．友人を得るため 4．先輩・友人に勧められたから　5．学生生活を豊かにするため 6．健康増進のため　7．自分の特技を伸ばすため 8．自分の短所を補うため　9．その他
69 ＊	【問66で「5」，「6」を選んだ方】 サークルに加入していない主な理由は何ですか。	1．学業の妨げとなる 2．練習がいやである 3．活動するための体力・能力に自信がない 4．個人の自由が束縛される恐れがある 5．集団生活についていけない 6．アルバイトをしているので時間的余裕がない 7．通学に時間がかかるので時間的余裕がない 8．個人の金銭的負担が多すぎる 9．魅力的なサークルがない 10．特に理由はないが何となく
70 ＊	【全員】 新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について，どのように考えていますか。	1．必要だと考えており積極的に参加している 2．必要だと思うがあまり参加していない 3．どちらでもいい 4．なくてもいい
71 ＊	【全員】 あなたは今年の大学祭に参加しましたか。	1．はい 2．いいえ

72 ＊	【全員】 あなたは，大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。	1．個人でしたことがある 2．団体（組織）に入ってしたことがある 3．ない

Ⅰ．進路・就職について

73 ＊	【全員】 進路を考える上での情報入手手段は何ですか。 〈複数回答可〉	1．指導教員　2．就職担当教員 3．先輩・知人　4．直接会社に照会 5．就職情報誌・新聞・マスコミ　6．家族等 7．大学内資料　8．インターネット 9．キャリア支援室の情報　10．その他
74 ＊	【全員】 就職希望ですか。進学希望ですか。	1．就職 2．進学 3．その他
75 ＊	【問74で「1」を選んだ方】 就職先選択で重視するものは何ですか。 〈複数回答可〉	1．収入 2．就職先の将来性・安定性 3．就職先の社会的評価 4．能力を発揮できること 5．勤務地の地理的条件 6．研究評価をしてくれるところ 7．先端技術を駆使しているところ 8．人間関係の良いこと 9．その他
76 ＊	【問74で「1」を選んだ方】 就職に際して，会社等の情報をどのように入手しましたか。 〈複数回答可〉	1．就職担当教員 2．キャリア支援室の情報又は就職相談員 3．新聞・就職情報誌 4．インターネット　5．ダイレクトメール 6．直接会社等に照会　7．会社等説明会 8．先輩・知人　9．親・親戚 10．その他
77 ＊	【問74で「1」を選んだ方】 希望職種は何ですか。 〈複数回答可〉	1．大学･官公庁の教育･研究職　2．１以外の公務員 3．技術職　4．企業等の研究職 5．総合職・営業職　6．事務職 7．教育職　8．専門職(医師･看護師等) 9．マスコミ関係　10．その他
78 ＊	【全員】 大学が行う就職セミナーに参加しますか。	1．参加する 2．時間があれば参加する 3．参加しない
79 ＊	【全員】 本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。	1．現在も利用している 2．以前に利用したことがある 3．利用したことがない

ご協力ありがとうございました

第１章　住居・通学について

１－１　住居区分（図１－１）

全体として最も多いのがアパートとマンション（56%），次いで自宅（27%）となっている。他に間借り（下宿）14%，学生寮２%，親戚・知人宅１%となっている。全体としては前回調査と比べて変動は小さい。学部別に見ると，総合科学部の自宅割合が高く，薬学部でその割合が小さい。前回の調査で歯学部の自宅割合が有意に増えていた（前々回調査19%，前回調査30%），今回の調査でも28%となっており，高い値を維持している。歯学部の受験者のうち県内出身者の割合が総合科学部，医学部についで高い値になっていることと相関があることから，徳島県出身者の割合が増加したことによる変動であると考えられる。

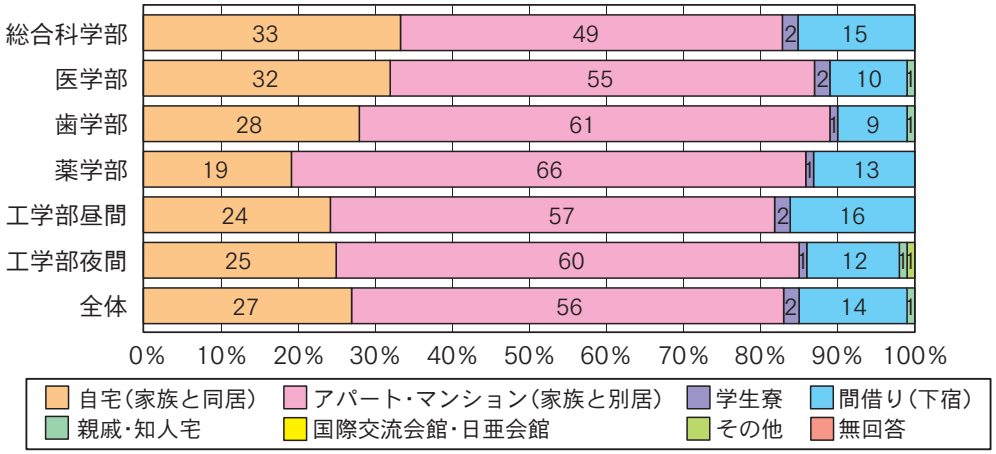

図１－１　住居区分（問５）

１－２　１か月の家賃（図１－２）

全体として５万円未満の割合が89%であり，前回の調査から３ポイント増加している。年とともに家賃に対する支出がわずかずつ減少する傾向にある。

学部ごとに家賃支出の割合が大きく異なり，総合科学部と工学部では４万円未満の物件の割合が多い

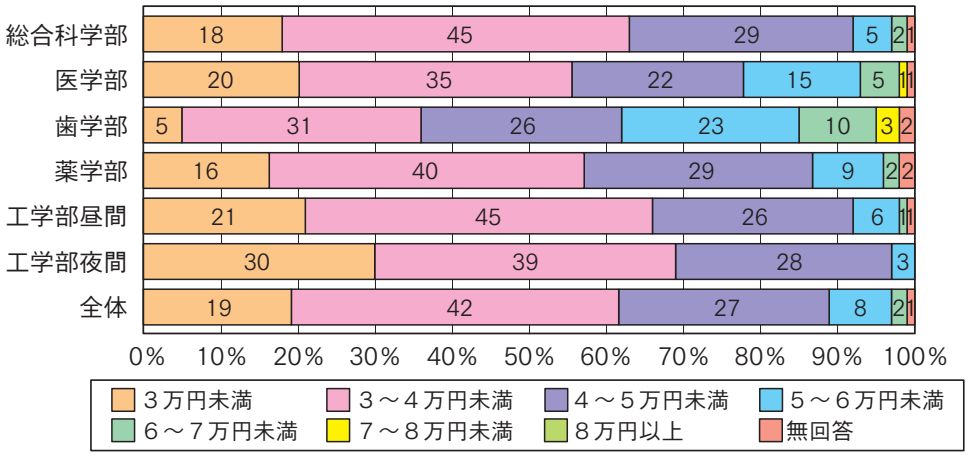

図１－２　１か月の家賃（問６）

が，医学部，歯学部，薬学部では４万円以上の物件が半数を超えるか，あるいは半数に近い。これは，蔵本周辺の家賃相場や学生の家庭状況を反映している可能性もある。歯学部学生の家賃支出は他の蔵本の学部に比べても高い傾向にあるが，主に５万円～６万円の価格帯が他の学部に比べて多い傾向にあることがその要因となっている。

１－３　住居満足度（図１－３①，図１－３②）

自宅や学生寮等以外の，アパート等に住んでいる自宅外通学者における住宅満足度では，「満足している」が43%あり，「ほぼ満足している」が35%で合計は78%となる。不満を感じている場合は，その半数が「狭い」ことをあげているが，前回調査に比べ，女子学生の「狭い」という不満が半減していることが注目される。これは女子学生の住宅選定において広さが重要視されたことが影響しているかと思われる。もうひとつ，不満の原因に「周りの環境が良くない」という項目が全体で1.3倍に増加し，男子でも全体の二番目，女子では一番多い不満内容となっていることが懸念される。周りの環境については詳細な不満を聴きとる必要があると考えられる。住宅を斡旋する業者，とりわけ大学生協に対しては，物件情報の積極的な開示と，個別学生のニーズにより耳を傾けてもらうことを期待したい。

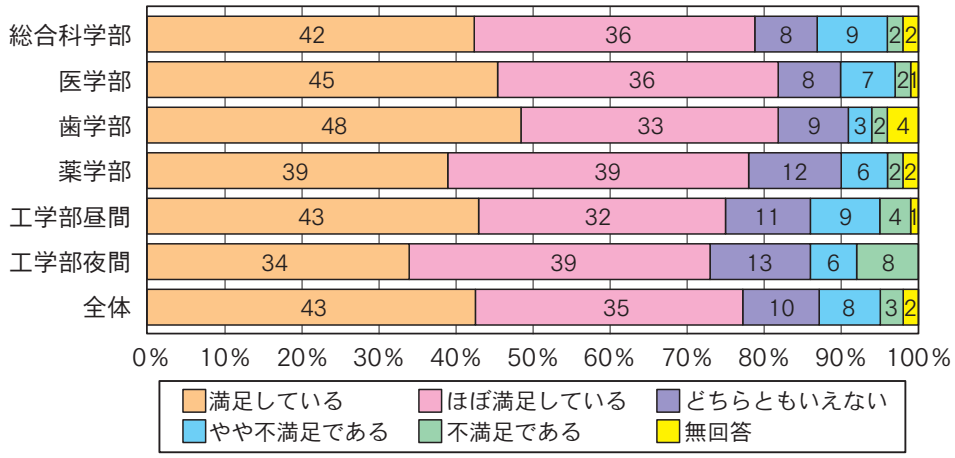

図１－３①　住宅満足度（問７）

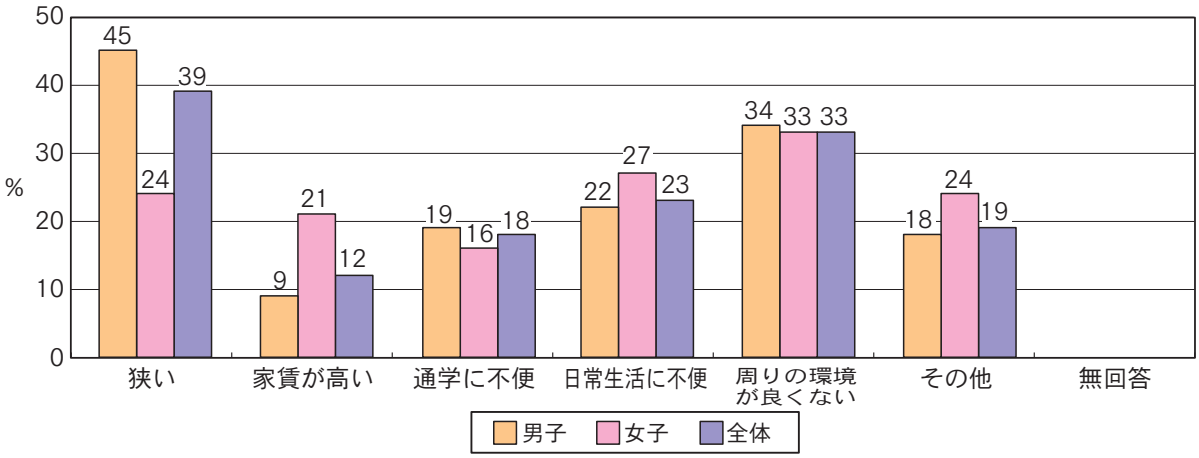

図１－３②　住居の不満足理由（問８）

（※問８は複数回答のため合計は100%にはならない。）

１－４　住居（部屋）の紹介･斡旋者（図１－４）

学生寮を除く自宅外通学者の住宅斡旋は，全体では徳島大学生協が44%，不動産業者が46%となっており，大学生協の果たす役割が非常に大きい。個別にみると，医学部と歯学部については不動産業者の斡旋割合が高い。これはアンケート項目１－２で医学部，歯学部の学生の場合，家賃が比較的高額な物件の割合が高いことと相関していると考えられる。いずれにせよ，住居の紹介・斡旋において徳大生協のシェアが高いことから，生協に対しては，前項の「住居の不満足理由」に関連する情報の提供など，より積極的な協力を期待したい。

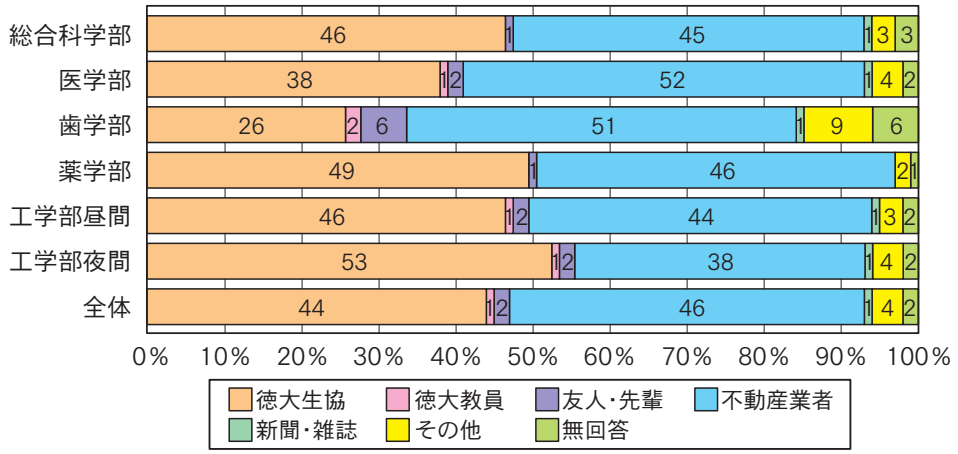

図１－４　住居（部屋）の紹介・斡旋者（問９）

１－５　通学方法（図１－５①，図１－５②）

全体としては自転車が72%で主要な通学手段であることに変化はない。徒歩，バス･ＪＲ，バイク，自動車通学については，いずれも６～８％である。男女別にみると男子では自転車，バイク，徒歩，自動車，バス・ＪＲと続き，女子は自転車，バス・ＪＲ，自動車，徒歩，バイクの順である。学部別では，県内出身者の多い総合科学部でバス・ＪＲの利用者がやや多い（13%）。

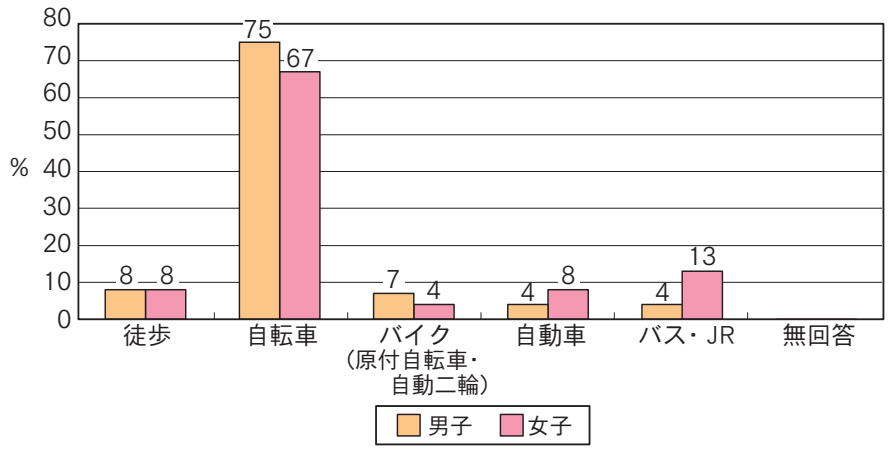

図１－５①　通学方法（男女別）（問10）

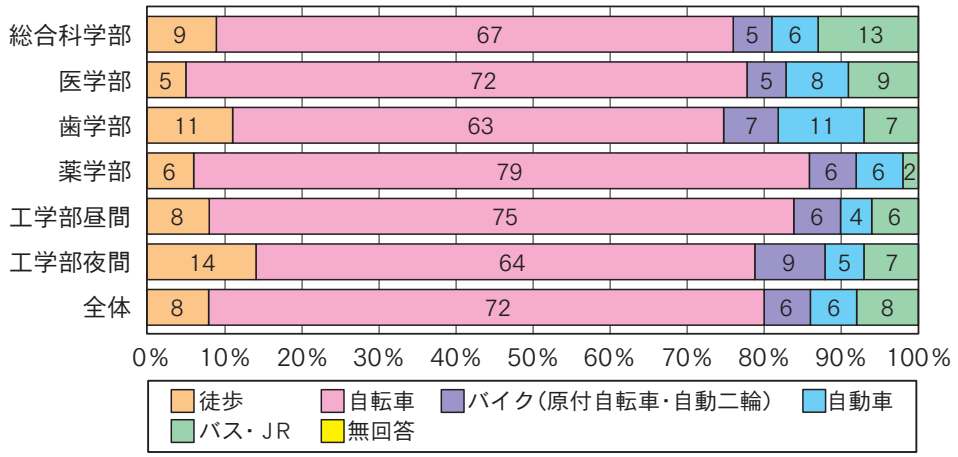

図１－５②　通学方法（学部別）（問 10）

１－６　通学時間（図１－６①，図１－６②）

通学時間 15 分未満が 69％と最も多く，15 分～ 30 分未満をあわせると 83％となり，ほとんどの学生は通学時間が 30 分未満と短い。なお通学時間が 15 分を超えるとする回答では，女子の割合が男子より高い傾向が，引き続き認められる。女子学生が自宅から通学する割合が多いことと相関があると考えられる。

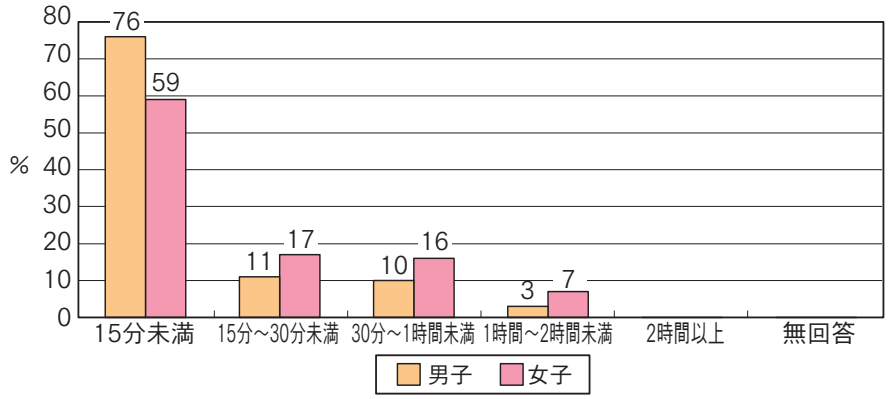

図１－６①　通学時間（男女別）（問 11）

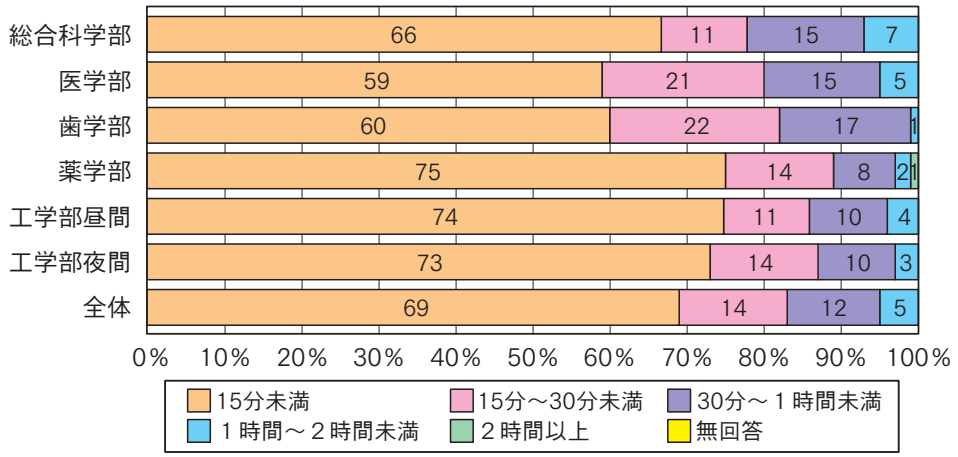

図１－６②　通学時間（学部別）（問 11）

1－7　通学中の交通事故（図1－7①，図1－7②）

交通事故を起こしたか被害に遭った学生の割合が前回の調査とほぼ同じ10%にのぼり，少ないとはいえない。平成27年6月に改正道路交通法が施行され，自転車に対する規制が厳格化されるようになっていることもあり，今後さらに自転車通学者に対する安全指導を強化すべきであろう。

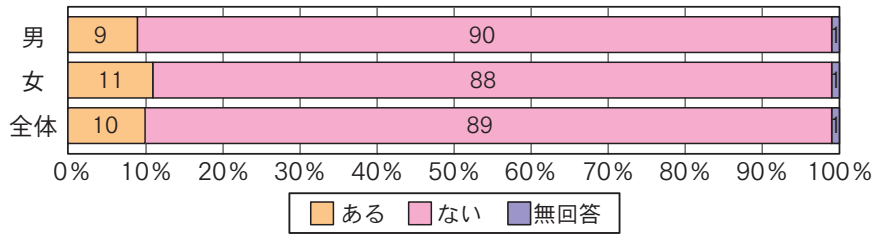

図1－7①　通学中の交通事故（男女別）（問12）

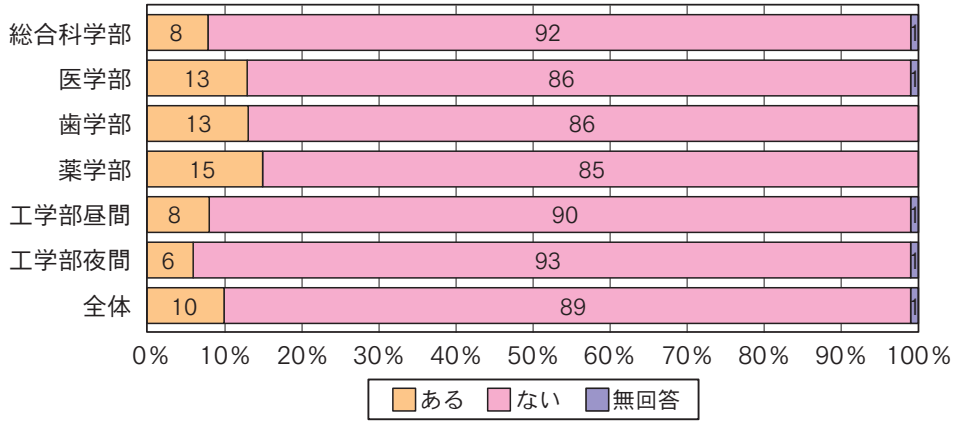

図1－7②　通学中の交通事故（学部別）（問12）

第２章　収入・支出について

２－１　家庭の年収（図２－１）

家庭の年収について，大学全体では250万円未満（８％），250～500万円（21％）と500～750万円（32％）までで６割を占め，ついで750～1,000万円（19％），1,000～1,500万円（10％），1,500万円以上（３％）である。前回の調査と比べても大きな変化はなく，日本全体の景気の低迷が影響していると考えられる。

学部別にみると歯学部や薬学部，医学部学生の家庭は高収入である。しかし歯学部の14％は年収250万円未満である。工学部夜間以外の学部では年収500～750万円の家庭の割合が最も多い。一方，工学部夜間は年収250～500万円の家庭の割合が最も多く，250万円未満の家庭も17％と他学部に比べ多く，前回調査の結果（16％）とほぼ同様である。

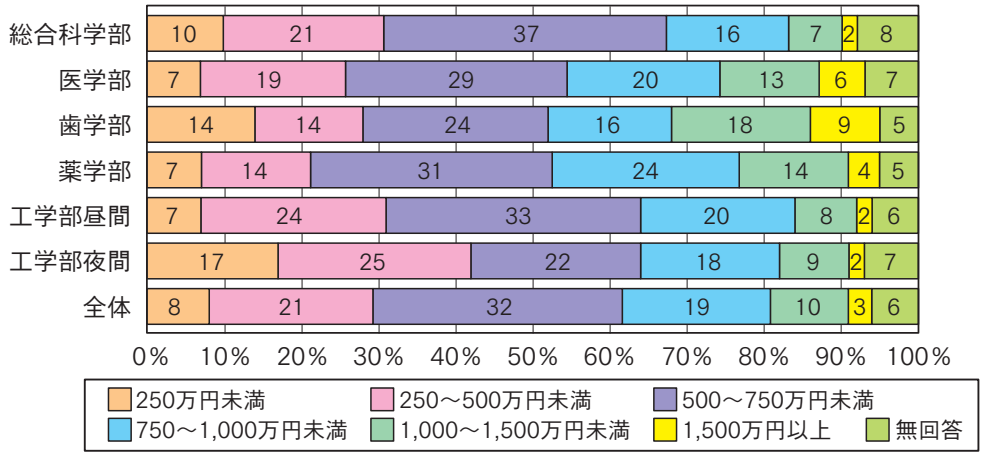

図２－１　家庭の年収（問13）

２－２　授業料の免除について（年収が500万円未満の家庭）

（図２－１①，図２－１②）

授業料の免除状況について，年収が250万円未満の家庭では，「授業料免除は知っているが申請していない」が前回調査，前々回調査と同じく41％であり，「授業料免除を受けている」割合は41％で，前回調査よりも３％，前々回調査よりも６％増加している。また，「申請したが不許可だった」が８％であった。収入的には授業料免除対象であっても，成績が加味されて不許可になる場合がある。収入を得るためにアルバイト等に多くの時間を費やし，勉学に専念できず，結果，成績不振となり，免除不許可になるといった負のサイクルの可能性が考えられる。成績基準の緩和も再検討すべきと考える。「授業料免除制度を知らなかった」割合は８％で，前回調査７％，前々回調査８％とほぼ同じであった。知らないことで学生は不利益を被るため，授業料免除制度について学生に周知させる努力が必要である。

年収が250～500万円未満の家庭では，「授業料免除は知っているが申請していない」が59％であり，「授業料免除を受けている」割合は20％で，「申請したが不許可だった」が８％であった。「授業料免除制度を知らなかった」割合は12％で，前回調査11％，前々回調査12％とほぼ同じであり，学生に対する周知の徹底が必要である。

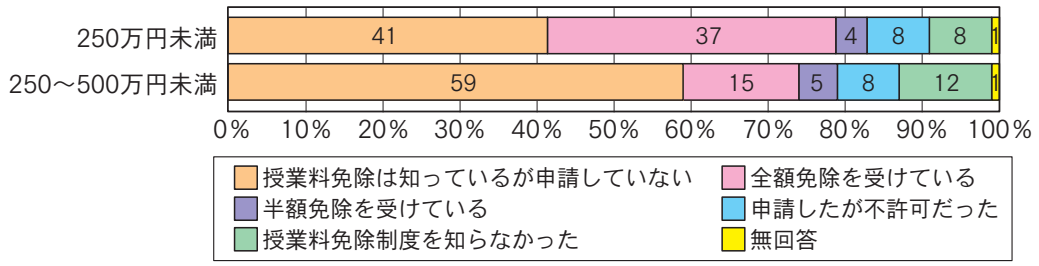

図２－２①　年収 500 万円未満の家庭の授業料免除状況（問 14）

学部別では，いずれの学部でも「授業料免除は知っているが申請していない」が 53 ～ 56%であり，ほぼ同じ割合である。「授業料免除を受けている」割合が多いのは薬学部の 32%で，他学部は 25 ～ 28%とほぼ同じである。「申請したが不許可だった」割合は，歯学部が 14%，薬学部が 10%と多かった。「授業料免除制度を知らなかった」のは薬学部で２%，歯学部で５%と低く，制度の周知徹底がされている。この理由を検証し，他学部にも導入することが必要である。

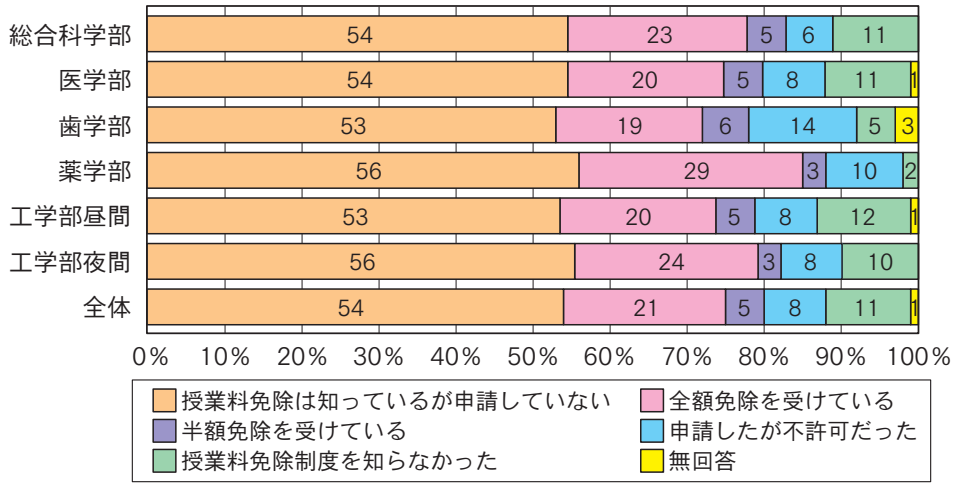

図２－２②　年収 500 万円未満の家庭の授業料免除状況（問 14）

２－３　１か月の平均収入額【自宅外通学者】（図２－３）

この項目は自宅外通学者のみを対象にしている。全体では１か月の平均収入額（保護者等からの援助を含む）の最も多い区分は５～７万円未満の 24%で，続いて３～５万円未満の 23%，７～ 10 万円未満の 22%，10 ～ 15 万円未満の 14%であり，この４つの区分で（３～ 15 万円未満）で 83%を占める。３万円未満の区分も 13%，15 万円以上の区分は３%である。前回調査では３万円未満は 15%，３～ 15 万円未満は 79%，15 万円以上は３%であり，今回の調査では３万円未満の割合がわずかに減少し，３～ 15 万円未満が微増している。

学部別では，医学部，歯学部，薬学部で７～ 20 万円未満の区分の割合が高く，それぞれ 46%，41%，44%である。とくに歯学部では 20 万円以上の区分が２%である一方，３万円未満の区分も 19%である。工学部昼間，工学部夜間では５万円未満の区分がそれぞれ 37%である。

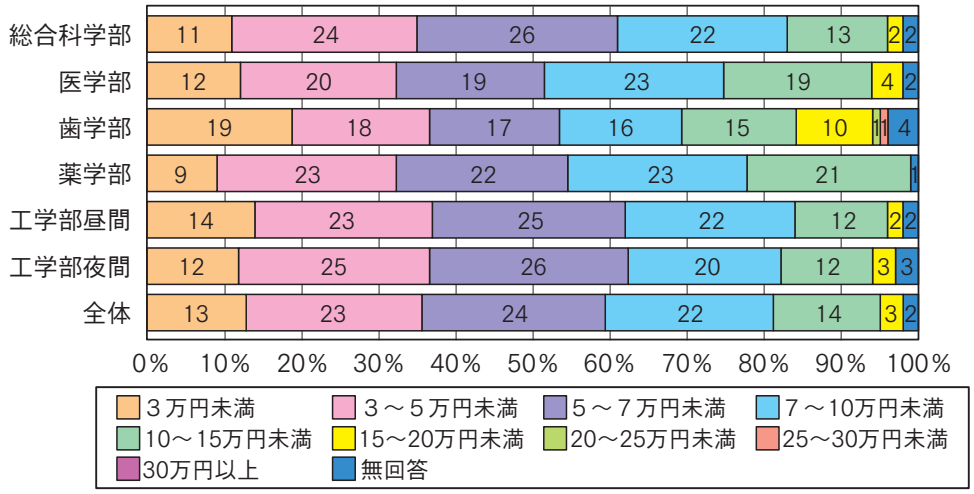

図２－３　１か月の平均収入額【自宅外通学者】（問 15）

２－４　保護者からの援助額【自宅外通学者】（図２－４）

この項目も自宅外通学者のみを対象にしている。大学全体で，保護者からの援助額で最も多い区分は３～５万円未満の 35％で，前回調査の 29％より増加した。続いて３万円未満の 20％，５～７万円未満の 17％で，前回調査とほぼ同じである。また，「援助が全くない」学生は 12％で，前回調査と同じである。10 万円以上援助を受けている学生は５％で，前回調査よりもわずかに減少した。

学部別では，医学部，歯学部，薬学部で７万円以上保護者から援助を受けている学生が，それぞれ 23％，30％，27％であり，他学部に比べ多い。３万円未満の援助の区分が多いのは工学部夜間の 26％と工学部昼間の 23％で，前回調査の 23％，24％とほぼ同じだった。さらに，工学部夜間では「全く援助を受けていない」学生の割合が前回調査の 30％から今回 19％と大きく減少した。これは，景気の回復傾向によるものかも知れない。

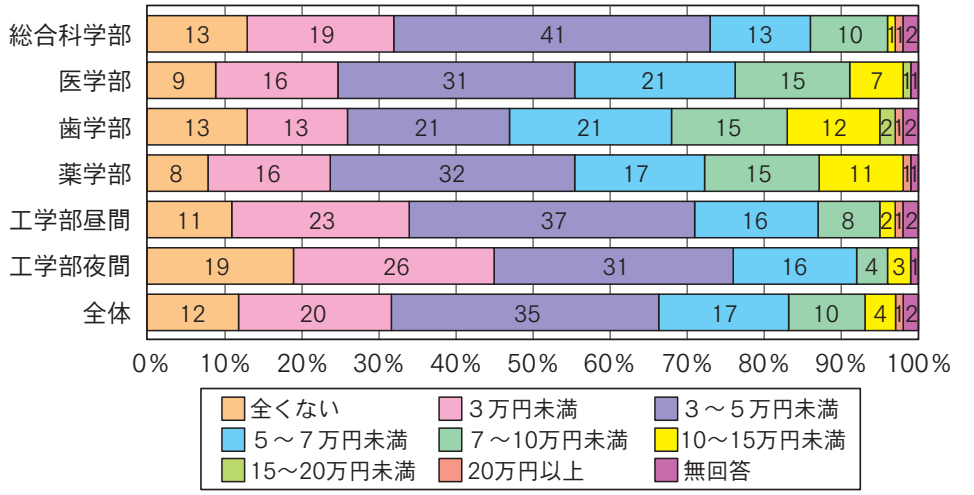

図２－４　保護者等からの援助額【自宅外通学者】（問 16）

２－５　１か月の平均支出額【自宅外通学者】（図２－５）

この項目も自宅外通学者のみを対象にしている。大学全体で，１か月の平均支出額（授業料支出は除く）で，最も多い区分は３～５万円未満の34％で，前回調査（30％）に比べやや増加した。続いて５～７万円未満の26％，３万円未満の16％である。これらの３つの区分を合わせる（７万円未満）と76％になり，前回調査（75％）とほぼ同じである。10万円以上の区分は７％で前回調査（８％）とほぼ同じであり，一方，３万円以下の区分は16％で前回調査（19％）よりもやや減少している。

学部別では，医学部，歯学部，薬学部で１か月に７万円以上支出している学生は，それぞれ29％，41％，32％であり，他学部よりも多い。総合科学部と工学部昼間は，５万円未満の平均支出額の学生の割合がそれぞれ53％と55％で，他学部に比べやや多い。とくに総合科学部では，３万円未満の割合が前回調査の26％から今回16％へ減少した。それでも，学生の１～２割弱は支出を切り詰めていると考えられ，これらの学生への何らかの援助が必要と思われる。

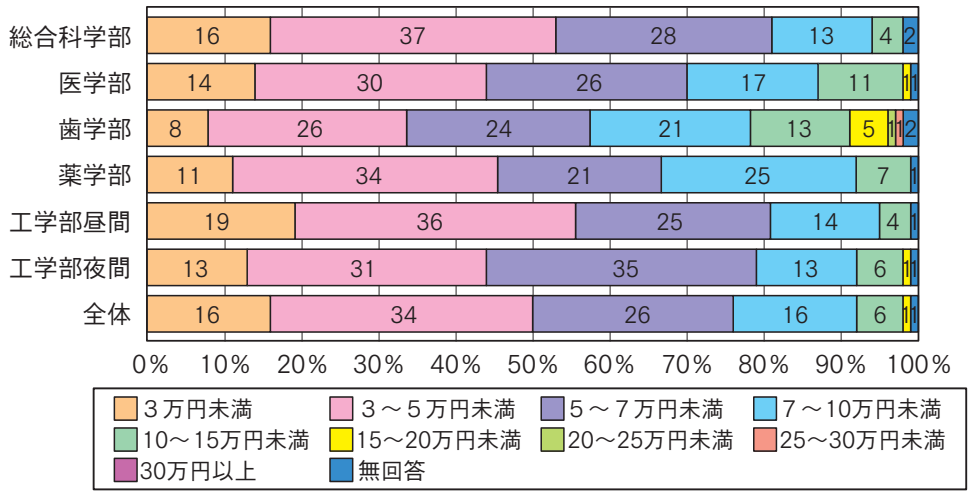

図２－５　１か月の平均支出額【自宅外通学者】（問17）

２－６　１か月の平均の食費【自宅外通学者】（図２－６）

自宅外通学者対象の１か月の平均の食費は，大学全体では，「２～３万円未満」の区分が43％で最も多く，「２万円未満」が32％，「３～４万円未満」が19％である。これは前回調査の結果（それぞれ41％，

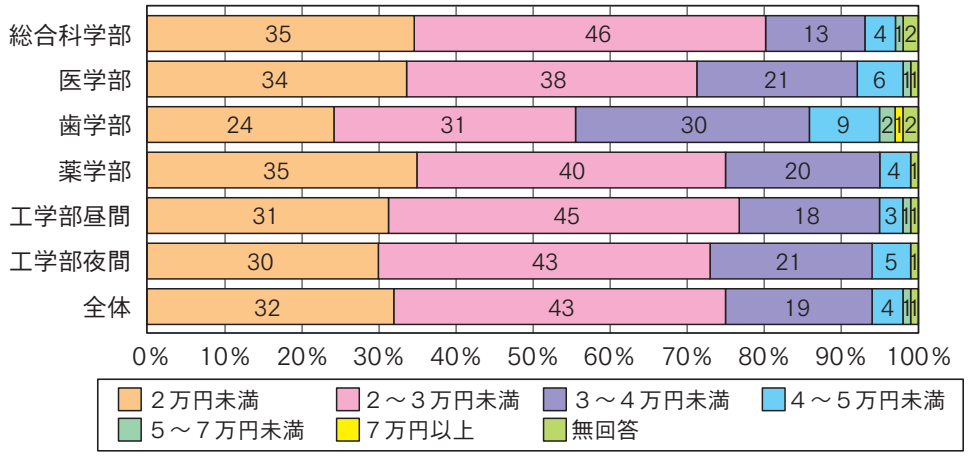

図２－６　１か月の食費【自宅外通学者】（問18）

35%，17%）と同じ傾向であった。３つの区分の割合を合わせると，94%は１か月の平均の食費が４万円未満である。

学部別にみると，歯学部は食費３万円以上が42%で他学部と比べて割合が高く，食費を多く支出していることが分かる。歯学部以外の学部は，大学全体の結果と類似した傾向である。

近年は，食費を削って他の支出へ回す学生も多く，また，栄養食品に頼る学生も増加している。健康な学生生活を送るには，きちんとした食事を摂ることが必要である。蔵本キャンパスも常三島キャンパスも食堂が改装され，提供する食事内容は充実したので，大いに利用して欲しいと思う。また，食費の変化は今後とも注意してみていく必要がある。

２－７　経済状況（図２－７）

この項目からは自宅通学者も含めて全員が対象である。大学全体では，「普通（あまり不自由を感じない）」の区分が最も多く49%で，続いて，「やや苦しい」の区分が26%，「ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ）」が15%である。これは前回調査の結果（それぞれ49%，25%，16%）と同じ傾向であった。また，「大変苦しい（定期的なアルバイトが必要である）」と回答した学生は８%で，経済的に困っている学生が約１割いることが分かる。

学部別では，工学部夜間以外の学部では「ゆとりがある」「普通」と回答した学生の割合は64～67%である。一方，工学部夜間で「大変苦しい」と回答した学生は17%で，前回調査（20%）よりもわずかに減少したが，他学部（５～９%）の２，３倍である。

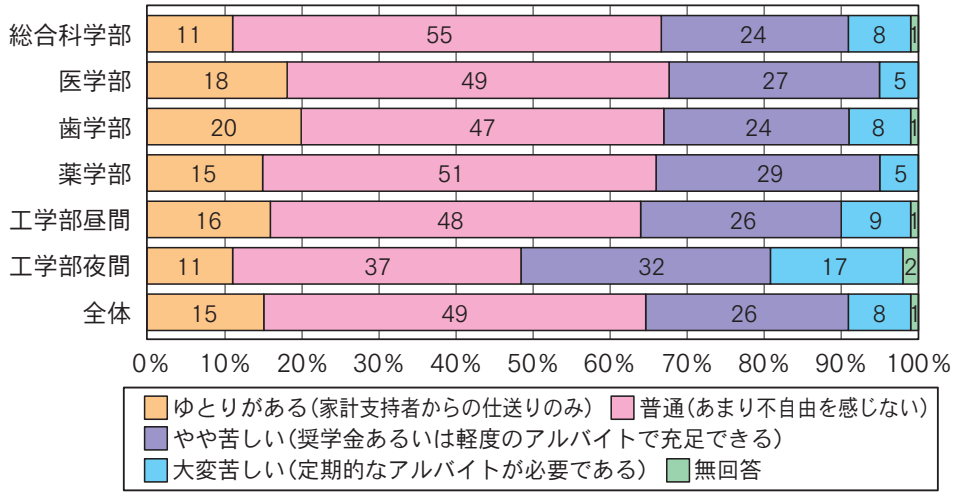

図２－７　経済状況（問19）

２－８　奨学金（図２－８）

大学全体では，「現在受給中であり，受給の継続を希望する」が35%であり，これに「現在受給中であるが，更に増額を希望する」１%と「現在受給していないが，新たに受給を希望する」５%を加えると，合計で41%になる。すなわち，４割以上の学生は奨学金の受給を今後も希望している。

学部別では，工学部夜間，工学部昼間と総合科学部で受給希望者は多く（それぞれ47%，44%，43%），医学部や歯学部では希望者はやや少ない（それぞれ37%，38%）。

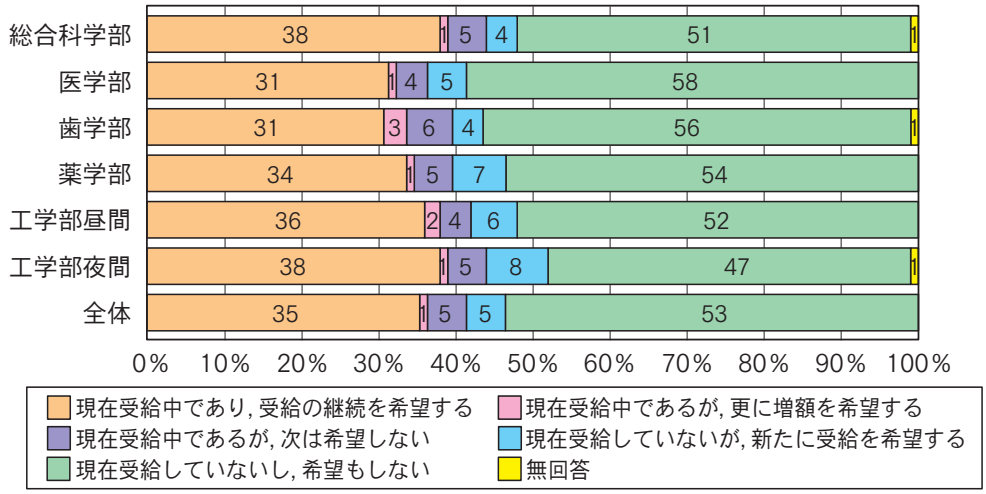

図２－８　奨学金（問 20）

２－９　１週間のアルバイト従事日数（図２－９）

大学全体では，アルバイトをしていない学生の割合は 37%，している学生の割合は 63%であり，６割以上の学生がアルバイトをしていることが分かる。また，前回調査（40%，59%）に比べて，アルバイトをしている学生がわずかに増加した。従事日数別の学生の割合は，２日が 20%，３日が 19%，１日が 12%，４日が９％で，５日以上が３％であり，前回調査とほぼ同じ傾向である。

学部別では，アルバイトをしている学生は，総合科学部で 71%と最も多く，薬学部で 51%と最も少なかった。

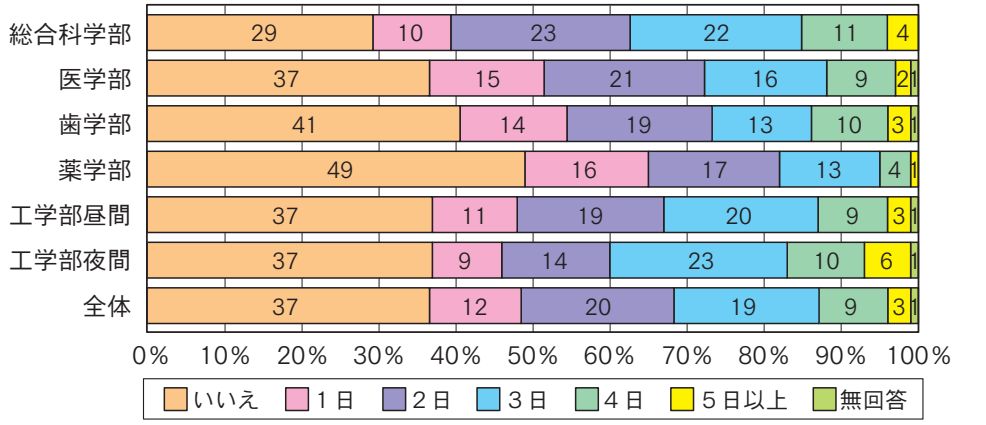

図２－９　アルバイト従事日数（問 21）

２－10　１週間のアルバイト従事時間数（図２－10）

問 21 で，アルバイトをしていると回答した学生に１週間のアルバイトの平均従事時間（移動に要する時間も含む）について尋ねた。大学全体では，５～10 時間未満の割合が 30%で最も多く，次いで５時間未満 22%，10～15 時間未満 21%，15～20 時間未満 15%，20～25 時間未満８％，25 時間以上５％であった。前回調査の結果（それぞれ 28%，23%，22%，14%，7%，4%）とほぼ同じ傾向であった。５時間以上の割合は合計すると 78%となり，アルバイトをしている学生の４人に３人が，週平均５時間以上のアルバイトをしていることが分かる。

学部別では，工学部夜間で20時間以上が23%で，他学部に比べ多いが，このコースの特性によるものと思われる。医学部，歯学部と薬学部では10時間未満の割合が58%，63%，66%であり，他学部と比較してアルバイト従事時間はやや少ない。

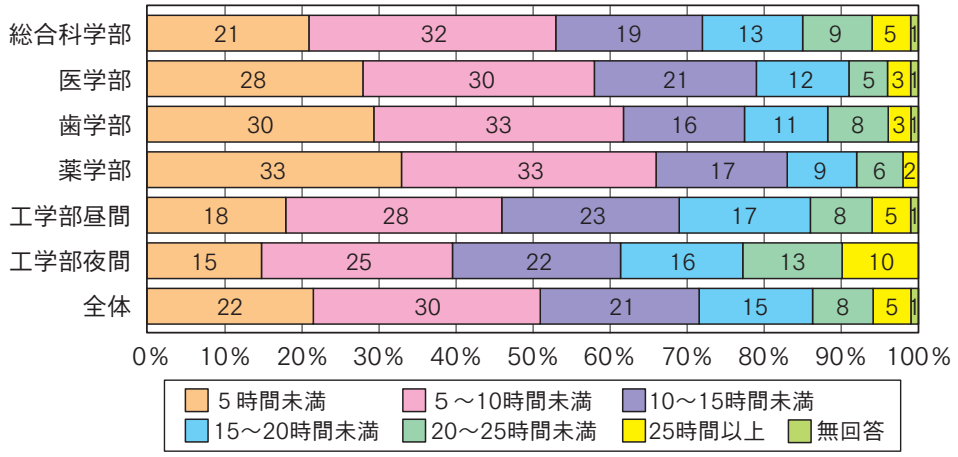

図２－10　１週間のアルバイト従事時間数（問22）

２－11　アルバイトと勉学（図２－11）

アルバイトによって勉学に支障が生じているかを尋ねたところ，大学全体では，「支障は生じていない」と答えた学生は81%で，前回調査（77%）や前々回調査（78%）よりも微増した。一方，「支障が生じている」と答えた学生は14%で，前回調査（16%）や前々回調査（17%）よりもわずかに減少した。今回の調査ではこの設問の回答と２－１家計の年収は対応させていない。今後は，両者の関係性をさらに詳細に調べる必要があると考える。

学部別では，工学部夜間で「支障が生じている」と答えた学生が32%で，他学部と比べて多く，また，前回調査（25%）よりも増加している。コースの特性で済ませず，何らかの対処が必要と考える。

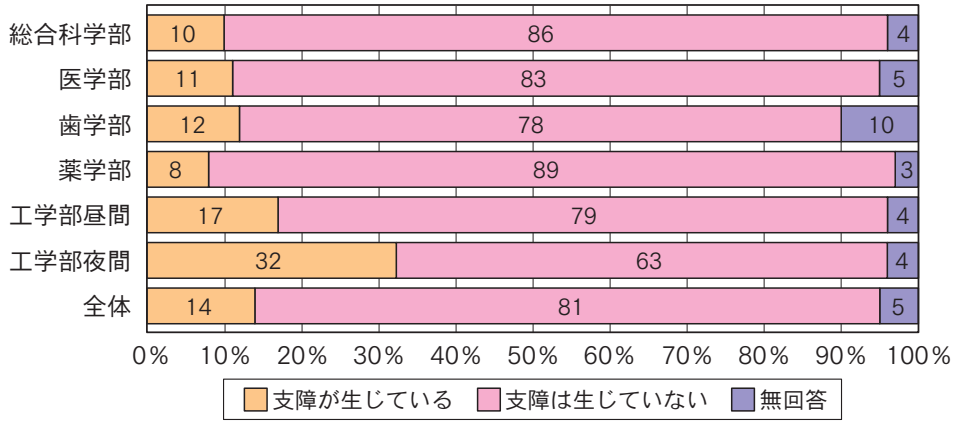

図２－11　アルバイトと勉学（問23）

２－12　アルバイトの目的（図２－12）

アルバイトの目的（複数回答可）について，全体では，「日常の娯楽・嗜好品等のため」が54%，「生活費や学資のため」が43%で，この２つの割合が高い。その他は，「レジャー・旅行費のため」25%，「社会体験のため」20%などであり，これらの傾向は前回調査（それぞれ50%，45%，27%，18%）と

ほぼ同じである。今回の調査では，この設問の回答と２－７経済状態は対応させていない。今後は，両者の関係性をさらに詳細に調べる必要があると考える。

男女ともに「日常の娯楽・嗜好品等のため」が最も割合が多いが，男女の違いとして，男子では「生活費や学費のため」（46%）の割合が多く，女子では「レジャー・旅行費のため」（32%）と「社会体験のため」（25%）の割合が多い。

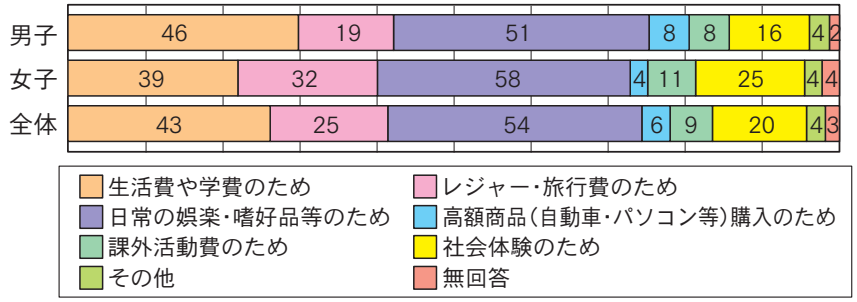

図２－12　アルバイトの目的（問 24）

（※問 24 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

２－13　アルバイトの種類（図２－13）

アルバイトの種類（複数回答可）は，全体では「飲食店等手伝い」が 41%で最も多く，続いて「家庭教師・学習塾講師等」が 31%，「受付・接客」が 19%である。これは前回調査の結果（それぞれ 36%，33%，21%）とほぼ同じ傾向である。

男女別でも全体と同じ傾向で，この３種類の割合が高い。

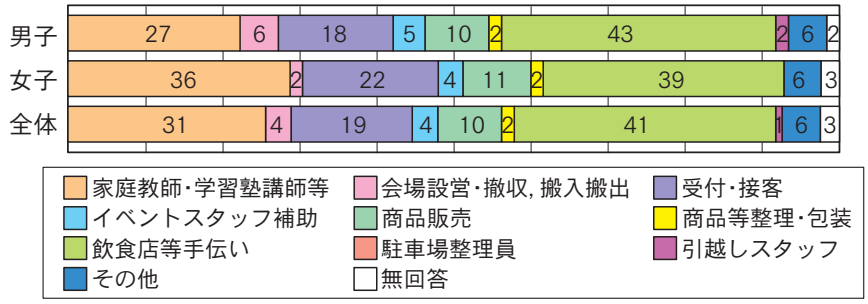

図２－13　アルバイトの種類（問 25）

（※問 25 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

２－14　アルバイト収入（図２－14①，図２－14②）

アルバイトによる学生の１ヶ月間の平均収入は，大学全体では，「３～５万円未満」が 36%で最も多く，次いで「３万円未満」33%，「５～７万円未満」19%，「７～10 万円未満」６%となっている。「10 万円以上」も１%の割合である。この傾向は，前回調査の結果（それぞれ 36%，32%，17%，8%，１%）とほぼ同じであった。

学部別では，工学部夜間でアルバイトをしている学生の 38%が「５万円以上」の収入を得ており，これはコースの特性によるものと思われる。しかし，前回調査の結果（56%）よりも大きく減少した。一方，医学部，歯学部，薬学部では「３万円未満」の収入を得ている学生の割合はそれぞれ 42%，38%，53%で，アルバイト収入は少ない。

男女間で比較すると，女子は「３万円未満」の割合が 39%で男子（28%）よりも多く，男子は「５万

円以上」の割合が31％で女子（20％）に比べて多い。これは，男子は，アルバイトの目的（２－12）の違いが関連している可能性が考えられる。

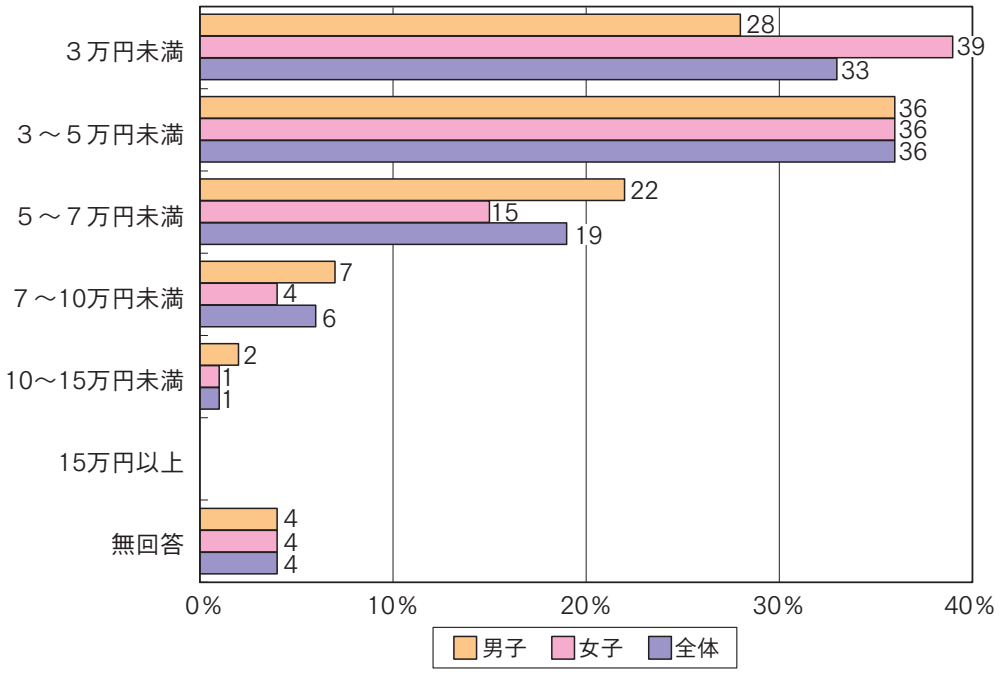

図２－14①　アルバイト収入（男女別）（問 26）

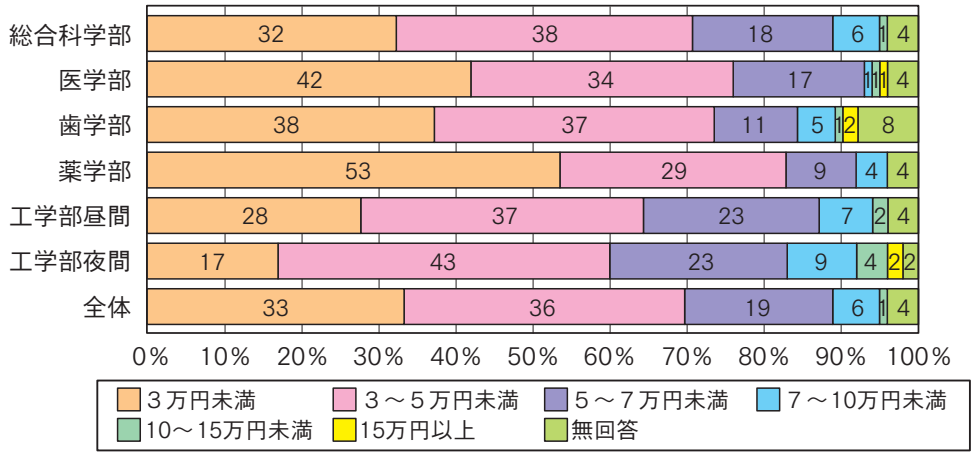

図２－14②　アルバイト収入（学部別）（問 26）

２－15　アルバイトの紹介者（図２－15）

アルバイトの紹介者 (複数回答可) は，大学全体では「友人・先輩」が最も多く 45％で，次いで「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」25％，「自分で開拓」18％であり，前回調査の結果（それぞれ 41％，29％，18％）とほぼ同じ傾向であった。「徳大生協」４％，「教員」２％と極めて少ない。

男女別でみても全体と同じ傾向で，男子 , 女子とも「友人・先輩」の割合が最も多く , それぞれ 46％および 44％であった。

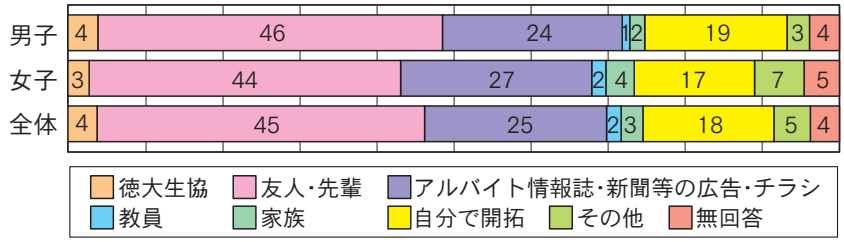

図２－15　アルバイトの紹介者（問 27）

（※問 27 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

２－16　アルバイトのトラブル内容（図２－16）

アルバイトにおけるトラブル（複数回答可）について，「ない」と回答した割合が全体の 75％であった。前回調査では74％，前々回調査では71％であり，トラブルはわずかに減少している。おもなトラブルの内容 (複数回答可) は「客とのトラブル」（７％）や「雇用者との意見の不一致」（５％）などである。トラブルを経験した学生の割合は24％で，アルバイトをしている学生の４人に１人はトラブルを経験していることになり，かなり高い割合と考えられる。学生がアルバイトでトラブルに遭遇しないように，その内容を具体的に把握・検証して，注意喚起する必要があると考える。

学部別では，トラブルを経験した学生の割合は工学部夜間（29％）と工学部昼間（26％）で多く，医学部（21％），歯学部（20％）と薬学部（21％）で少ない。アルバイトでのトラブルは従事時間の長さに比例して起きると考えられる。

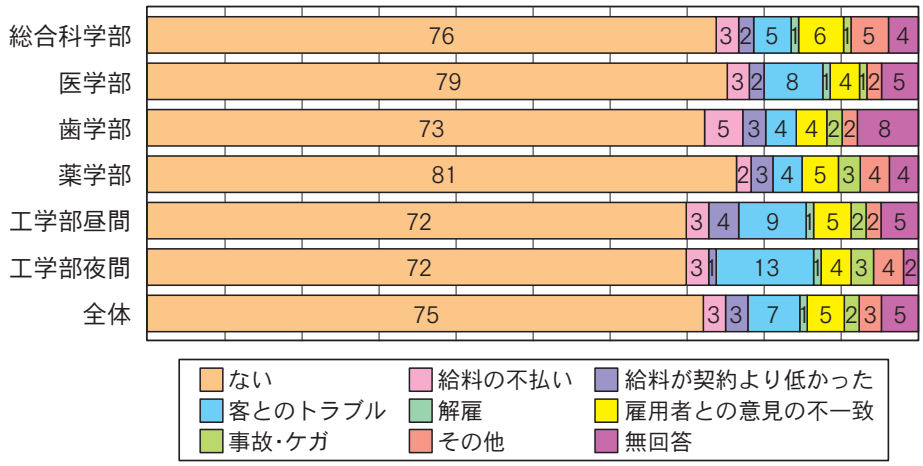

図２－16　アルバイトのトラブル内容（問 28）

（※問 28 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

第３章　健康状態について

３－１　睡眠時間（図３－１①，図３－１②）

健康的な睡眠時間である「６～８時間」が男子54%，女子51%（ともに前回調査48%），「４～６時間」が男子37%（前回調査40%），女子43%（前回調査46%）であり，前回調査より睡眠不足傾向の学生が減少し，望ましい睡眠時間の学生が増えている。一方，男子４%，女子２%は「４時間未満」で前回調査と同様であり，過度の睡眠不足が危惧される。睡眠不足の状態が続くと，心身の変調を引き起こしやすく，活動性の低下や注意力・集中力の低下を招くため，睡眠時間を確保することの重要性を引き続き認識させる必要がある。

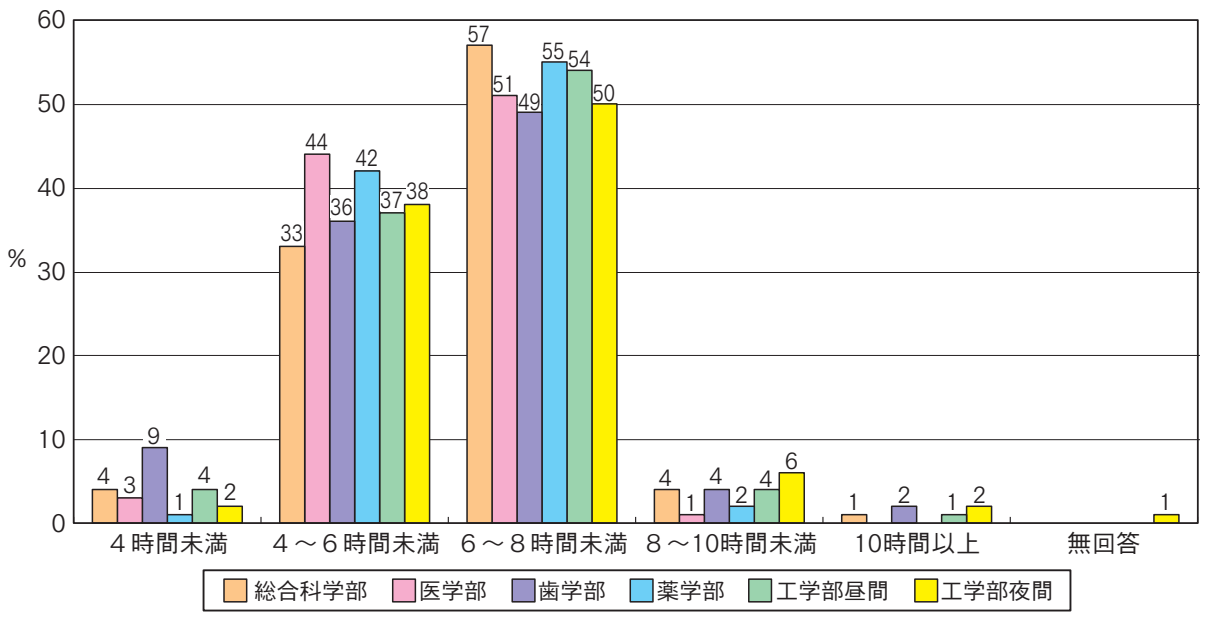

図３－１①　睡眠時間（男子）（問29）

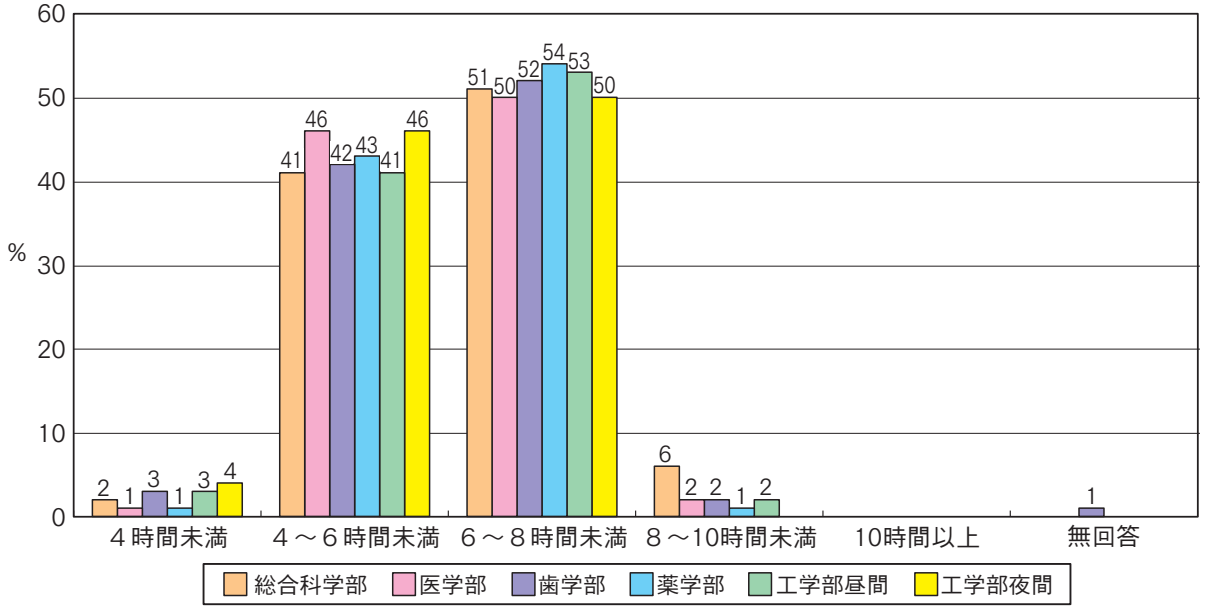

図３－１②　睡眠時間（女子）（問29）

3－2　気になる症状（図３－２①，図３－２②）

何らかの気になる症状がある学生は，男子で32%，女子で49%であり，男子よりも女子が多く不調を抱えており，また女子では気になる症状を複数抱えている傾向が認められるのも前回調査同様である。症状の内容としては，男子では「アトピー・アレルギー」が12%，「頭痛・めまい」「不眠」がそれぞれ９%，6%，女子では「生理痛・生理不順」が20%，「頭痛・めまい」「アトピー・アレルギー」が14%，「下痢・便秘」を10%，「不眠」を５%認めている。慢性的に続いている症状については，必要に応じて，医療機関での治療および生活習慣などの見直し，助言指導を得るための保健管理・総合相談センター保健管理部門の利用も望まれる。

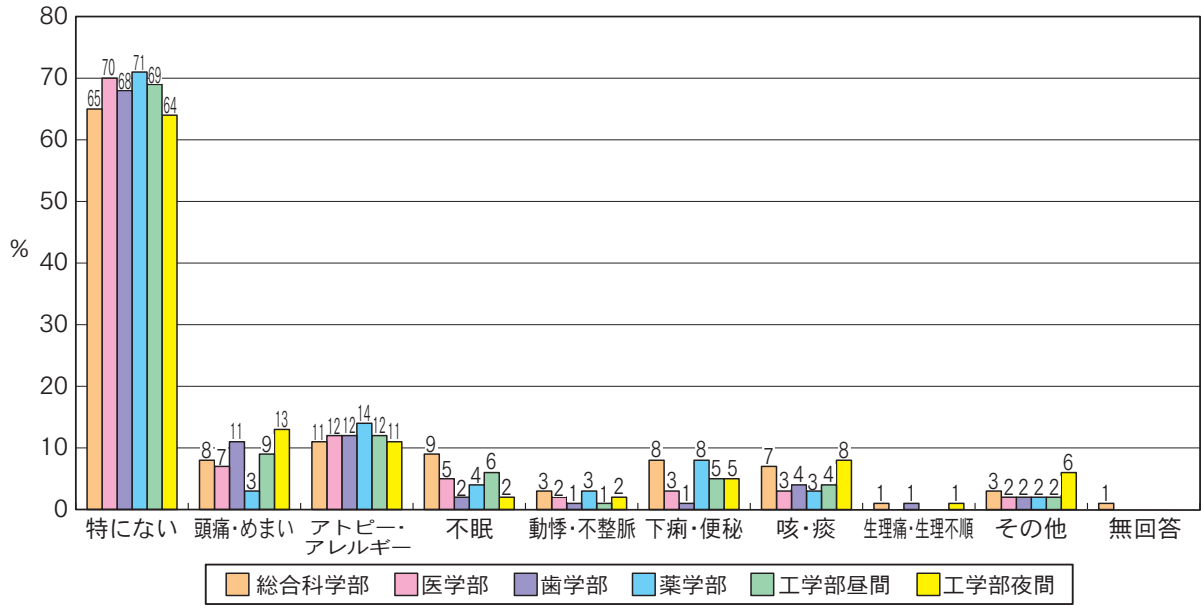

図３－２①　気になる症状（男子）（問 30）

（※問 30 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

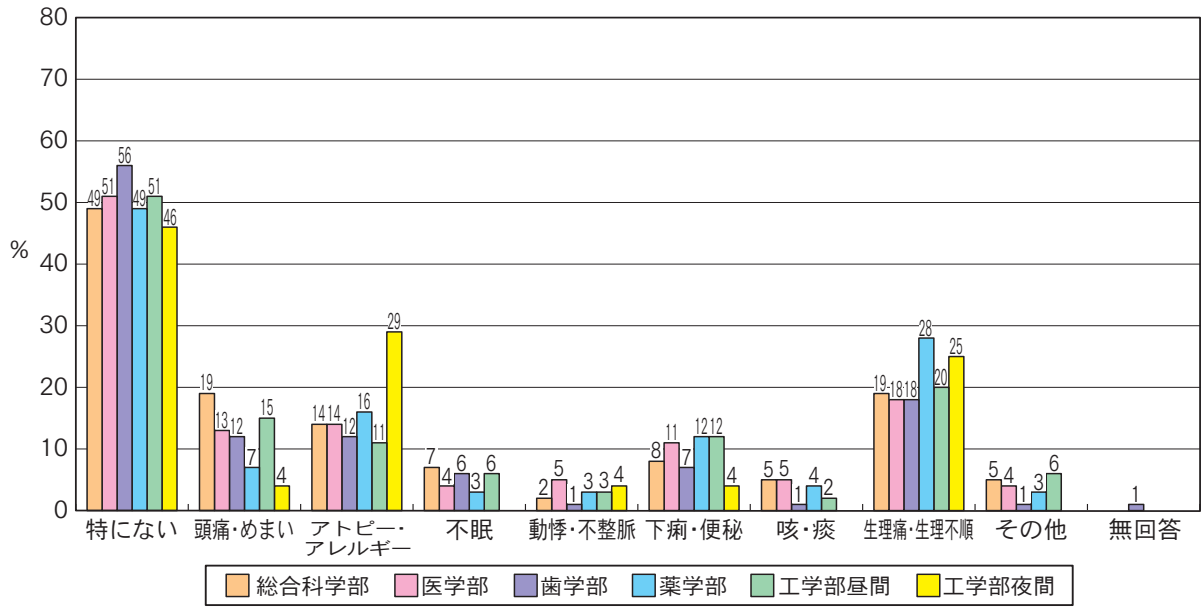

図３－２②　気になる症状（女子）（問 30）

（※問 30 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

3－3 喫煙について（図3－3①，図3－3②，図3－3③）

「喫煙したことがない」学生は男子で81%（前回調査78%），女子で97%（前回調査95%）であり，「過去に喫煙していたが現在はしていない」学生を合わせると男子で85%，女子で98%が喫煙していないという結果となった。前回調査に引き続いて，今回調査でも非喫煙率が上昇し，よい傾向が続いている。「ときどき，もしくは毎日喫煙している」学生は男子で13%（前回調査14%），女子で2%（前回調査3%）であり，男子で喫煙率が高いのは同様である。平成25年の厚労省調査では20代の喫煙率が男性36%，女性13%であり，これと比較して低いものの，男子においてはさらに低くすることが望まれる。学年別でみると，1年生では96%が非喫煙だが，3年生で喫煙率が増加している。喫煙習慣が長年に及ぶと様々な有害作用を健康に及ぼすことから，学生時代に喫煙を習慣づけないように指導する必要がある。

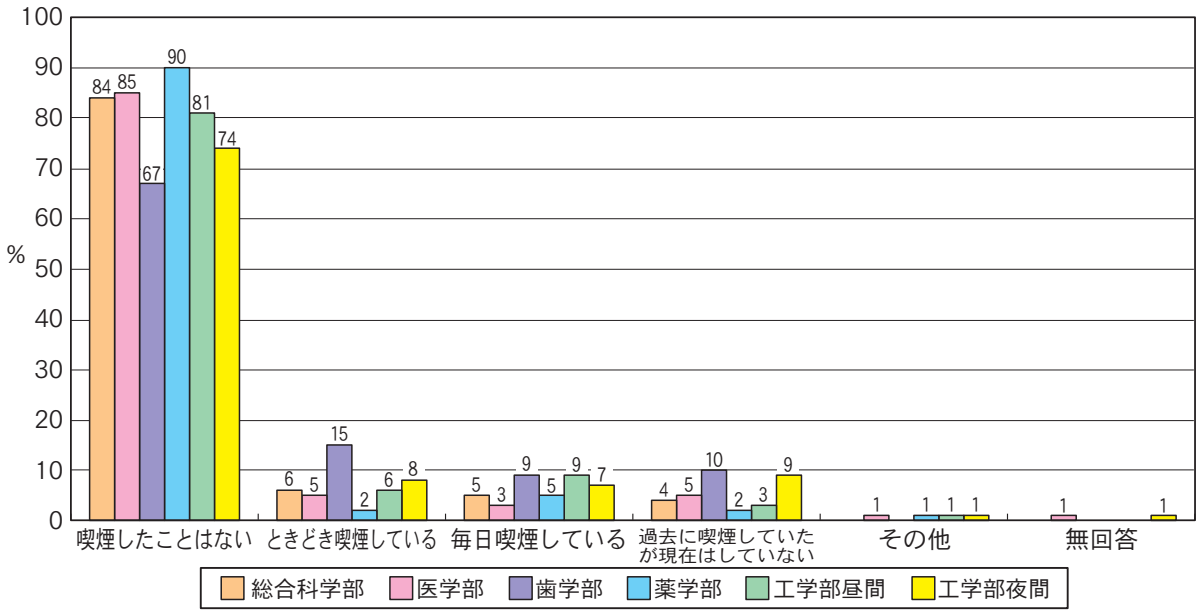

図3－3① 喫煙（男子）（問31）

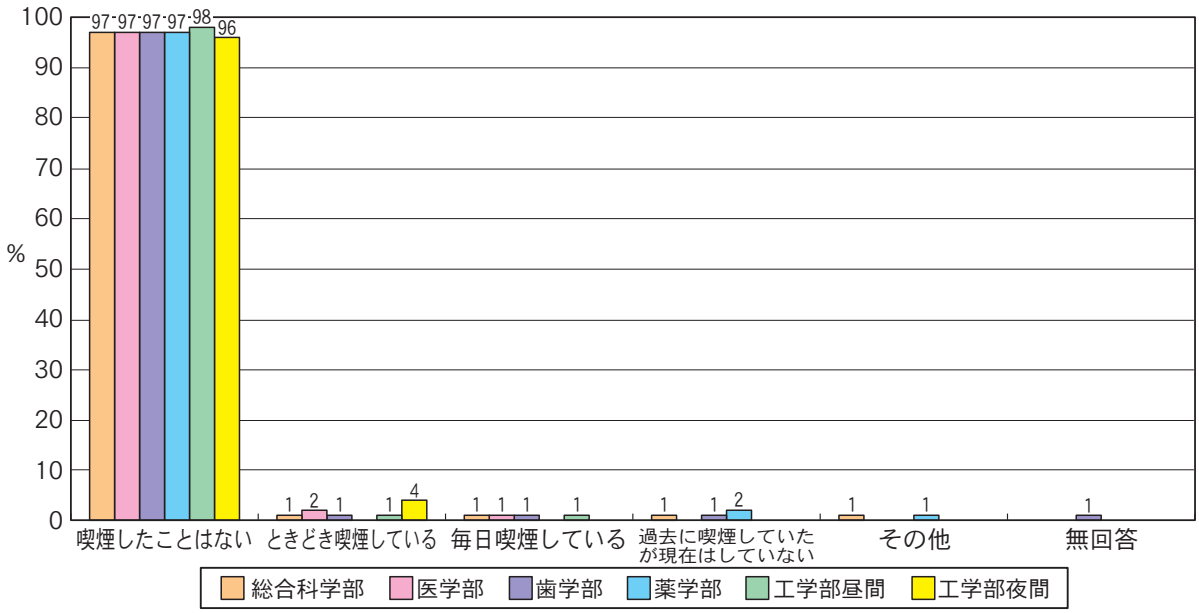

図3－3② 喫煙（女子）（問31）

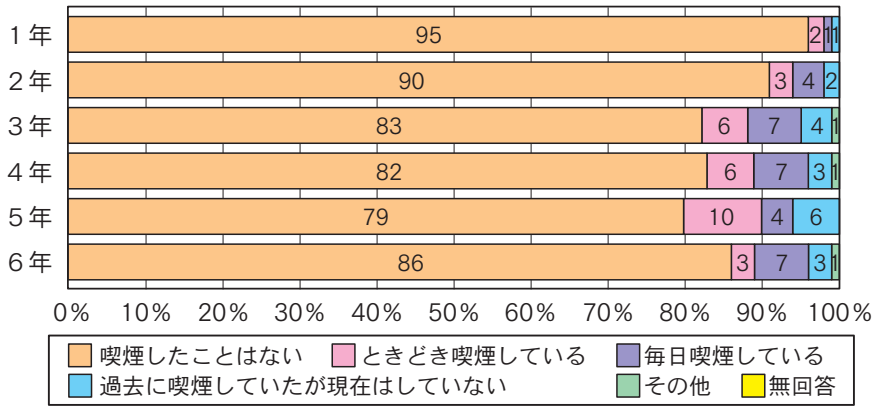

図３－３③　喫煙（学年別）（問 31）

３－４飲酒について（図３－４①，図３－４②，図３－４③，図３－４④）

「飲酒はしない」と答えた学生は男子 27%，女子 29%であり，飲酒しない学生が前回調査にひき続き増加している。「たまに飲酒する」と答えた学生は男子 53%，女子 59%であり，合わせて男子 80%，女子 88%の学生に飲酒習慣がなく，その傾向がより多くの学生で認められつつある。一方，飲酒習慣のある学生のうち，週３，４日以上飲んでいる学生が男子で７％，女子で３％（いずれも前回調査と同様）見られるが，１回の飲酒量が問題となる。

週３回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち，男子22%，女子39%では１回あたりの飲酒量が適度とされる量であった。一方，３合以上飲酒する学生が，男子で 22%，女子で 12%みられ，多量飲酒とされる１日平均純アルコール量で 60 ｇ（日本酒で３合）前後を習慣的に飲酒している可能性があり，これは長期間継続するとアルコール関連健康障害などの酒害に発展する飲酒レベルである。前回調査よりは，男子で多量飲酒が減ったことは望ましい。アルコールの適量は１日平均純アルコール 20 ｇ（日本酒１合）といわれており，アルコールの過剰摂取には十分気をつけるよう指導していく必要がある。

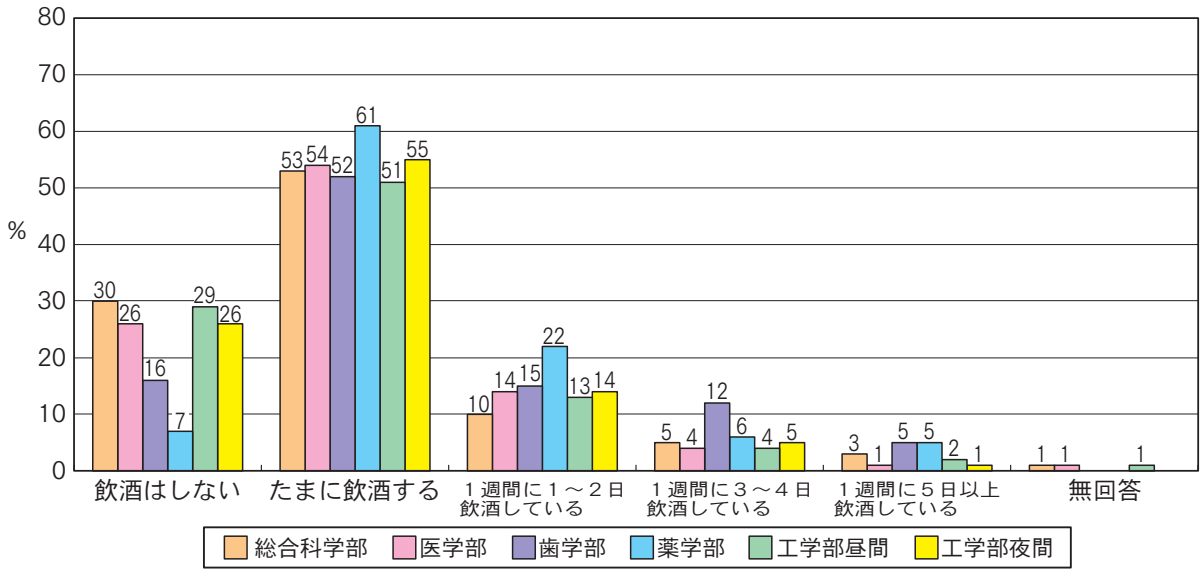

図３－４①　飲酒（男子）（問 32）

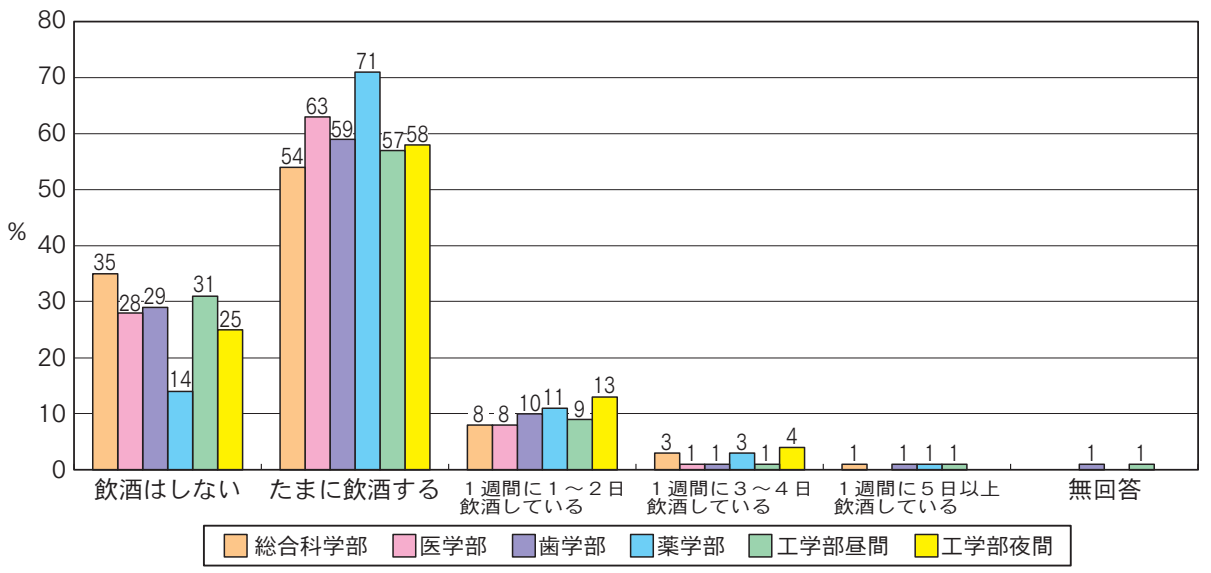

図３－４②　飲酒（女子）（問 32）

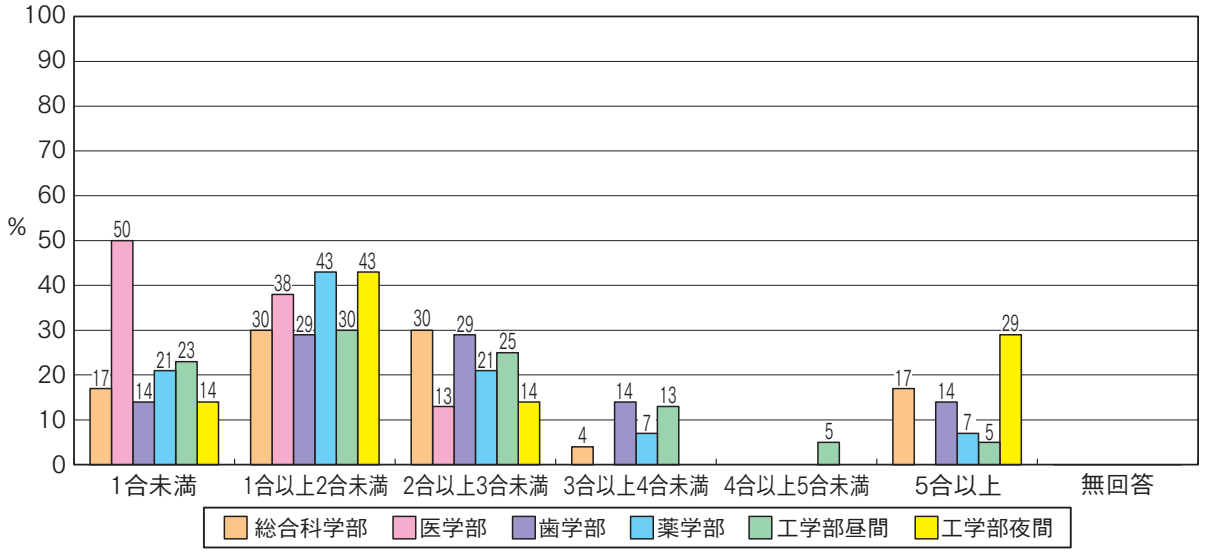

図３－４③　１回当たりの飲酒量（男子）（問 33）

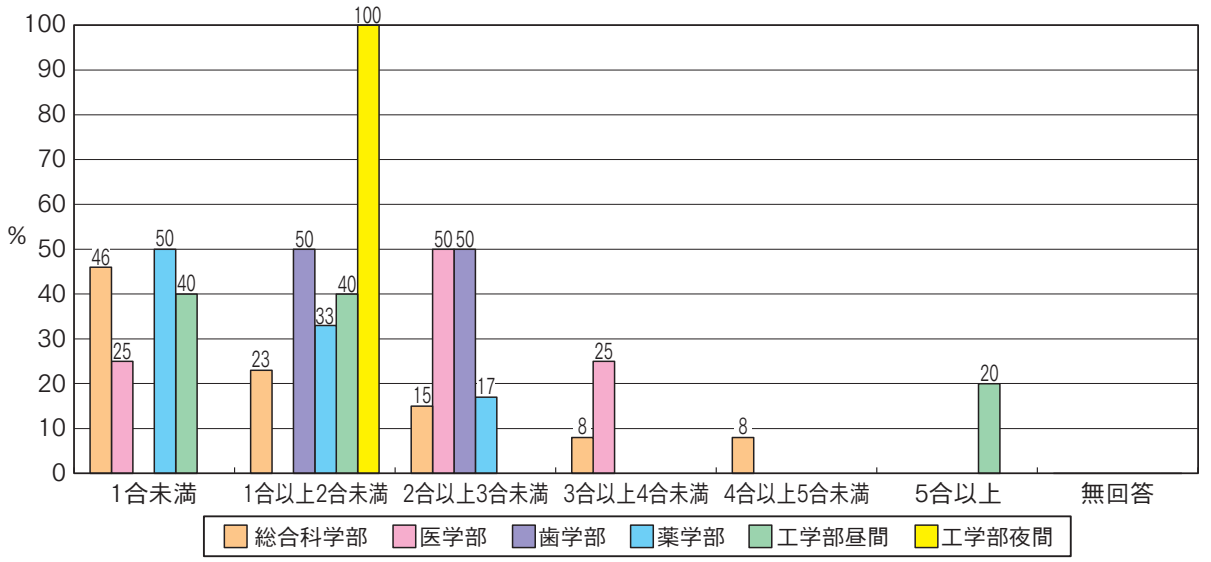

図３－４④　１回当たりの飲酒量（女子）（問 33）

第４章　食事について

４－１　朝食（図４－１①，図４－１②）

学生全体では，約半数（48%）の学生は毎日朝食を食べているが，残りの半数は時々食べる（28%），あるいは，ほとんど食べない（23%）のいずれかであった。全体および男女別ともに前回の調査結果とほぼ同じであった。

男女別にみると，毎日朝食を食べている割合は，女子（63%）が男性（39%）よりも高かった。朝食をほとんど食べない割合も女子（14%）が男子（29%）よりも低かった。つまり，男女の約半数（男子は約40%，女子は約60%）は毎日朝食を食べているが，男子の約３人に１人，女子の７人に１人は朝食をほとんど食べていないことが分かった。

また住居区分別でみると，同様な割合が認められたが，毎日朝食を食べている割合は，自宅（家族と同居）が68%，親戚・知人宅が70%であり，アパート・マンション（家族と別居）が41%，学生寮が45%，間借り（下宿）が40%であり，毎日朝食を食べる割合は，家族あるいは親戚･知人宅では約70%であるのに対し，学生単独での場合には約40～50%と低かった。国際交流会館・日亜会館では，毎日朝食を食べている割合は100%であった。

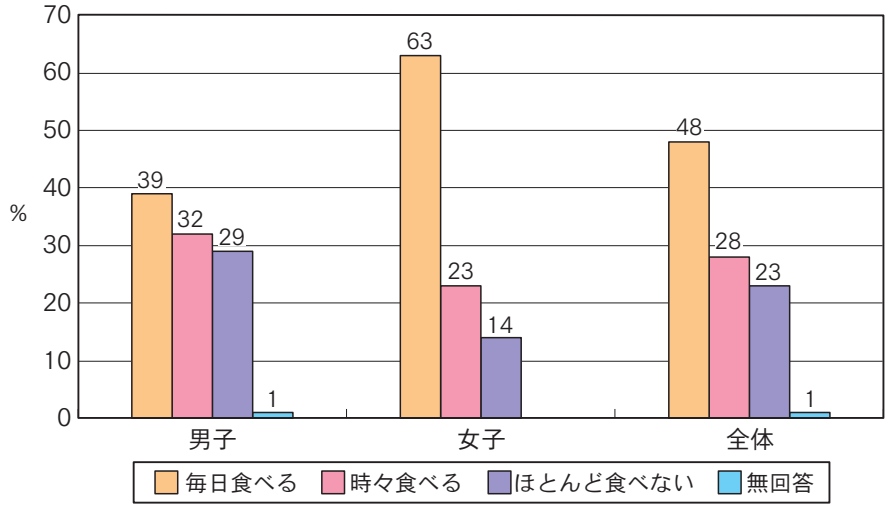

図４－１①　朝食（男女別）（問 34）

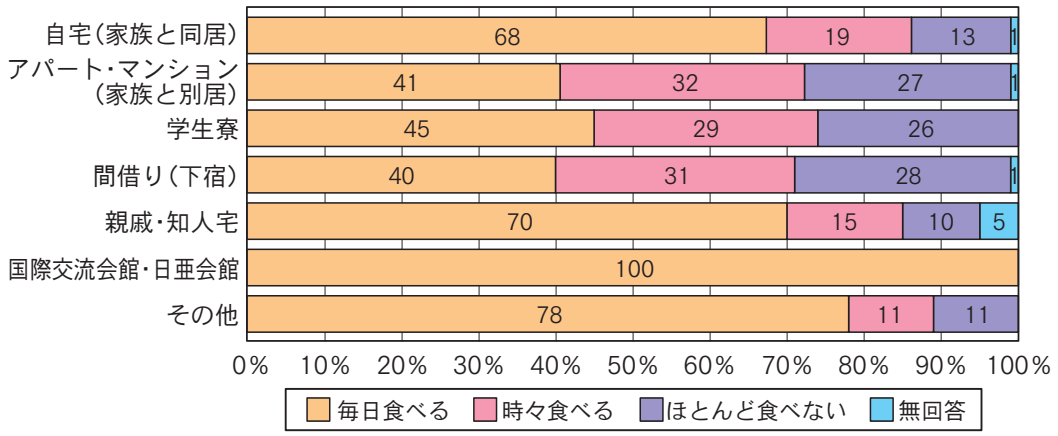

図４－１②　朝食（住居区分別）（問 34）

以上のことから，男子ならびに家族と別居して一人暮らしをしている学生は，毎日朝食を食べる割合が低いので，これらの学生を含めて朝食を食べる生活習慣の指導をすることが必要と考えられる。

4－2　昼食（図4－2）

学生全体では，約90％の学生は毎日昼食を食べており，残り約10％は時々昼食を食べている。昼食を食べない学生はごく少数（2％）である。男女別にみると，毎日昼食を食べている割合は，女子が93％，男子が84％であり，やや女子の割合が高い。全体および男女別ともに前回の調査結果とほぼ同じであった。

昼食については，大部分の学生が毎日昼食を食べていることが分かった。残りの約10％（男子12％，女子6％）の学生は昼食を時々食べており，ほとんど食べない学生もごくわずか（男子2％，女子1％）みられた。

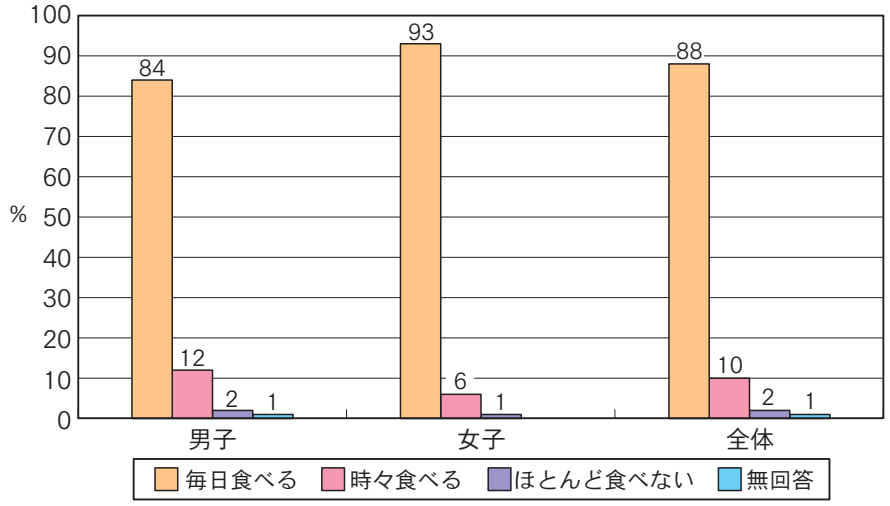

図4－2　昼食（問35）

4－3　夕食（図4－3）

学生全体では，約90％の学生は毎日夕食を食べており，残り約10％は時々夕食を食べている。夕食を

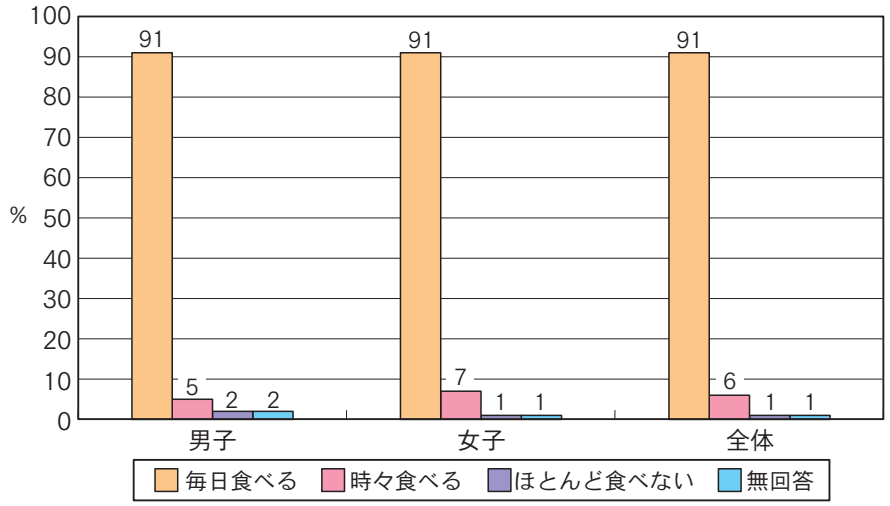

図4－3　夕食（問36）

食べない学生はごくわずか（１％）である。男女別にみると，毎日夕食を食べている割合は，男女ともに91％であった。全体および男女別ともに前回の調査結果とほぼ同じであった。

夕食についても，昼食の場合と同様に，ほとんどの学生が毎日夕食を食べていることが分かった。約10％（男子５％，女子７％）の学生は夕食を時々しか食べず，また，ほとんど食べない学生もごくわずか（男子２％，女子１％）みられた。

４－４　昼食の利用場所（図４－４）

学生全体での昼食の利用場所について，常三島第１食堂（生協），常三島第２食堂（工学部構内），蔵本会館食堂，弁当，自宅（下宿）の割合は，それぞれ６％，14％，12％，20％，20％であった。前回の調査結果と比べて，常三島第１食堂（生協）が前回調査の25％から６％に減少し，常三島第２食堂（工学部構内）が前回調査の７％から14％に増加しているが，これは常三島第１食堂（生協）が改修工事のため一時期使用できなかったことによるものと考えられる。蔵本会館食堂は12％であり，弁当の購入は20％で，前回の調査結果とほぼ同じであった。自宅（下宿）は前回調査の14％から20％に増加した。全体では，昼食の利用場所は，前回の調査結果と比べて，常三島第２食堂（工学部構内）と自宅（下宿）の割合が増加していた。

昼食における食堂の利用は，常三島地区では約20～30％（総合科学部20％，工学部昼間29％，　工学部夜間20％）にとどまったが，常三島第１食堂（生協）が改修工事のために利用できなかったことによると思われる。一方，医学部，歯学部，薬学部において，昼食時での食堂の利用は約40～60％（医学部43％，歯学部37％，薬学部62％）であり，食堂を利用する学生の割合が高く，特に薬学部では約60％の学生が蔵本会館食堂を利用している。弁当を利用する割合は，薬学部（11％）を除く他の学部において約20～30％であり，４人に１人が昼食に弁当を購入している。自宅で昼食を食べる学生の割合は，蔵本地区では約10％（医学部13％，歯学部８％，薬学部13％）と低いが，常三島地区では約20～30％（総合科学部29％，工学部昼間20％，工学部夜間37％）とやや高い。

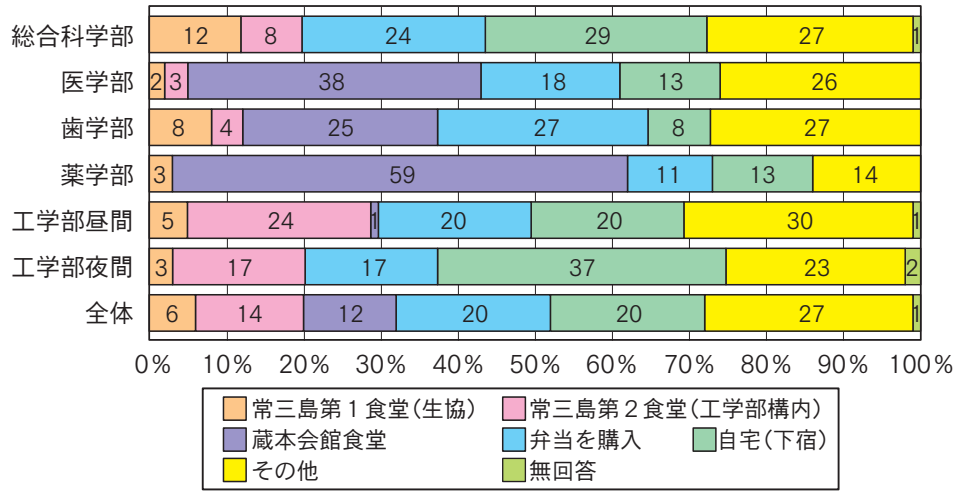

図４－４　昼食の利用場所（問37）

４－５　弁当を食べる場所（図４－５）

学生が弁当を食べる場所は，教室53％，屋外12％，自宅（下宿）13％，その他21％であった。前回の調査結果と比べて，教室で食べる割合が68％から53％に減少したが，学生の半数は弁当を教室で食べ

ている。屋外と自宅（下宿）での割合はやや増加（屋外は８％から12%，自宅（下宿）は７％から13%）しているが，約10%である。教室を利用する割合が多いのは，時間の節約あるいは教室が利用しやすいことや昼食を食べるのに他に適当な場所が見つからないなどの理由が考えられる。

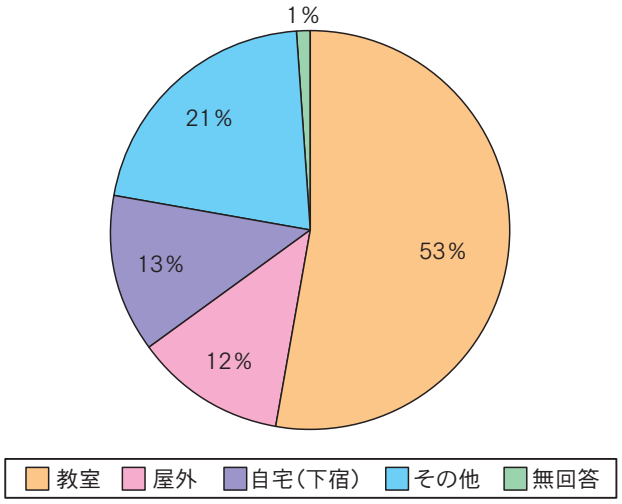

図４－５　弁当を食べる場所（問 38）

４－６　学生食堂について感じること（図４－６①，図４－６②）

回答の内容の割合は前回の調査結果とほぼ同じ傾向であり，昼食時の混雑がひどいが52%を占め，次に値段が高いが35%であり，メニューが少ないが23%であった。その他，開店時間が短いが９％，場所が不便であるが６％であった。

昼食の時間に学生が集中するのは，カリキュラムの時間割によると思われるが，約半数の学生が昼食時に混雑がひどいと感じて食事をしていることが分かった。なお，本年度，常三島第一食堂の改修時に混雑解消のため，座席数を大幅に増やした。また，学生の約20～30%が，学生食堂のメニューが少なく，値段が高いと感じており，特に薬学部，工学部昼間，工学部夜間の学生の回答にみられた。学生食堂に対する学生のこれらの感想については前回の調査結果と同じであることから，何らかの対応を行う

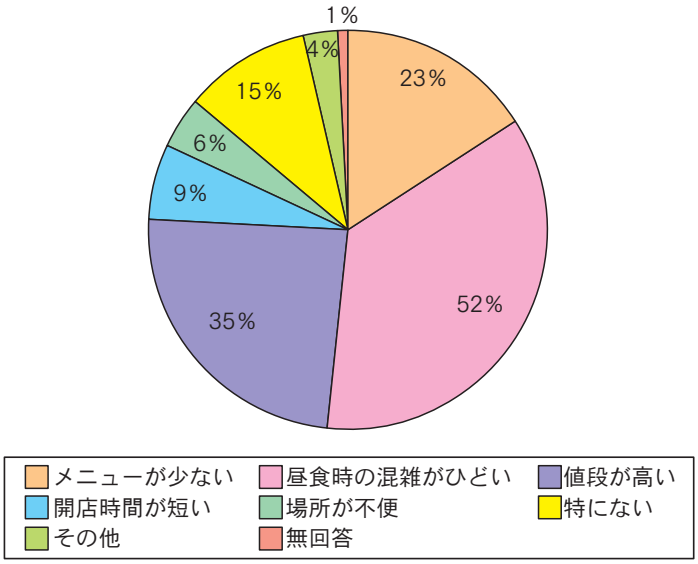

図４－６①　学生食堂について感じていること（問 39）

（※問 39 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

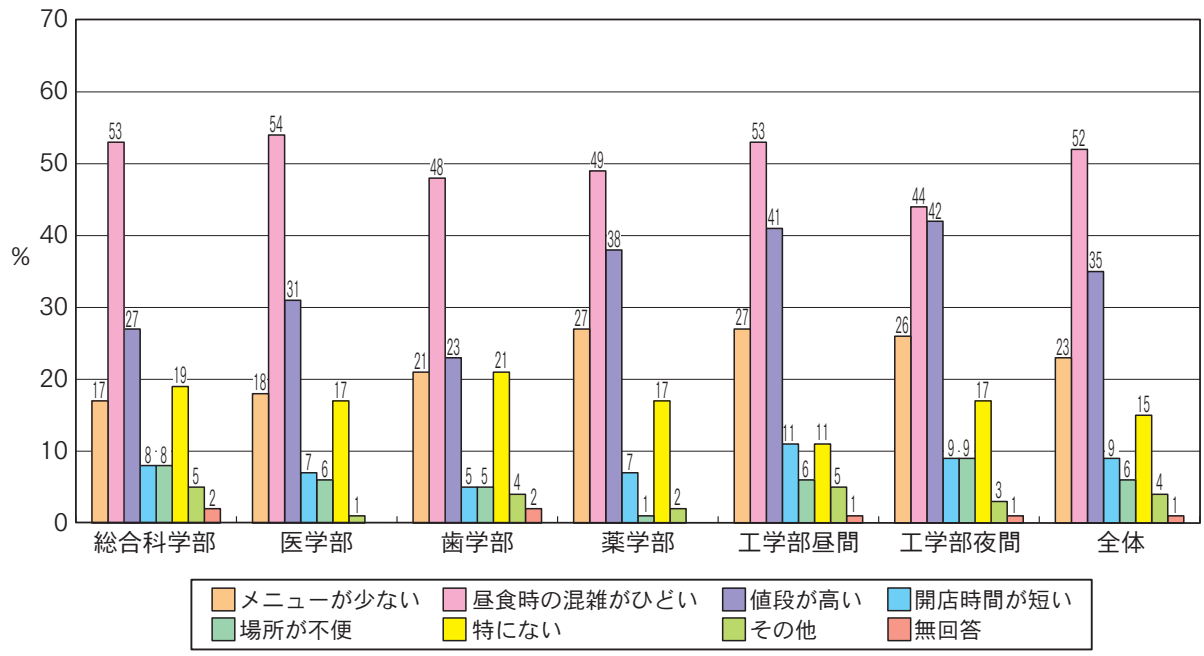

図４－６②　学生食堂について感じていること（問 39）

（※問 39 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

ことが求められる。

今回の調査結果から，特に昼食では学生の多くが学生食堂を利用していることを考え，食堂のメニューや値段などについて検討して，学生の食生活をさらにサポートする必要がある。

第５章　学生生活上の問題点

５－１　大学生活の意義（図５－１①～図５－３②）

【項目間の比較】（図５－１①）

どの学部・学科共，第１位は「勉強や研究」であり（31～51%），全体の平均値は，前回調査の値より２%高い37%である。教育・指導の効果がこの変化の一要因になっていると思われる。第２位は「特に重点もなく程々に」，第３位は「趣味・娯楽」となり，前回調査の第２位と第３位が入れ替わった。第４位は前回調査と同様に「豊かな人間関係を結ぶこと」であった。第２位から第４位までは僅差であり，学生は個人活動を重視しつつも，他者との関わりにも重きを置いていることが伺われる。

【学部・学科間での比較】（図５－１①）

「勉強や研究」は，医学科や薬学部，栄養学科・医科栄養学科で高い。これは専門性の高い職業に結びつきやすい学部・学科では学業への意識が高いものと推察され，その結果であると考えられる。前回調査に比べて医学部は38%から51%に増加しており，勉学教育の指導効果が表れているものと思われる。工学部は昼間・夜間共に他の学部・学科に比べ「趣味・娯楽」の割合が高く，個人活動を重視する傾向があるのかもしれない。

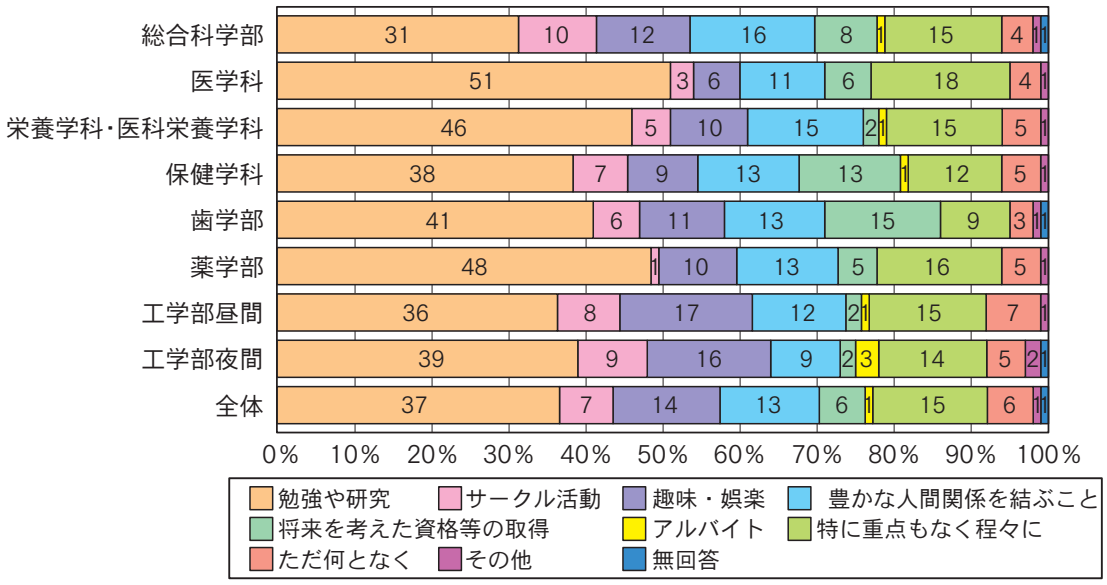

図５－１①　大学生活の意義（全体）（問40）

４年制では，前回調査と同様に「勉強と研究」の割合は，他の学年に比べ３年生が少し高く，逆に「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合は他学年に比べて少し低かった。「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合が一番高いのは４年生であり，卒業を控え，これまで築いてきた人間関係に価値を見出しているものと思われる。６年制では，「勉強と研究」の割合は，前回調査は２年生が最も高い値を示していたが，今回調査は６年生であり（53%），これまでの学業の成果に意義を感じているものと思われる。６年制では，「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合は，１年生が最も高く，入学時に新たな人間関係に期待していることの表れと考えることもできよう。

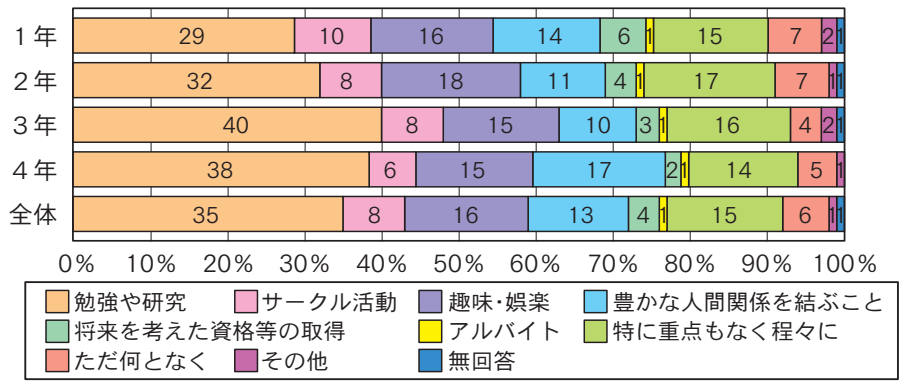

図５－１②　大学生活の意義（４年制学部・学科）（問 40）

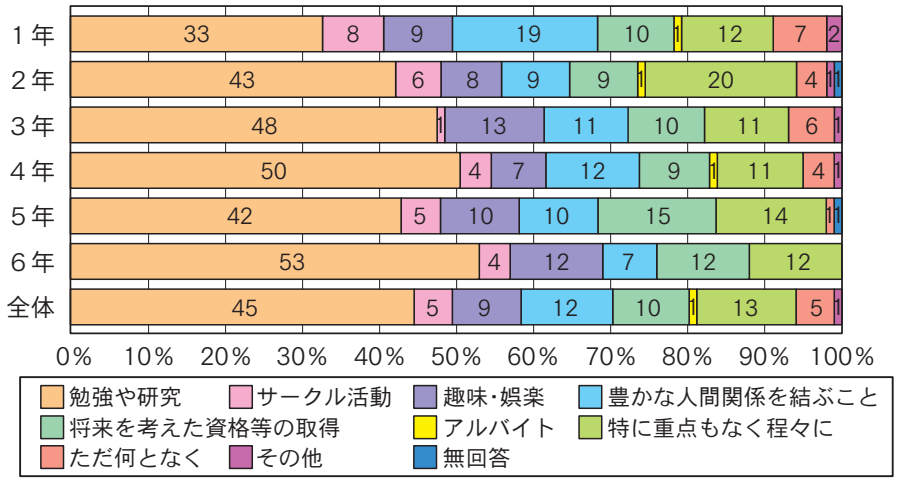

図５－１③　大学生活の意義（６年制学部・学科）（問 40）

５－２　悩みと相談（図５－２①～図５－２④）

【主な悩みや不安】（図５－２①～図５－２③）

前回調査と同様，悩みや不安がないと回答した割合は男子の方が多かった。男子・女子共に，悩みや不安の第１位は「就職や進路」であり，第２位は「勉学」，第３位は「交友･異性関係」であった。国家試験で資格を得られる学部では，「就職や進路」に関する悩みや不安を持つ学生の割合が低いが，総合科

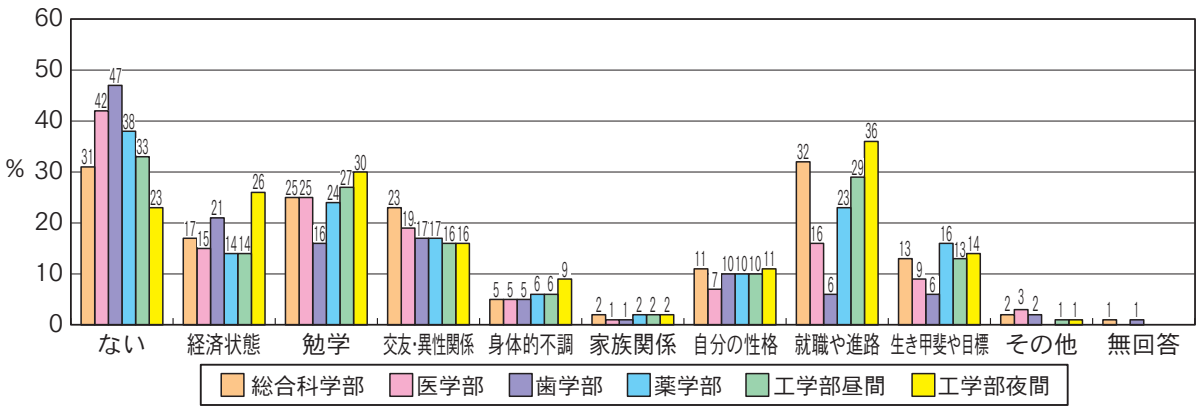

図５－２①　主な悩みや不安（男子）（問 41）

（※問 41 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

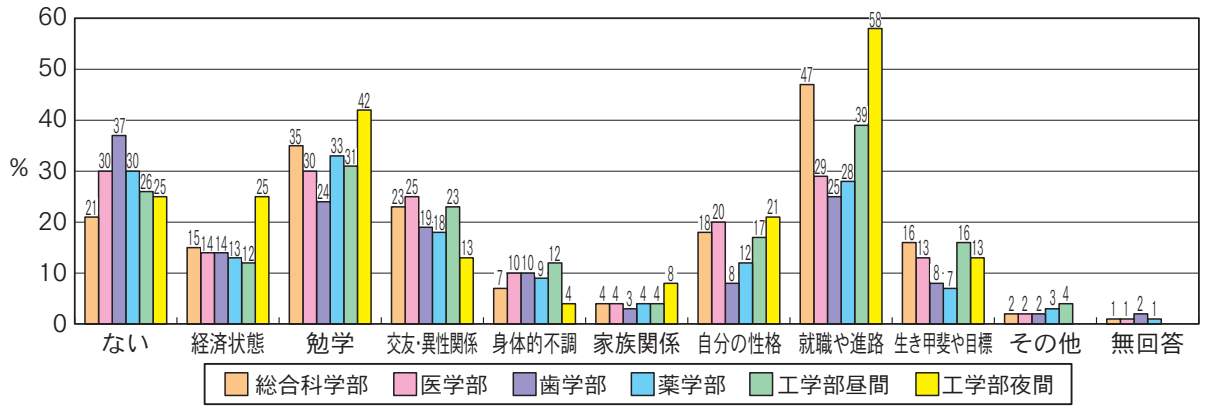

図５－２②　主な悩みや不安（女子）（問 41）

（※問 41 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

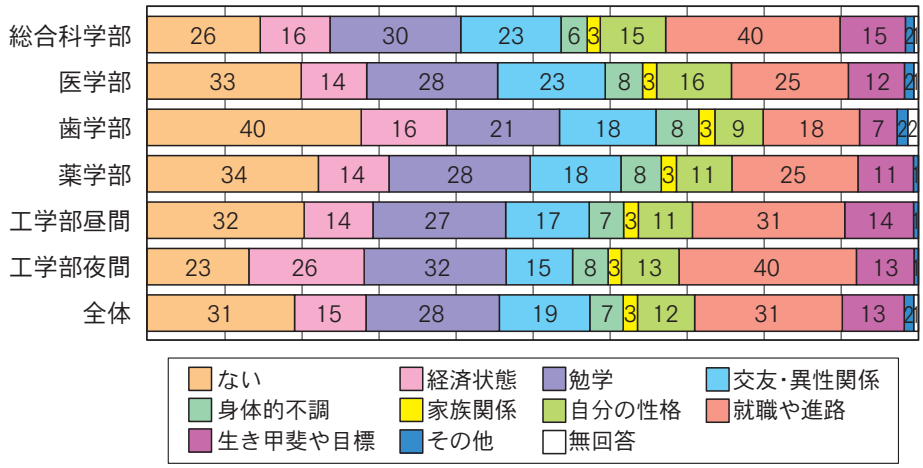

図５－２③　主な悩みや不安（学部別）（問 41）

（※問 41 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

学部と工学部夜間では，この割合は高くなっている。とりわけ工学部夜間の女子で高く、半数以上にあたる 58％が将来の就職・進路に不安を感じており，大学からの支援が必要と思われる。

【相談相手】（図５－２④，図５－２⑤）

どの学部･学科も第１位が友人，第２位が家族であるが，それらの割合は女子の方が男子よりも高かった。教員と回答した割合は低いが，その中では，男子で歯学部が４％，女子で医学部が５％と高かった。部局関係者による対応が奏功していると思われる。男子の 22～28％と女子の８～21％は誰にも相談しないと回答しており，前回調査の 24～33％と９～21％と比べて減少した。しかしながら，自力で悩みや不安を解消できない場合も依然として多いと思われる。悩んでいることや不安に感じていることの内容に応じて，部局教職員や保健管理・総合相談センターのスタッフが信頼できる相談相手として選ばれるように学生に働きかけると共に，支援を要する学生を早めに見出し，早急に対応する体制を強固にすることが必要と思われる。

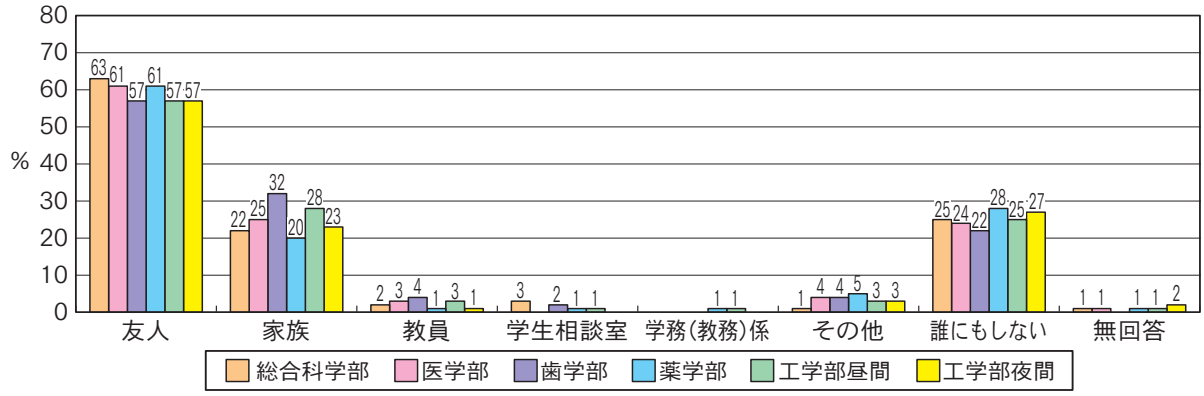

図５－２④　悩みの相談相手（男子）（問 42）

（※問 42 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

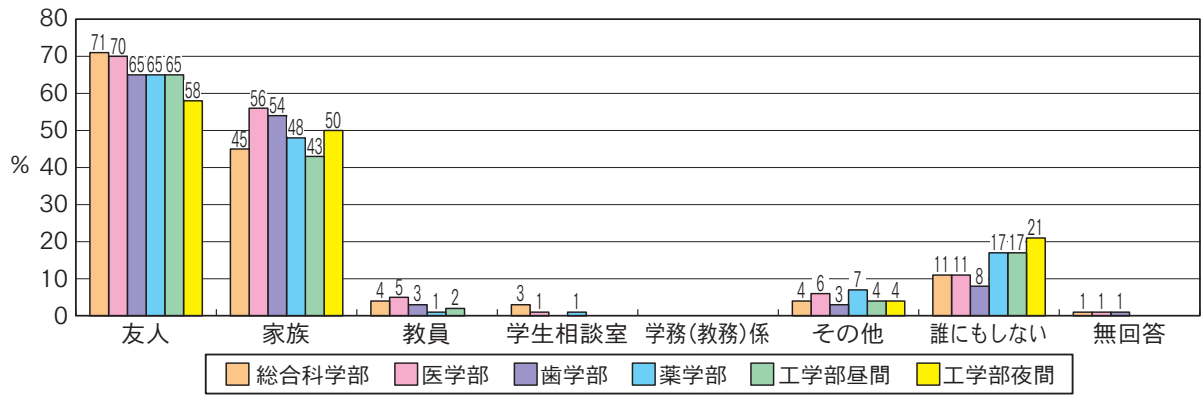

図５－２⑤　悩みの相談相手（女子）（問 42）

（※問 42 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

５－３　迷惑行為（図５－３①～図５－３⑫）

【クーリング・オフ制度の認識】（図５－３①）

全体 91％の学生がクーリング･オフ制度を認識しており，前回調査より１％増加した。医学科で 96％，総合科学部で 95％と高かった。学部ガイダンスや大学入門講座における教育効果によるものと考えられることから，これまでの啓蒙活動をしっかりと継続することが重要である。

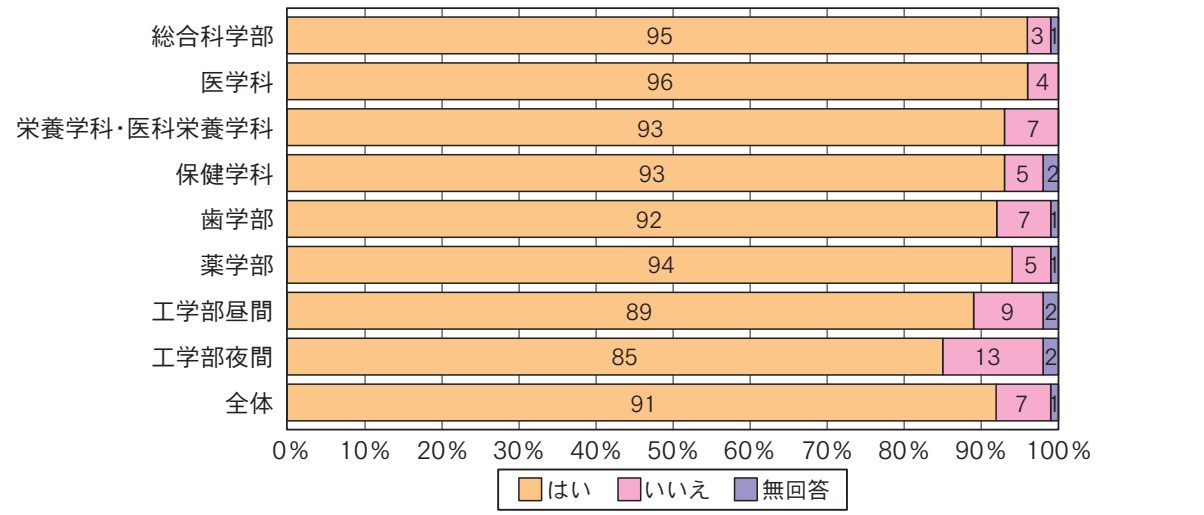

図５－３①　クーリング・オフ（問 43）

【迷惑行為全体】（図５－３②）

迷惑行為を受けていないと答えたのは，男子全体で85％（前回調査80％），女子全体で85％(前回調査と同様) であった。歯学部男子で77％と低かった。

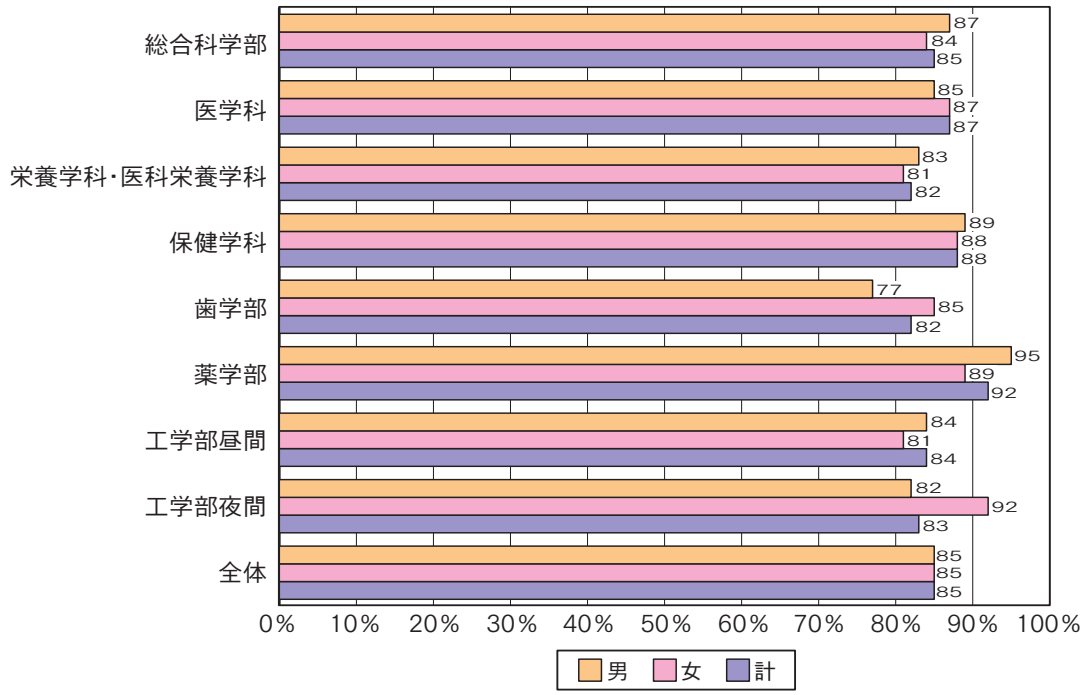

図５－３②　迷惑行為を受けたことがない（問 44）

【悪徳商法】（図５－３③）

悪徳商法の勧誘を受けた学生は全体の３％であるが，歯学部男子学生は９％と格段に高かった。前回調査では，歯学部男子学生は３％であったことから，何らかの特殊要因が働いたように思われる。原因を調査し，注意喚起・予防対応の実施が必要である。

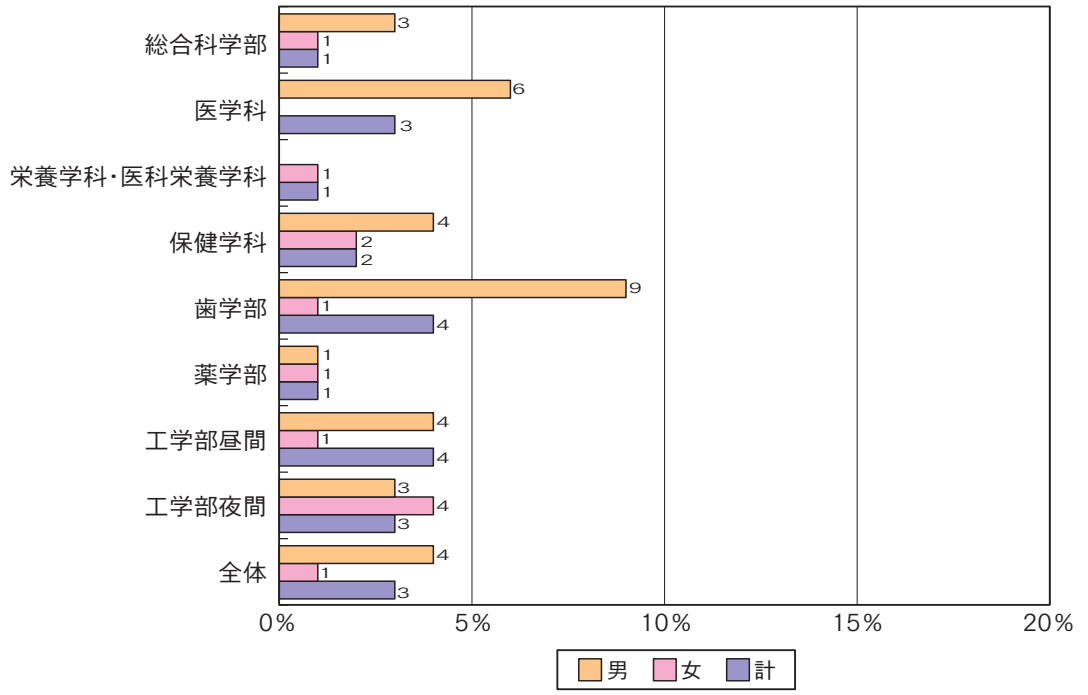

図５－３③　悪徳商法の被害を受けたことがある（問 44）

【いたずら電話】（図５－３④）

全体の３％の学生がいたずら電話を受けたと答えている。前回調査は歯学部男子が８％と高かったが，今回調査は，すべて４％以下の値であった。

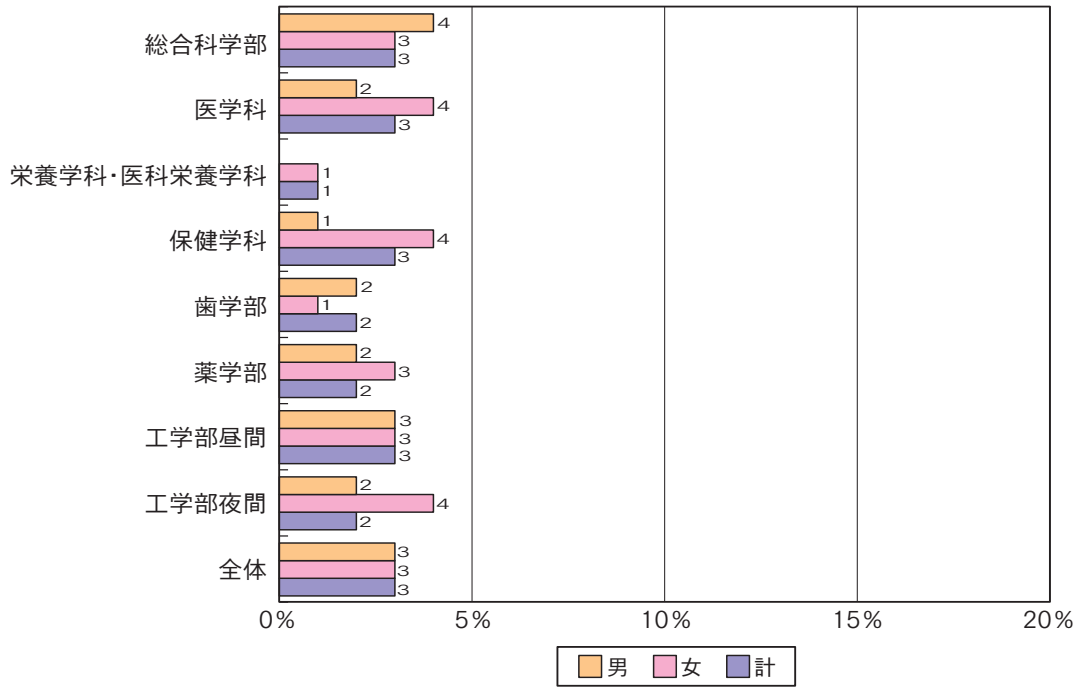

図５－３④　いたずら電話の被害を受けたことがある（問 44）

【ストーカー】（図５－３⑤）

今回調査は前回調査と同様，全体で２％であった。栄養学科・医科栄養学科女子で５％，工学部昼間女子で５％，医学科女子で４％と高かった。

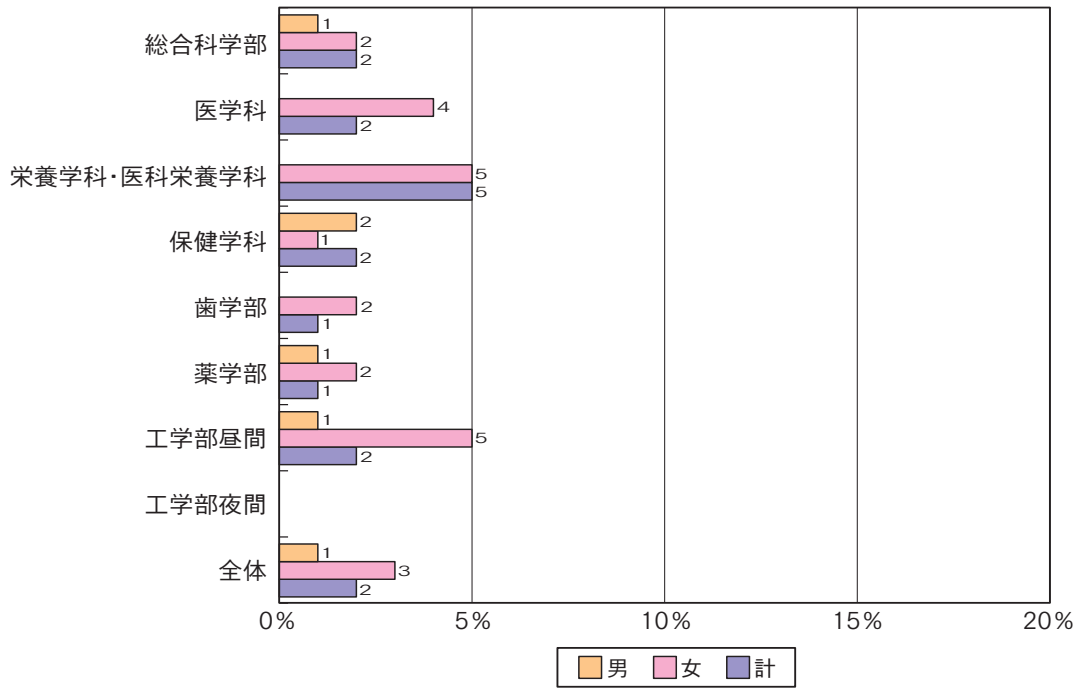

図５－３⑤　ストーカーの被害にあったことがある（問 44）

【大学内でのセクハラ】（図５－３⑥）

前回調査同様，全体で「大学内でセクハラの被害にあったことがある」と回答した者は１％であった。女性の割合が高めであり，工学部夜間女子で４％と高かった。セクハラ被害撲滅に向かって啓発運動を徹底する必要がある。

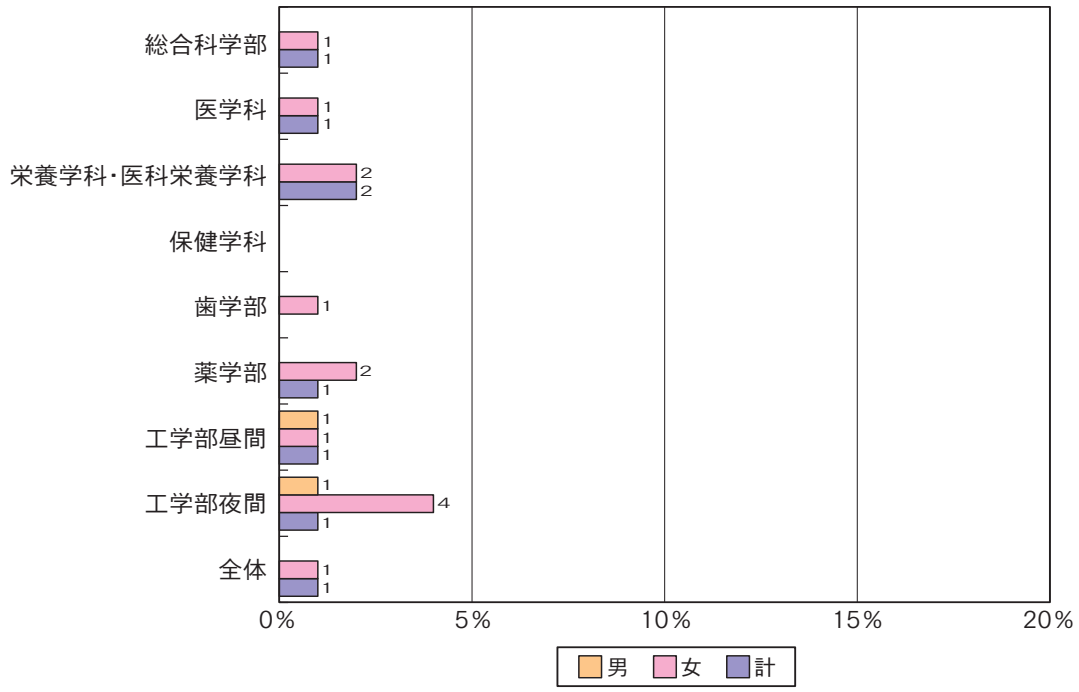

図５－３⑥　大学内でセクハラの被害にあったことがある（問 44）

【大学内でのアカハラ】（図５－３⑦）

前回調査同様，全体では１％であるが，今回調査は医学科全体で６％，歯学部男子で６％がアカハラの被害にあったと答えている。大学と当該部局が連携して早急に解決に向け対応を協議する必要がある。

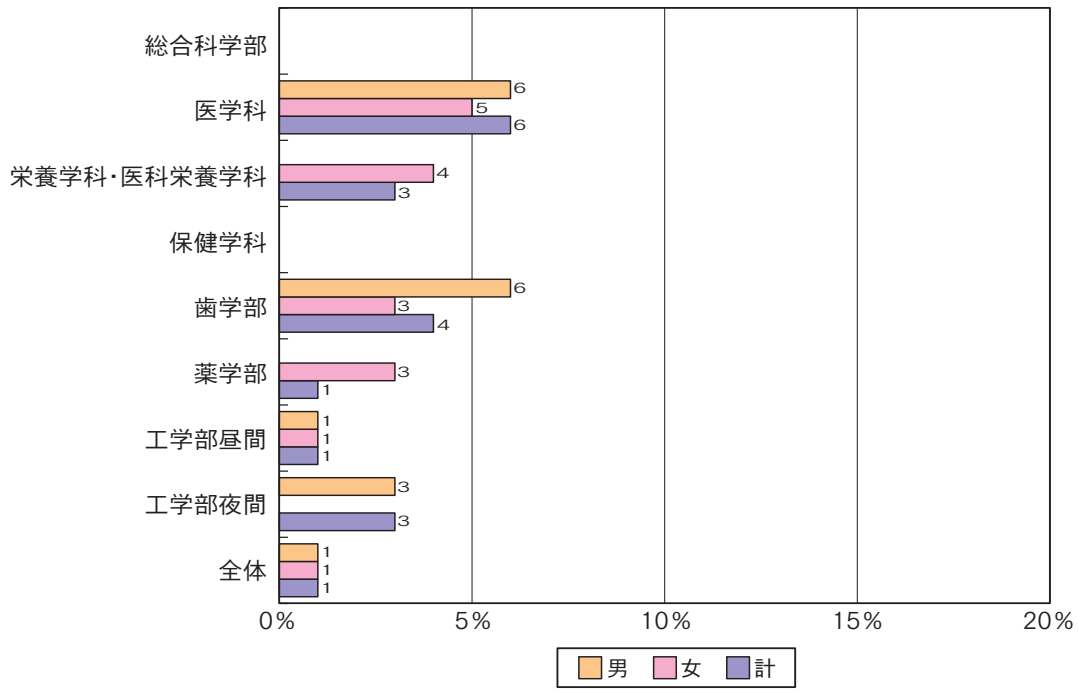

図５－３⑦　大学内でアカハラの被害にあったことがある（問 44）

【サークル退部の阻止】（図５－３⑧）

前回調査同様，全体に１％の学生がサークルを辞めさせてもらえなかったと答えた。前回調査に比べ，学部間差はなくなっている。学生の意向を尊重するようサークル活動の指導を強化すべきである。

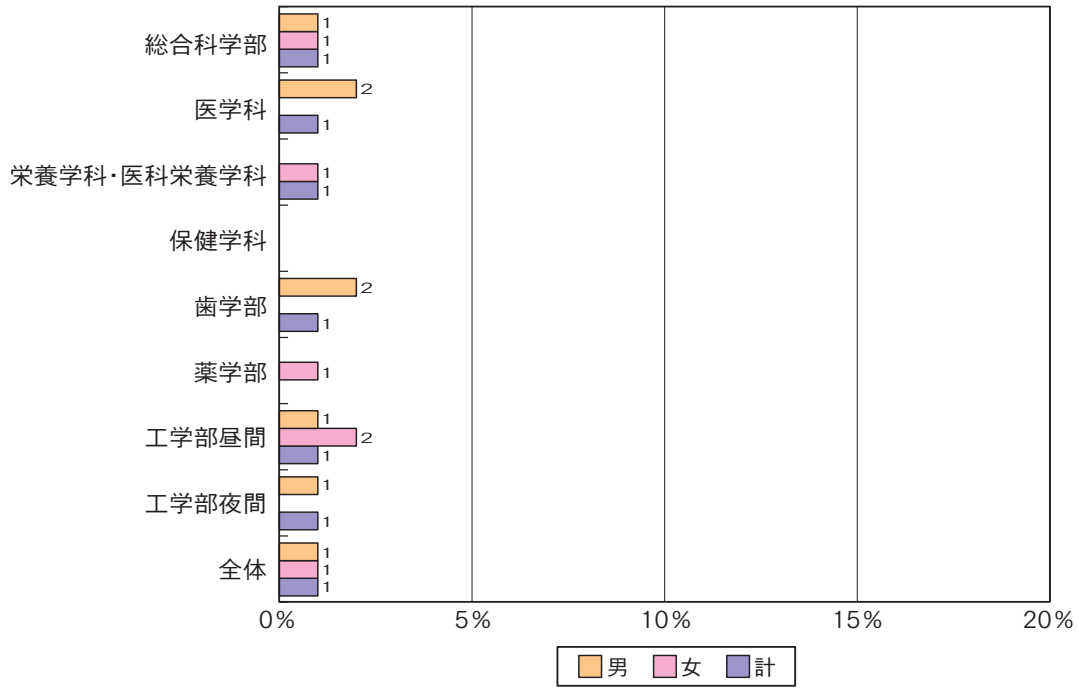

図５－３⑧　サークルを辞めようとしたが，辞めさせてもらえなかった（問 44）

【サークル内でのいじめ】（図５－３⑨）

前回調査同様，全体の１％のサークル内でいじめを受けたと答えている。サークル活動・運営に関する指導の中にいじめや飲酒強要などの項目を引き続き盛り込み，予防に努めることが必要である。

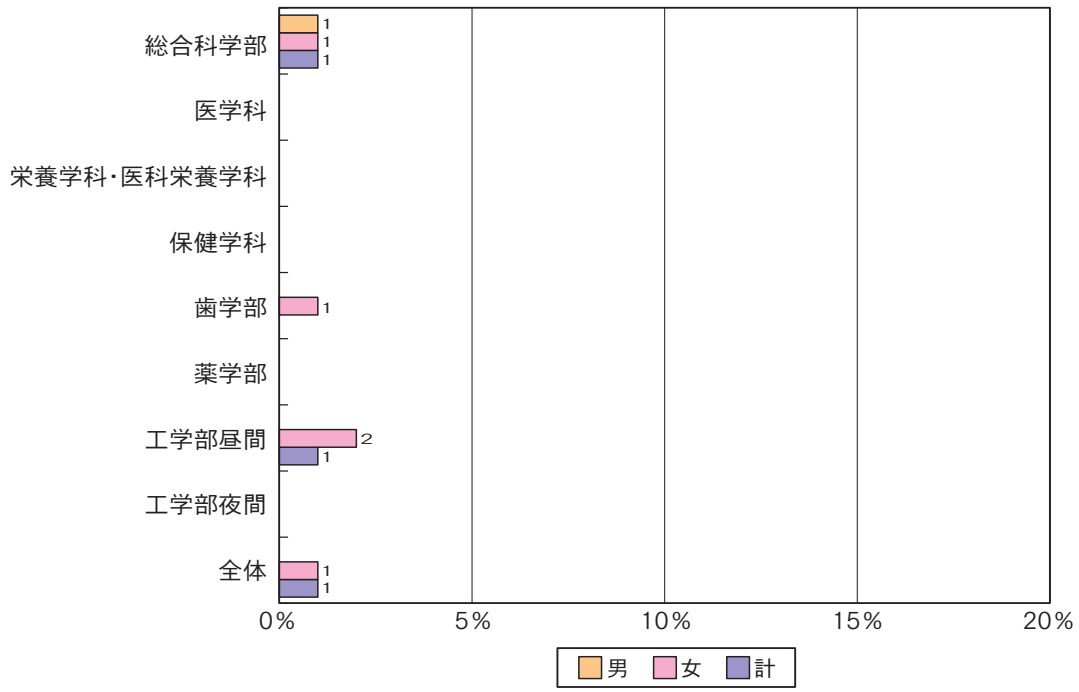

図５－３⑨　サークル内でいじめ（嫌がらせを含む）を受けた（問 44）

【カルトの勧誘】（図５－３⑩）

全体の４％がカルトの勧誘を受けていると答え，前回調査よりもやや減少した。男子の方が女子よりも勧誘を受けた割合が高い。学部別では，前回調査は総合科学部男子（10％）であったが，今回調査は栄養学科・医科栄養学科男子の17％が目立つ。カルト勧誘は，被害に繋がる潜在リスクを有しており，適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。

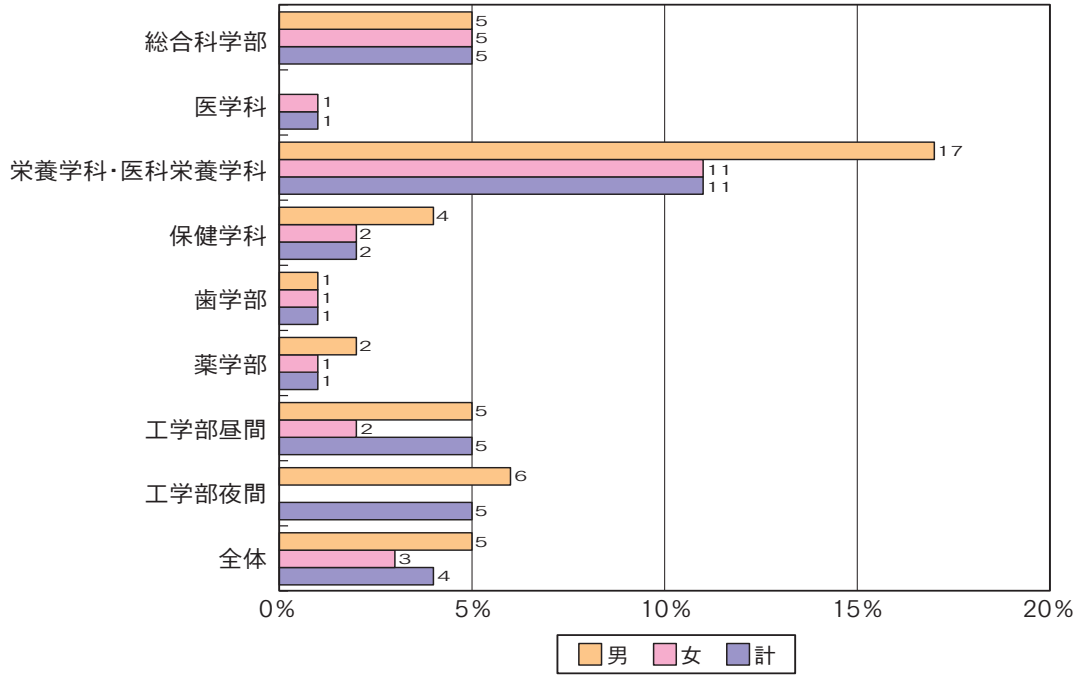

図５－３⑩　カルトの勧誘を受けた（問44）

【迷惑行為を受けた際の相談先】（図５－３⑪）

全体の傾向は前回調査同様，友人が第１位，誰にも相談しないが第２位となっている。前回調査は，栄養学科が誰にも相談しないが100％であったが，今回調査は栄養学科・医科栄養学科になり，友人・家族･学生相談室が各25％であった。全体では，学生相談室への相談が前回調査の４％から７％に増加していた。広報活動の成果のあらわれであると考えられる。保健学科は友人以外に相談していないこと

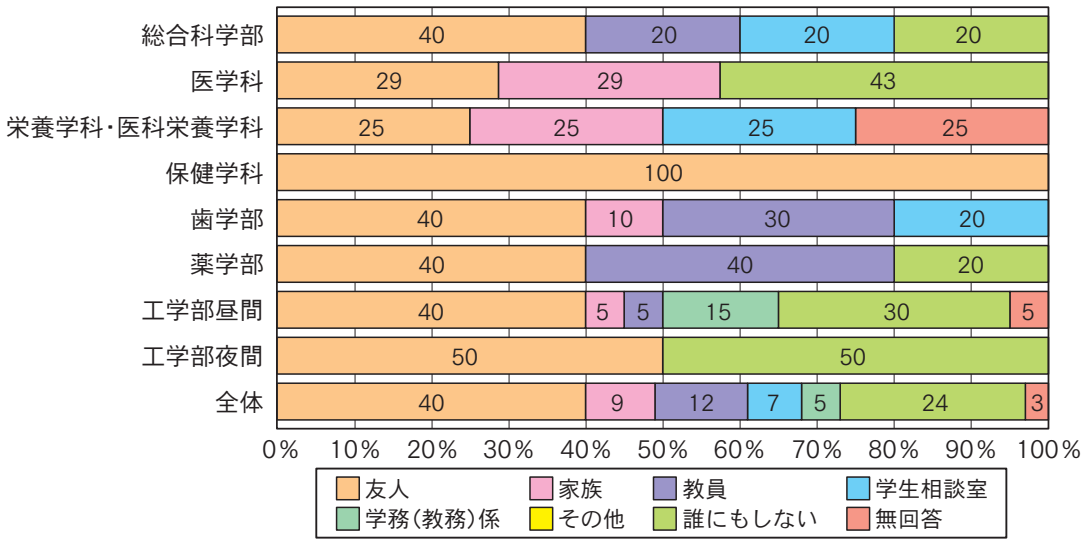

図５－３⑪　誰に相談しましたか（問45）

から，相談先の選択肢を広げる工夫をする必要がある。

【学生相談室】（図５－３⑫）

「学生相談室を利用したことがある」と答えた学生は，全体で10％であった。栄養学科・医科栄養学科と歯学部がそれぞれ13％と14％と高く，医学科と保健学科が６％と低かった。「学生相談室を知らない」と答えた学生は，全体で23％であり，前回調査の19％より増加した。

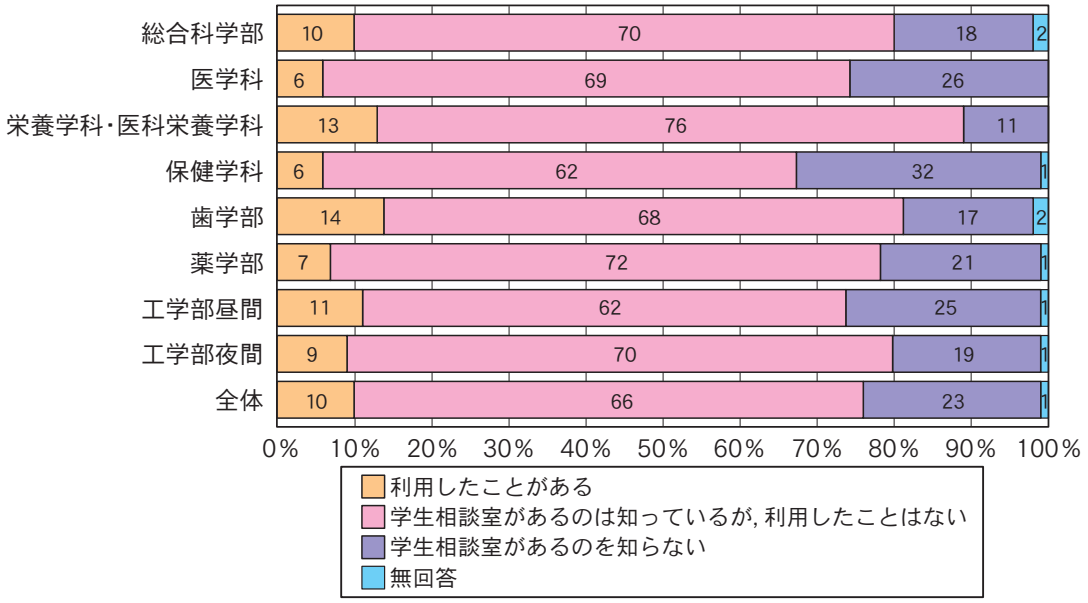

図５－３⑫　学生相談室を利用したことがありますか（問46）

５－４　教職員・友人との交流（図５－４①～図５－４⑥）

【教員との会話・質問】（図５－４①～図５－４③）

教職員と７回以上会話・質問した学生は，全体では32％であった（前回調査30％）。栄養学科・医科栄養学科で53％，薬学部で55％と高い値であった。クラス担任，学年担任研究指導で教員とのコミュニケーションが図られているものと思われる。「全くない」と答えた学生が全体で17％であり，前回調査の

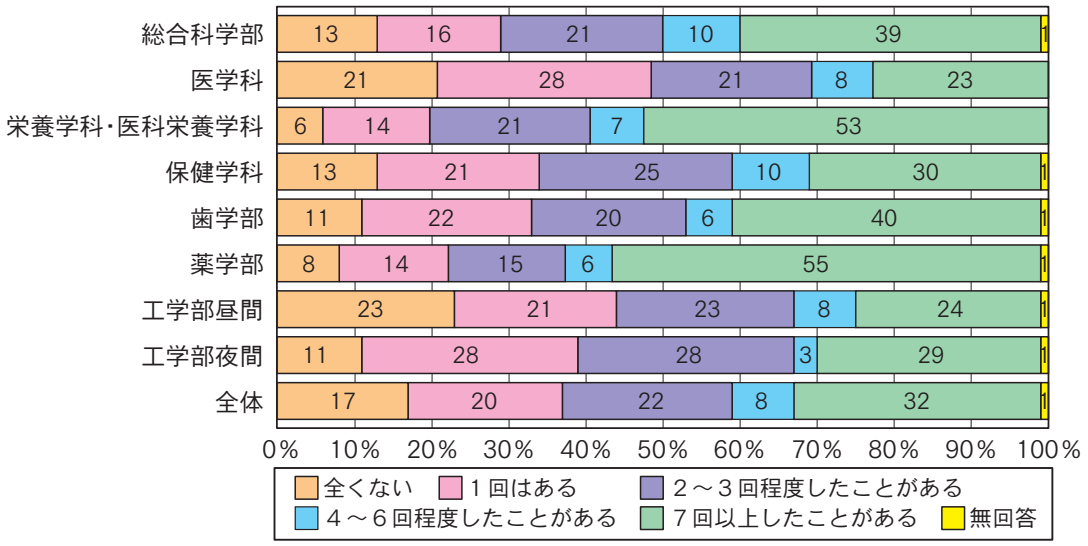

図５－４①　教員との会話，質問（全体）（問47）

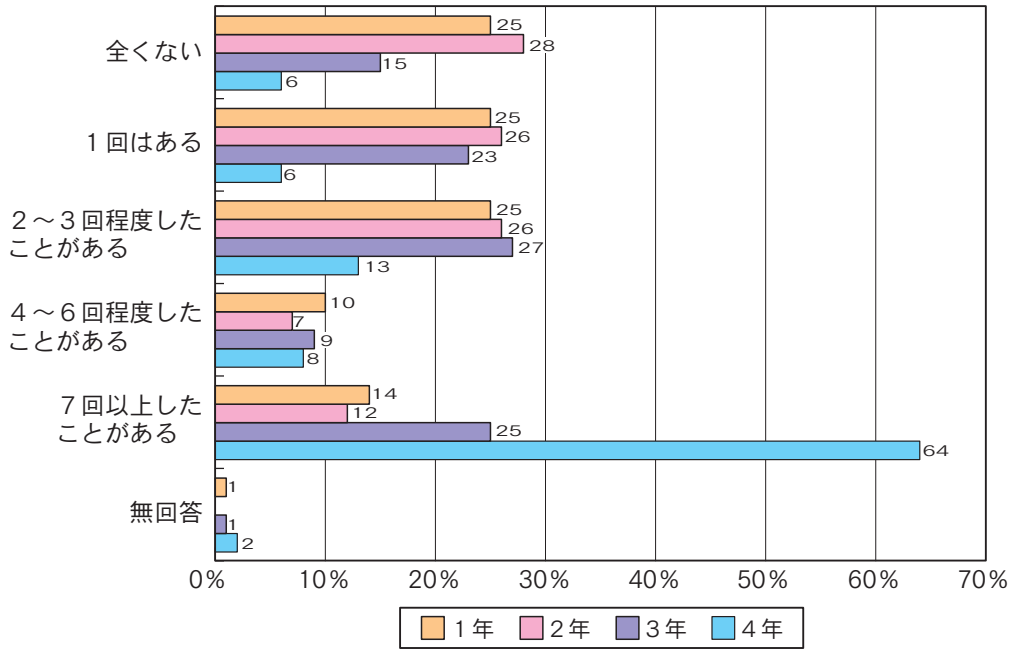

図５－４②　教員との会話，質問（４年制学部・学科）（問 47）

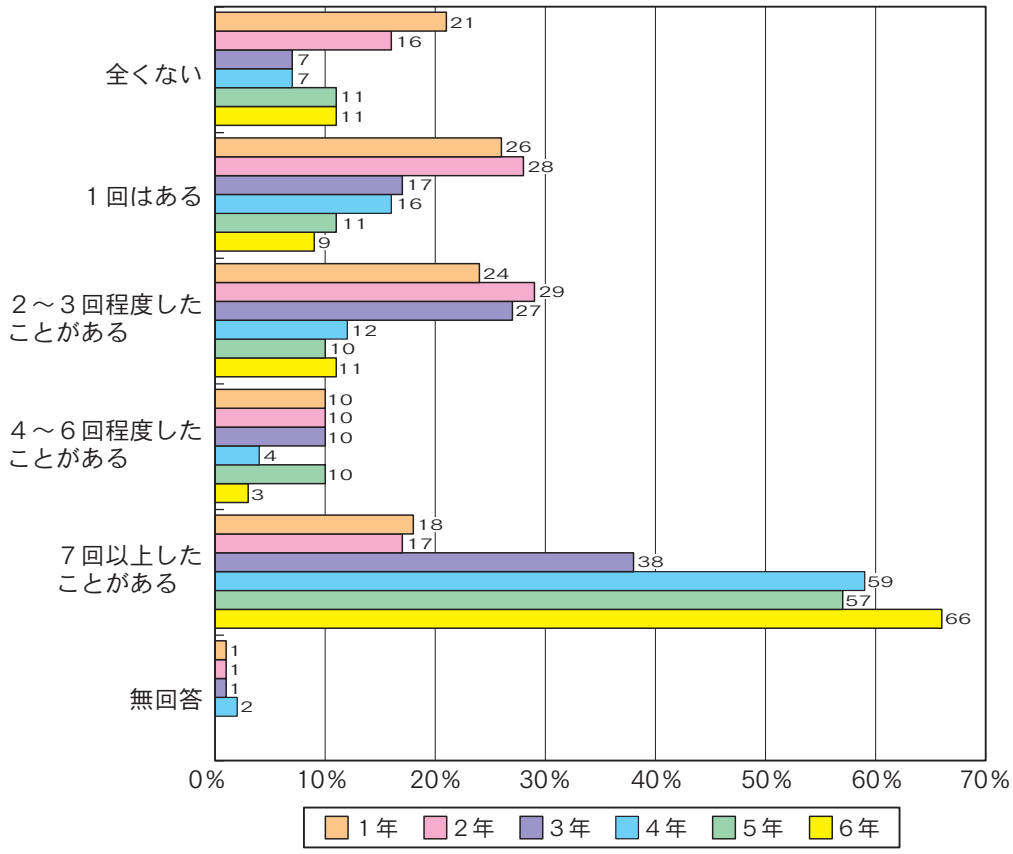

図５－４③　教員との会話，質問（６年制学部・学科）（問 47）

14%よりもやや増加した。この点は対策を講じる必要がある。工学部夜間では，「全くない」と答えた学生が前回調査の 15%から 11%に低下し，「７回以上ある」と答えた学生は，前回調査の 25%から 29%に増加した。担当教員の努力が表れてきたのかもしれない。４年制では，学年が上がるにつれ教員との会話回数が増えるが，４年生で，その増加が顕著であった。６年制でも同様の傾向であり，４年生から６年生で回数が増加した。研究やゼミナールなど指導がより個別化していくためと思われる。学生の中に

は，教員とのコミュニケーションに苦手意識を持つ学生も含まれており，対話形式の授業，合宿形式の授業，体験授業，演習，実習を通じて教員側からの働きかけを強めていくことが望まれる。

【親しい教職員・親しい友人の存在】（図５－４④～図５－４⑥）

「親しい教員がいる」と答えた学生は，全体で19%（前回調査19%）であった。歯学部が最も高く，次いで総合科学部であった。４年制も６年制も学年進行につれて「親しい教職員がいる」と答えた割合が高くなったが，６年制でその傾向がより強かった。より長い期間での交流の成果であることが考えられる。担任制全学導入のガイドラインが制定され，次年度から全学部で担任制の運用が統一されることになっているので，さらに学生と教職員の距離が縮まることが期待される。親しい教員も友人もいないと回答した学生は，全体で７％と前回調査の８％より低下し，親しい友人がいると回答した学生が全体で87%と前回調査の83%より増加した。

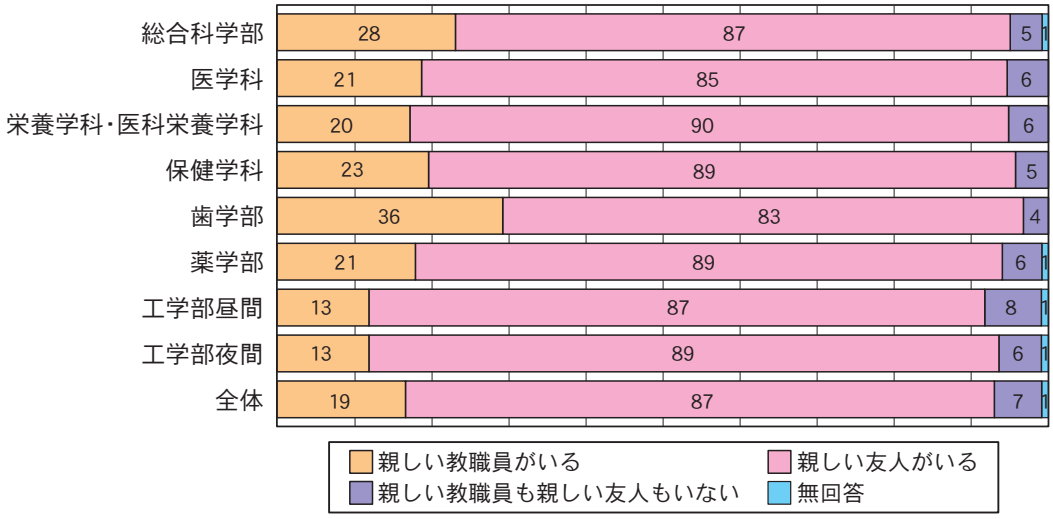

図５－４④　親しい教職員又は親しい友人の存在（全体）（問48）

（※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。）

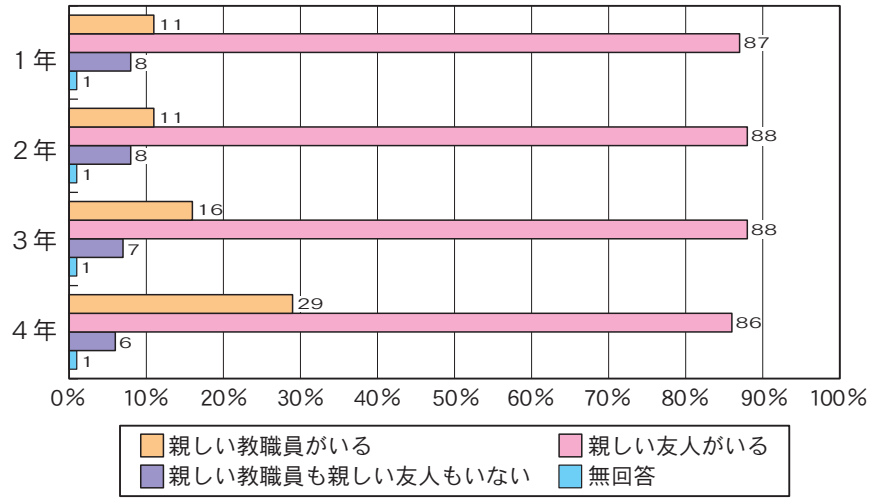

図５－４⑤　親しい教職員又は親しい友人の存在（４年制学部・学科）（問48）

（※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。）

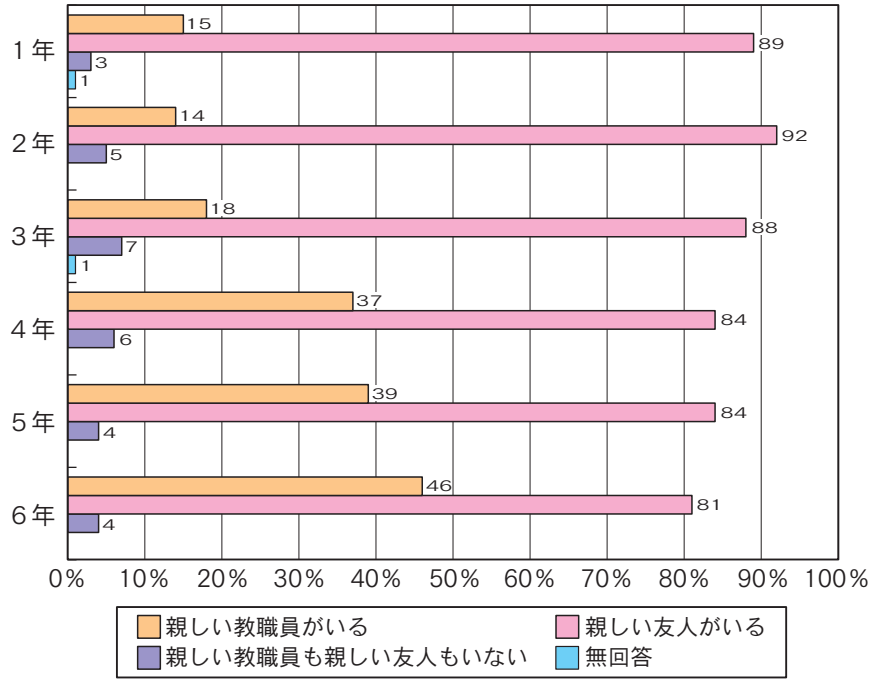

図５－４⑥　親しい教職員又は親しい友人の存在（６年制学部・学科）（問 48）

（※問 48 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

５－５　大学事務室の対応への満足度（図５－５）

全体では，「満足」と「ほぼ満足」とを合わせると 44%であり，前回調査の 48%より低下している。今後は大学職員の丁寧な対応など職員が努力し，細やかな対応をしていくことが期待される。「やや不満足」と「不満足」を合わせた割合は，全体では 19%，学部･学科別では医学科が最も高く 37%であった。満足度が低い学部・学科では改善策を検討する必要がある。

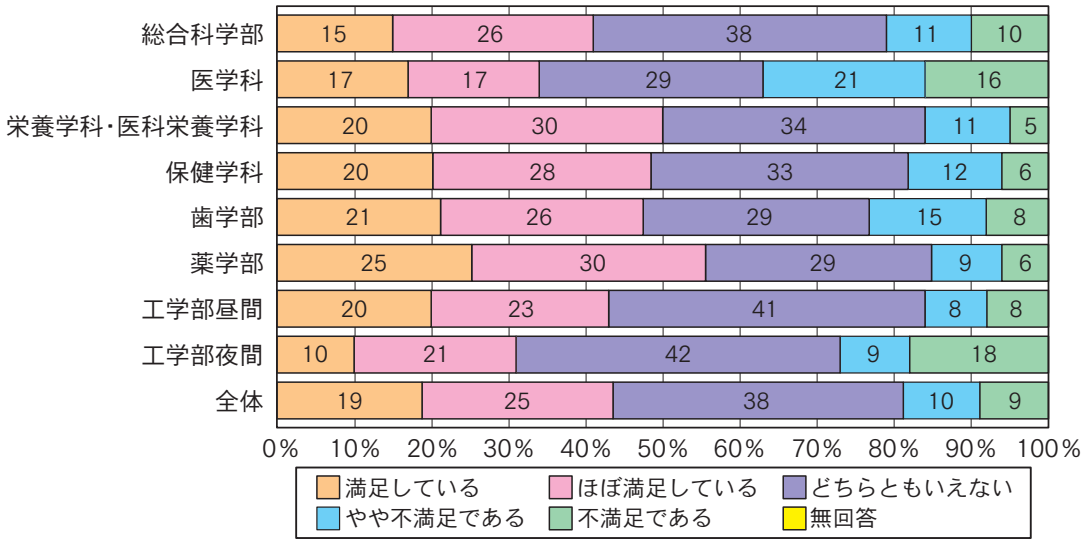

図５－５　大学事務室の対応への満足度（問 49）

5－6　盗難等犯罪被害（図5－6①～図5－6⑤）

【盗難等犯罪被害】（図5－6①～図5－6③）

前回調査，前々回調査同様，盗難の被害にあったと回答した学生は，全体の16%であった。特に工学部夜間では26%と高かった。男子は女子よりも被害にあった割合が高い。これは女子の方が警戒感を高めているからと推測される。今後は男子には防犯広報を強化し，被害を予防する生活態度を固めるよう指導することが必要である。強盗の被害は歯学部と工学部昼間がそれぞれ2％と高く，他にも総合科学部，工学部夜間でそれぞれ1％存在した。強盗の被害比率は男性の方が女性より高かった。また，痴漢にあった学生の割合は全体の1％であった。女性の医学科で6％，薬学部で4％，工学部昼間で4％であり，防犯教育を強化する必要がある。

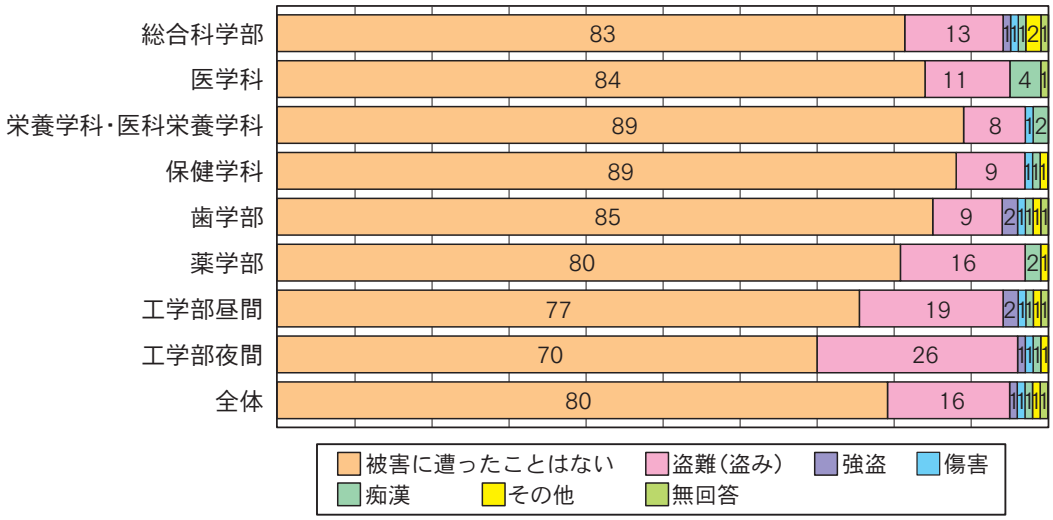

図5－6①　盗難等犯罪被害（全体）（問50）

（※問50は複数回答のため合計は100%にはならない。）

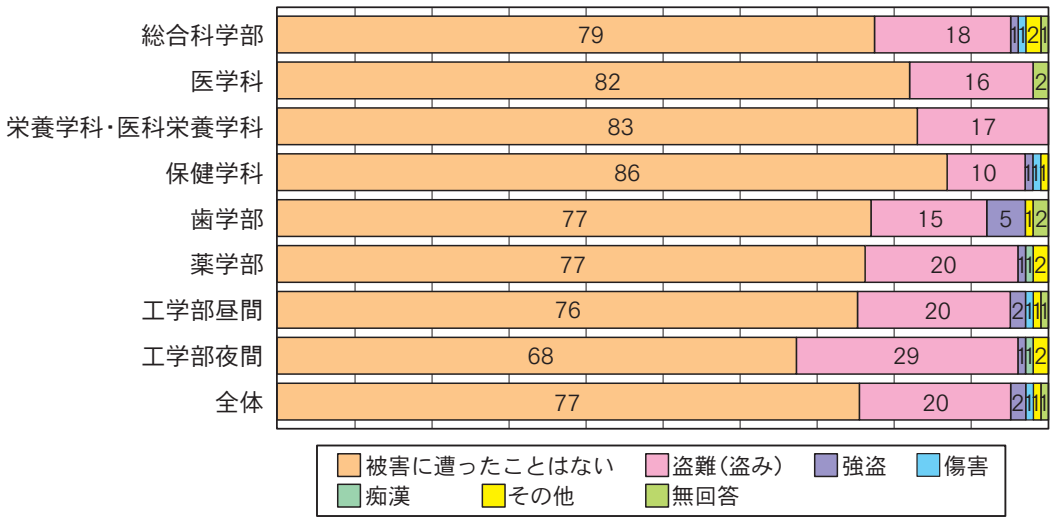

図5－6②　盗難等犯罪被害（男子）（問50）

（※問50は複数回答のため合計は100%にはならない。）

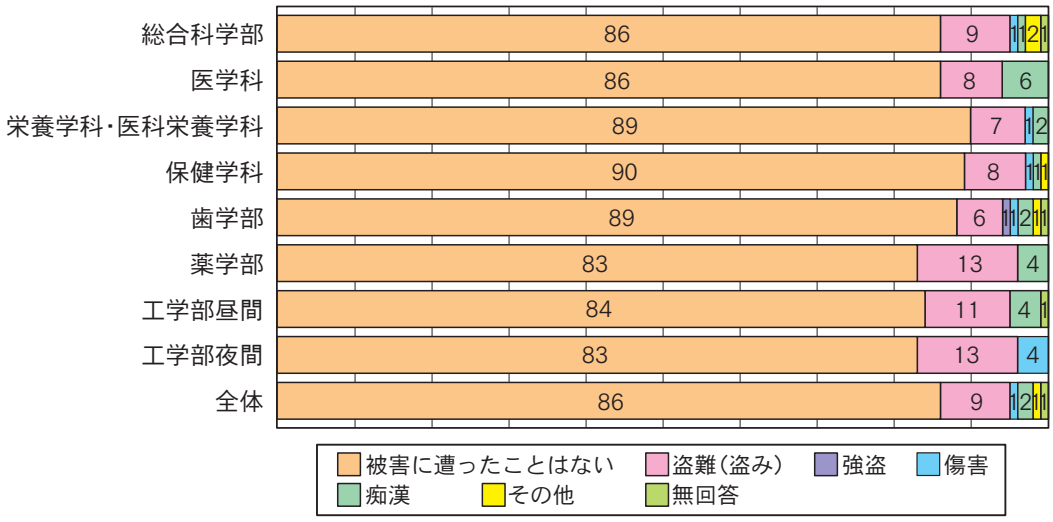

図５－６③　盗難等犯罪被害（女子）（問 50）

（※問 50 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

【盗難被害場所】（図５－６④，図５－６⑤）

前回調査，前々回調査同様，大学構内と答えた割合が男女共，最も高かった。今回の調査では男子全体の47％，女子全体の37％が大学構内と答えている。今後は防犯教育を徹底し，構内に防犯意識を高める啓発ポスターを多数掲示するなどの対策が求められる。また，大学構内で起こった盗難等犯罪被害については，即座に全学に通知し，注意を呼びかけて再発防止を図るべきである。また，大学には盗難等犯罪被害時の警察官の立入りに関するガイドラインが用意されている。学生委員会委員や学生支援の担当教職員が適切に犯罪被害に対応できるよう定期的な研修を行う必要がある。

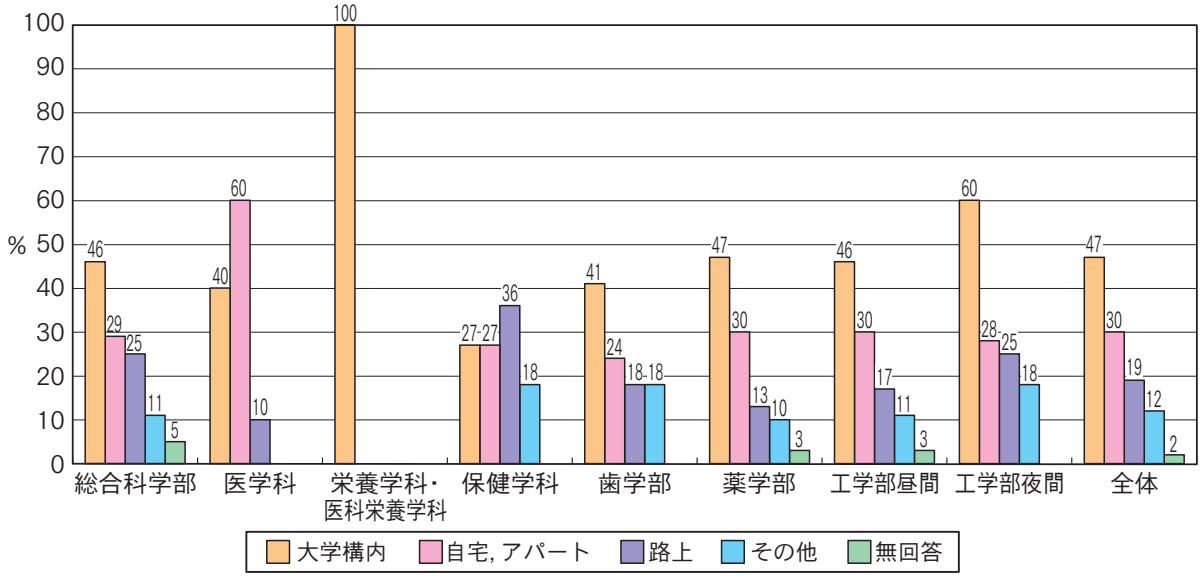

図５－６④　盗難等犯罪被害の場所（男子）（問 51）

（※問 51 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

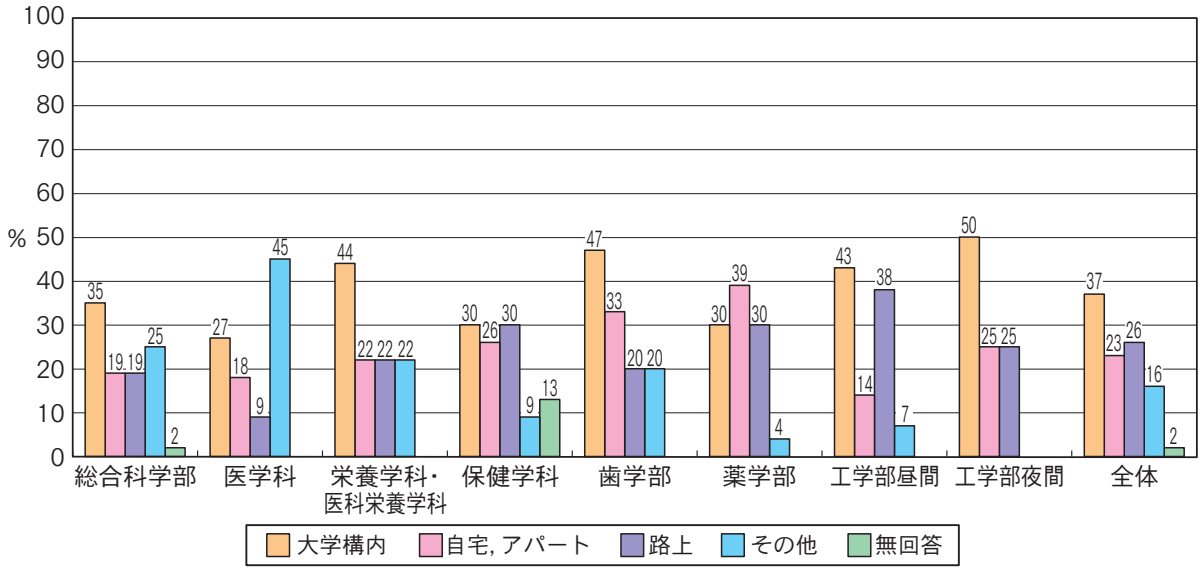

図５－６⑤　盗難等犯罪被害の場所（女子）（問 51）

（※問 51 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

第６章　修学状況について

６－１　本学を選んだ理由と所属学部の満足度（図６－１①，図６－１②）

本学を選んだ理由（複数回答可）は「国立大学だから」が最も多く（46%），続いて「希望する学部・学科があったから」が29%，「地元の大学だから」が27%となっており，前回調査と同様の傾向を示している（図６－１①）。学部別の結果も前回調査とほぼ同様であり，総合科学部と工学部では，「国立大学だから」との回答が最も多く（総合科学部：47%，工学部昼間：45%，工学部夜間：51%），続いて「地元の大学だから」（総合科学部：29%，工学部昼間：25%，工学部夜間：24%）が続く。一方，医学部と薬学部では「希望する学部・学科があったから」との回答が最も多く（医学部：48%，薬学部：62%），続いて「国立大学だから」（医学部：45%，薬学部：48%）が続く。歯学部でも「希望する学部・学科があったから」（38%）が「国立大学だから」（39%），とほぼ同じであり，医療系３学部では

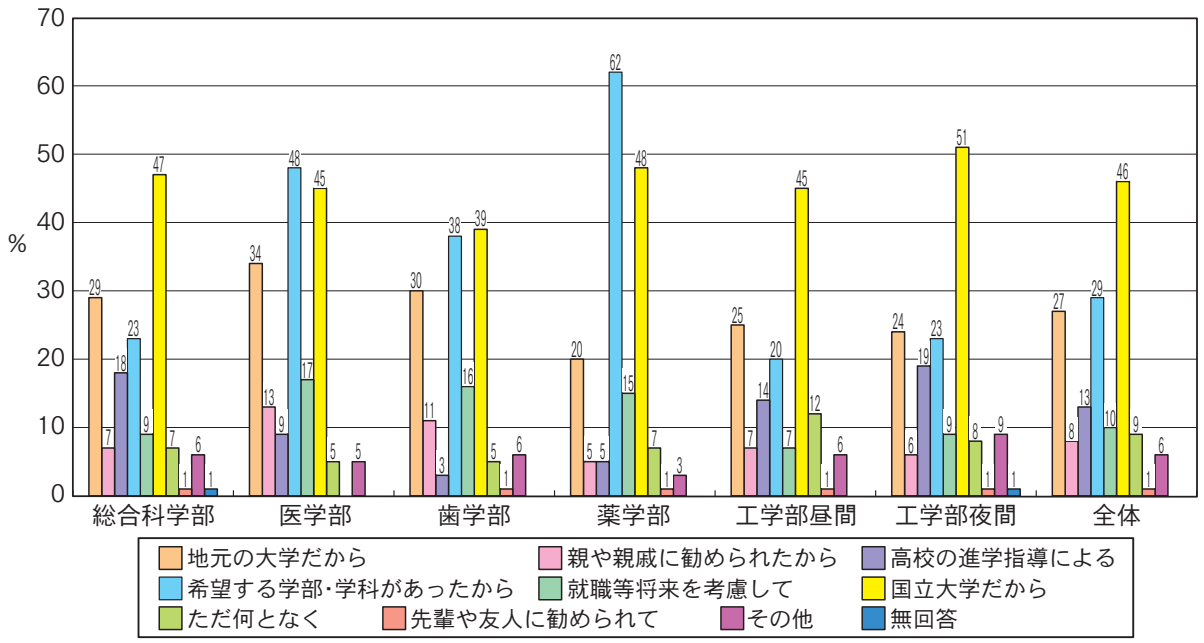

図６－１①　本学を選んだ理由（問52）

（※問52は複数回答のため合計は100%にはならない。）

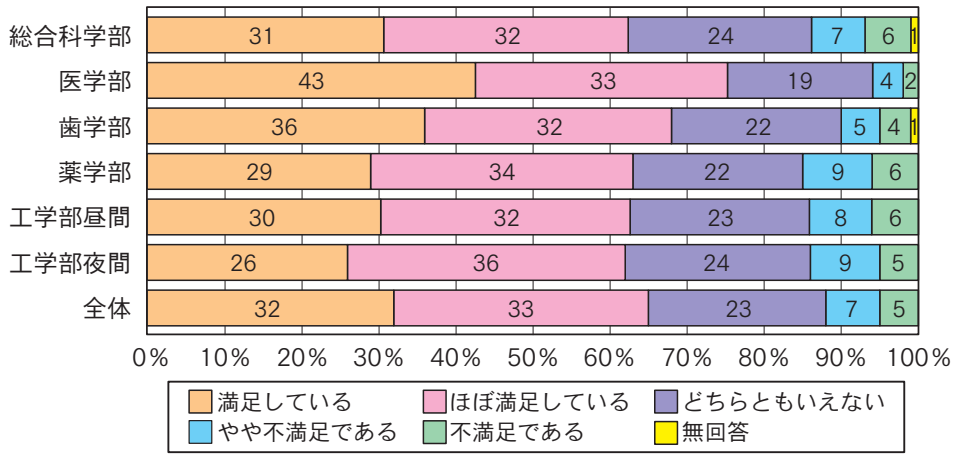

図６－１②　所属学部満足度（問53）

入学時における目的意識の高さがうかがわれる。

所属学部・学科に「満足している」と回答した学生は32%であり，「ほぼ満足している」と答えた学生（33%）と合わせて65%であった（図６－１②）。一方，「やや不満足である」は７%，「不満足である」は５%となっている。学部別に見ると，医学部の満足度（満足している：43%，ほぼ満足している：33%）が非常に高い。最も低い工学部夜間にしても「満足している（26%）」と「ほぼ満足している（36%）」を合わせた回答が62%を示し，概ね，所属学部には満足しているといえる。

６－２　単位取得状況と授業出席状況（図６－２①～図６－２③）

図６－２①より，これまでの単位取得状況について「全部取得できた」（56%）または「ほとんど取得できた」（36%）と回答した学生の割合は92%であり，前回調査（91%）とほぼ同じ割合であった。学部別に見ると，工学部では「全部取得できた」または「ほとんど取得できた」と回答した学生の割合（昼間：88%，夜間89%）が前回調査と同様に全体平均を下回っている。

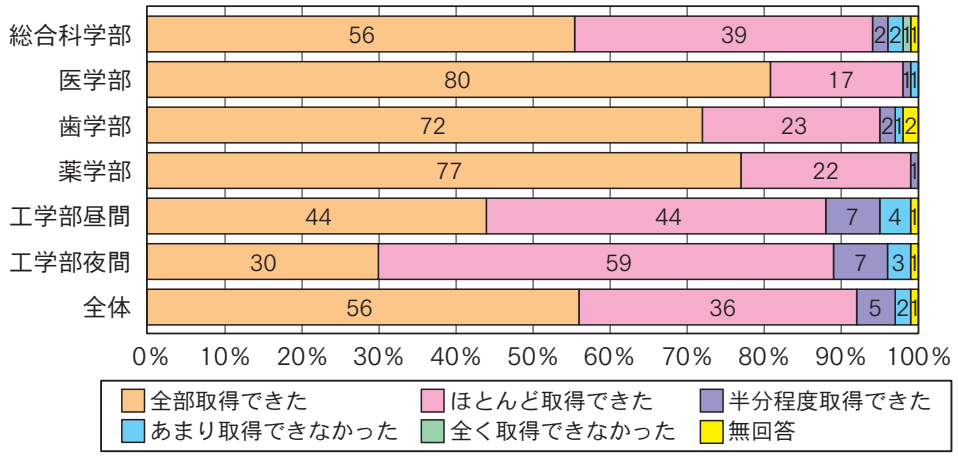

図６－２①　これまでの単位取得状況（問54）

また，授業の出席状況について，図６－２②より，「全部出席している」（38%）または「ほとんど出席している」（50%）と回答した学生の割合は88%であった。学部別に見ると，「全部出席している」または「ほとんど出席している」と回答した学生が前回調査で全体平均（85%）を下回っていた工学部（昼間：83%，夜間：81%）で，昼間（87%），夜間（89%）ともに，出席状況の改善が見られている。

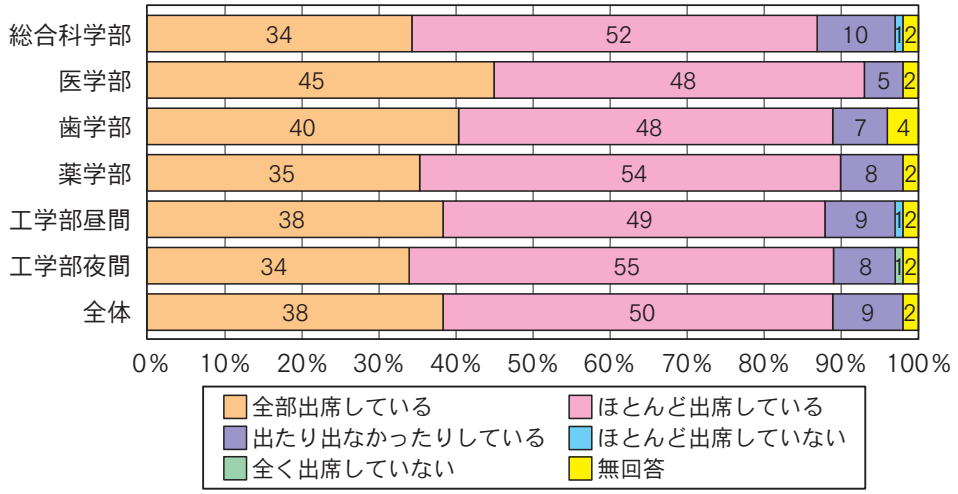

図６－２②　授業出席状況（問55）

授業の欠席理由（複数回答可）については，「授業に魅力がない」が最も多く（37%），続いて「勉学の意欲がわかない」が36%，「授業が理解できない」が16%と、前回調査と変わっていない（図６－２③）。教員には，学生の興味を掻き立てることに加えて，より分かりやすい授業を行うための一層の努力が望まれる。

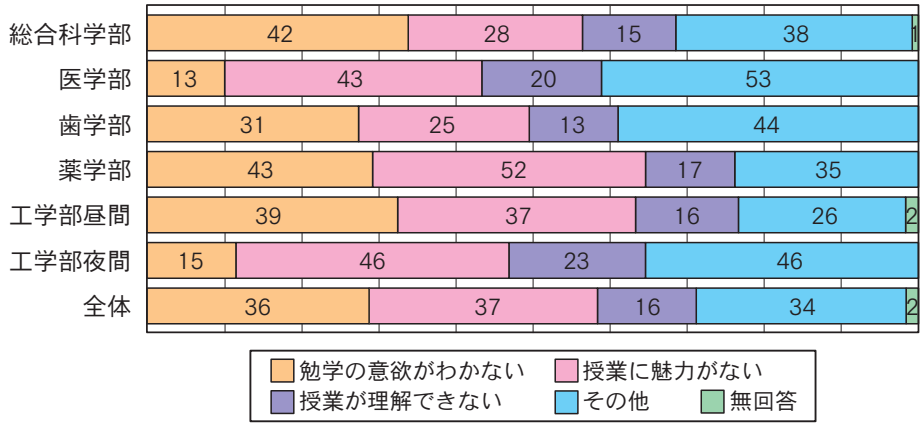

図６－２③　授業欠席理由（問 56）

（※問 56 は複数回答のため合計は 100%にはならない。）

６－３　授業の満足度　（図６－３①，図６－３②）

図６－３①より，受講している授業への満足度に対する設問に対しては，「ほぼ満足している」との回答（44%）が最も多く，続いて「どちらともいえない」が27%，「満足している」が18%，「やや不満足である」が７％，「不満足である」が４％となっている。学部別に見ると，「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は，工学部夜間で51%と前回調査（58%）から大きく下がっている。

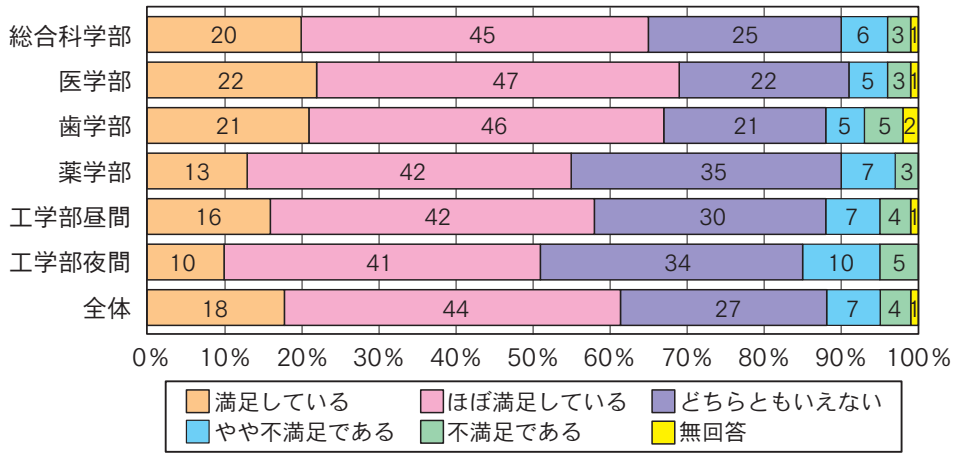

図６－３①　授業の満足度（問 58）

授業が満足できない主な理由（複数回答可）は，「授業内容がつまらない」が最も多く（48%），「教員の教え方に工夫が足りない」が39%，「授業内容が難しすぎて理解できない」が22%と，前回調査（授業内容がつまらない：51%，教員の教え方に工夫が足りない：39%，授業内容が難しすぎて理解できない：21%）と同じ結果となっている（図６－３②）。

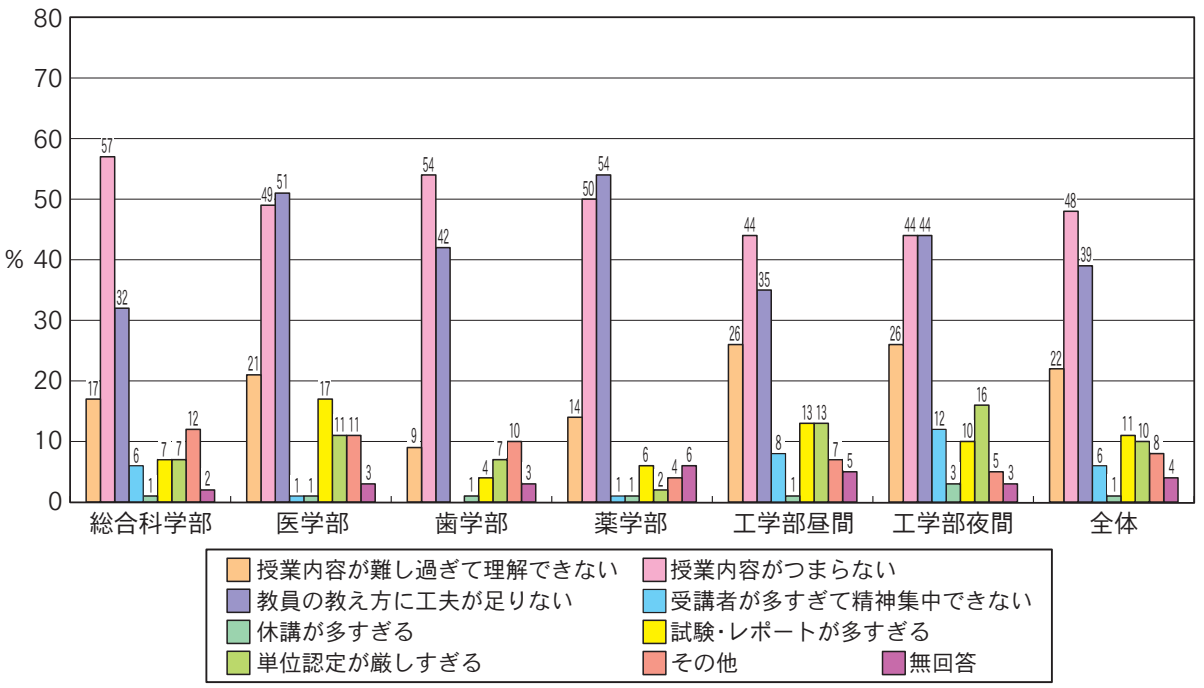

図６－３②　授業が満足できない理由（問 59）

（※問 59 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

６－４　授業予習復習時間とカンニング経験（図６－４①，図６－４②）

授業の予習・復習に費やす１日の平均時間は，「１時間未満」との回答（59％）が最も多く，次いで「１時間以上～２時間未満」が 29％，「２時間以上～３時間未満」が８％となっており，前回調査（１時間未満：57％，１時間以上～２時間未満：28％，２時間以上～３時間未満：８％）と同様に予習・復習に費やす時間は短い（図６－４①）。各学部とも同様の傾向ではあるが，「１時間未満」との回答が薬学部（80％）で突出している。

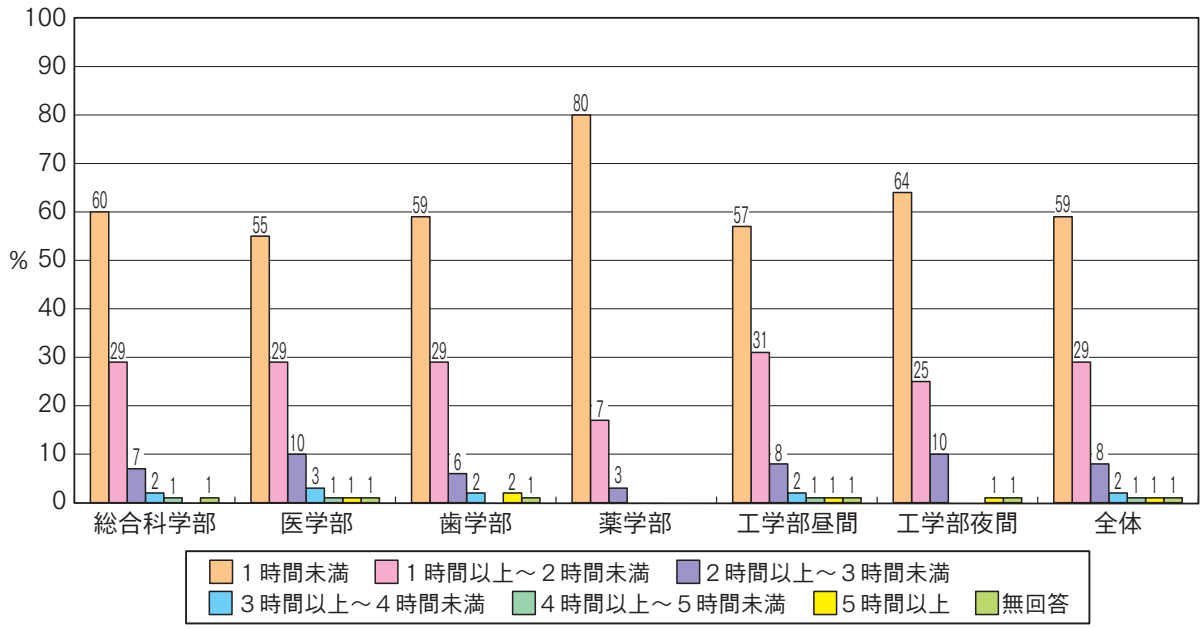

図６－４①　授業の予習・復習時間（問 60）

カンニングをしたことがあるかとの設問には，4%の学生が「ある」と回答しており，前々回調査（９％），前回調査（７％）から減少傾向にある。カンニングに対する各学部の取組の成果と思われるが、根絶に向けてより一層の厳格な取組が求められる。

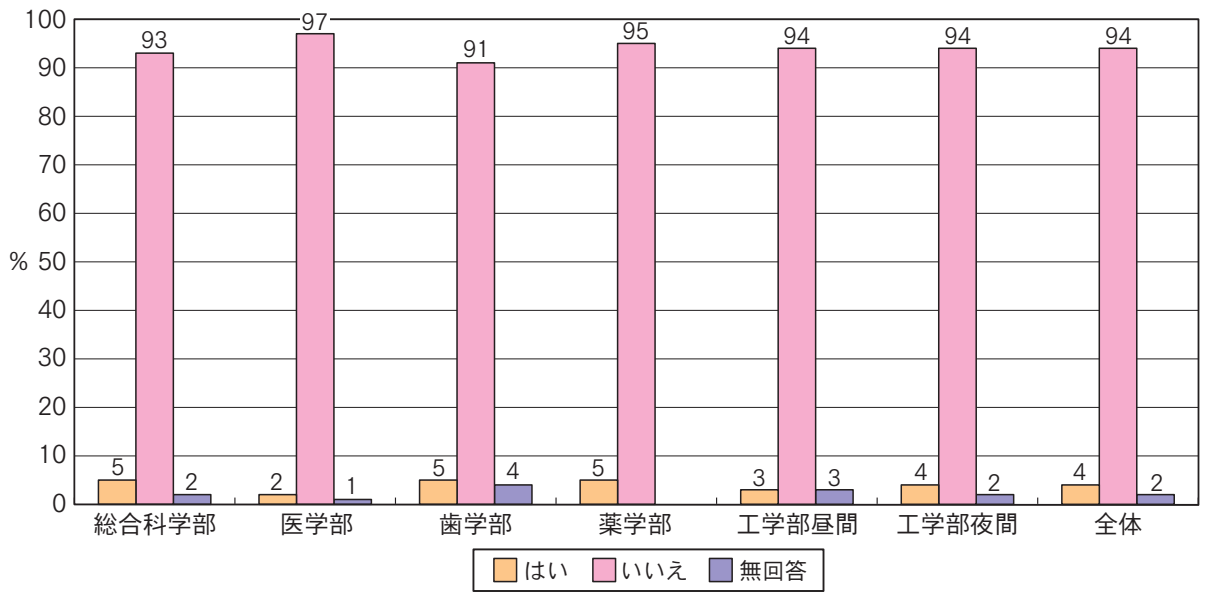

図６－４②　カンニング経験（問 61）

６－５　オフィスアワーの利用状況（図６－５①，図６－５②）

オフィスアワーについては，23%の学生が「利用したことがある」と答えており，前回調査（23%）と同様の結果である（図６－５①）。一方で，「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生（31%）も前回調査（31%）と同じであり，オフィスアワーの周知が進んでいないことがうかがわれ，周知へ向けた一層の取り組みが必要である。学部別に見ると，医学部でのオフィスアワー利用状況が極端に低い（利用したことがある：10%）。

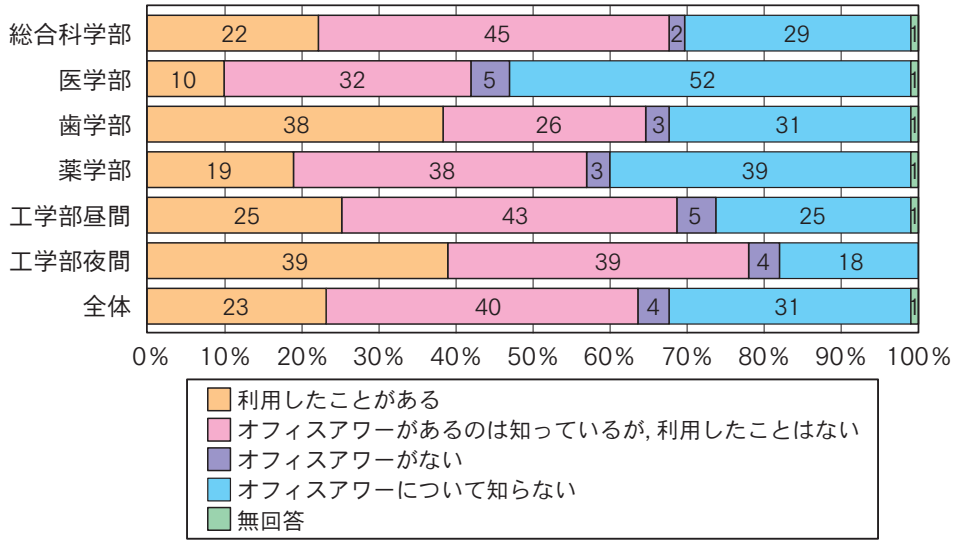

図６－５①　オフィスアワーの利用状況（問 62）

オフィスアワーを利用しない理由として，「講義内容が充分理解できるのでその必要がない」（20%）と「オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる」（10%）と回答した 30%については利用しない

ことに問題はないが，「教員に相談するのが面倒である」（32%），「講義の理解は充分ではないが，どのように質問してよいかがわからない」（14%），「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」（14%）と回答した60%に対しては，学生が相談しやすい環境づくりなどオフィスアワーの利用改善に向けた取組が必要である（図６－５②）。

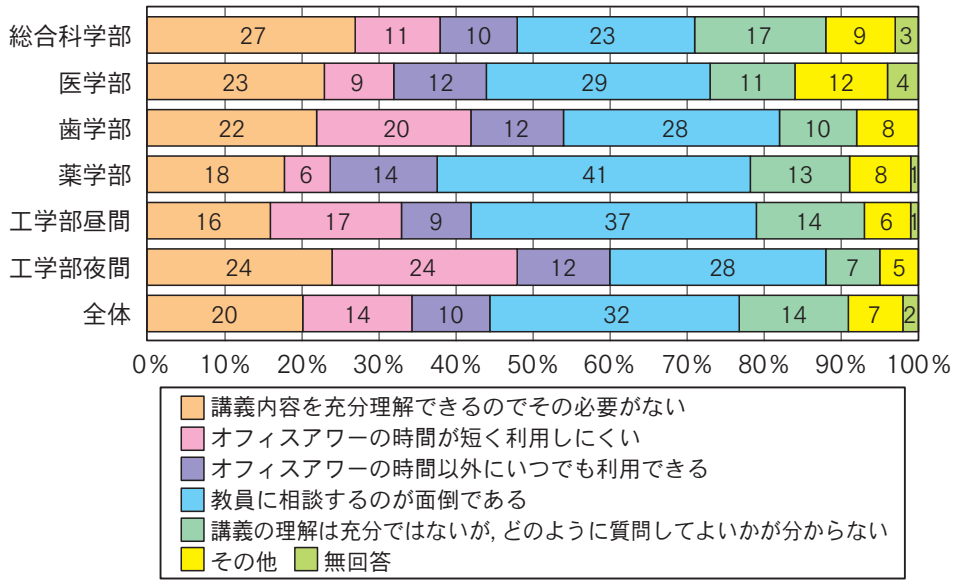

図６－５②　オフィスアワーを利用しない理由（問 63）

６－６　図書館の利用状況（図６－６①，図６－６②）

図書館を１週間に１回以上利用する学生は43%（毎日：６%，週２～３回程度：21%，週１回程度：16%）であり，前回調査の45%とほぼ同じ結果であった。学部別に見ると，薬学部（26%）と工学部夜間（32%）で全体平均を下回っており，両学部の低い利用状況は前回調査（薬学部：25%，工学部夜間：32%）から変わってない。

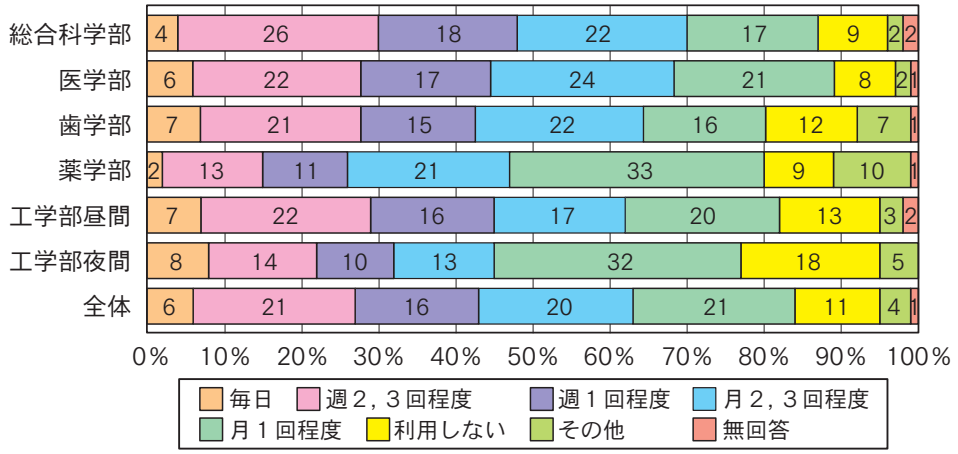

図６－６①　図書館の利用回数（問 64）

図書館を利用する理由（複数回答可）としては「自習」（54%）が最も多く，次いで「図書等の貸し出し」が35%，「パソコンの利用」が24%であり，各学部とも同様の傾向であった。学生の多様なニーズに対応したサービスの一層の充実が望まれる。

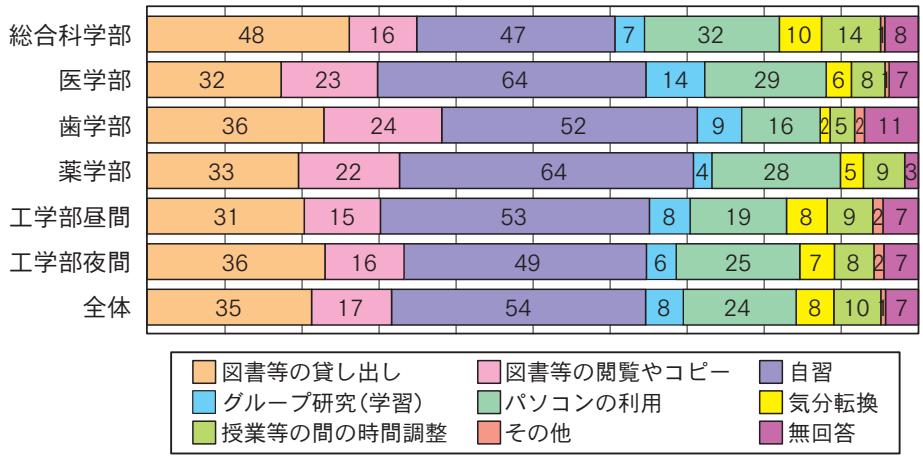

図６－６②　図書館を利用する理由（問 65）

（※問 65 は複数回答のため合計は 100％にはならない。）

第７章　課外活動について

７－１　サークル加入状況（図７－１①～図７－１③）

＜加入率＞

サークルへの加入率は，全体で68％を占めている。体育系サークルと文化系サークルの比較では学内及び学外合わせて体育系43％，文化系25％であり，体育系サークルへの加入率が高い。前回調査との比較では，「学内体育系サークル」は40％で前回調査（41％）と微減であり，「学内文化系サークル」は23％で前回調査（24％）から微減であった。「以前加入していたが現在は加入していない」は15％，「加入したことがない」は16％を示し，加入していない学生は４％増加している。サークル加入率は，前回調査時より微減の傾向を示している。

学部別のサークル加入状況（図７－１①）は，総合科学部，医学部，歯学部では，それぞれ70％，77％，71％の学生が学内及び学外のいずれかの体育系，文化系サークルに加入している。薬学部は78％であり前回調査時（71％）から７％増加している。工学部昼間・夜間では，それぞれ63％，48％であり前回調査時（65％，42％）から工学部昼間は微減，夜間は増加となっている。学内・学外文化系サークルへの加入者が最も多いのは総合科学部（35％）であり，学内・学外体育系サークルでは，医学部（56％），歯学部（55％），薬学部（69％）の３学部で加入率が高い。

「以前加入していたが現在は加入していない」との回答割合は15％あり，前回調査時の12％より増加傾向にある。

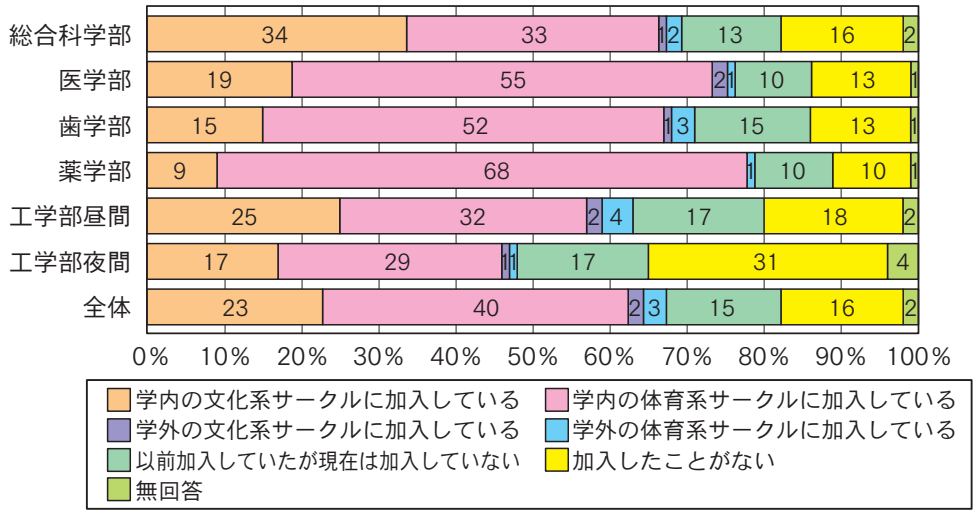

図７－１①　サークル加入状況（学部別）（問66）

＜男女別＞

男女別のサークル加入率（図７－１②）については，学内文化系については女子学生の方が男子学生に比べて７％加入率が高く，体育系については女子学生の方が男子学生に比べて１％加入率が高かった。サークルに加入したことがない学生については，男子学生18％（前回調査17％），女子学生13％（前回調査13％）なっており，男子学生と女子学生共に昨年同様の傾向であった。

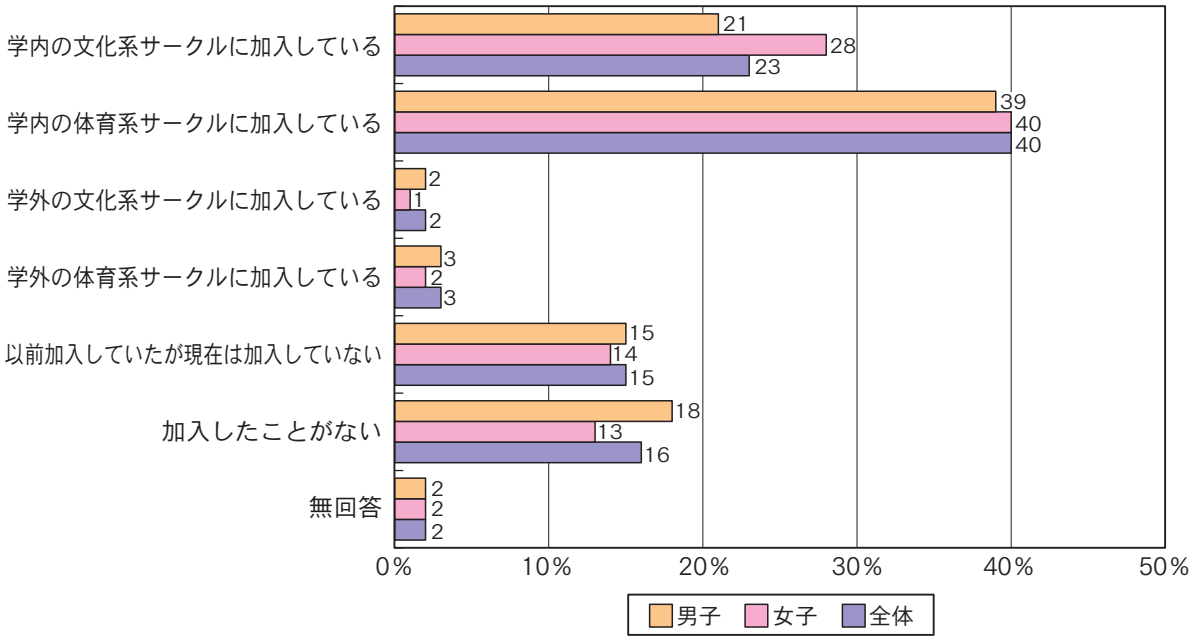

図７－１②　サークル加入状況（男女別）（問 66）

＜学年別＞

学年別（図７－１③）では，４年生の体育会系サークルでは，微増しているものの，１年生から４年生への学年進行とともに，全体的にはサークル加入率が低下し，「以前加入していたが現在は加入していない」学生の割合が増加している。

５年生，６年生は医学部医学科と歯学部歯学科の学生の動向を表している。体育系のサークル加入率が 50％を超えて維持されていることが特徴で，前回調査時と同様な傾向にある。

今回の調査では，６年生の無回答が６％あった。

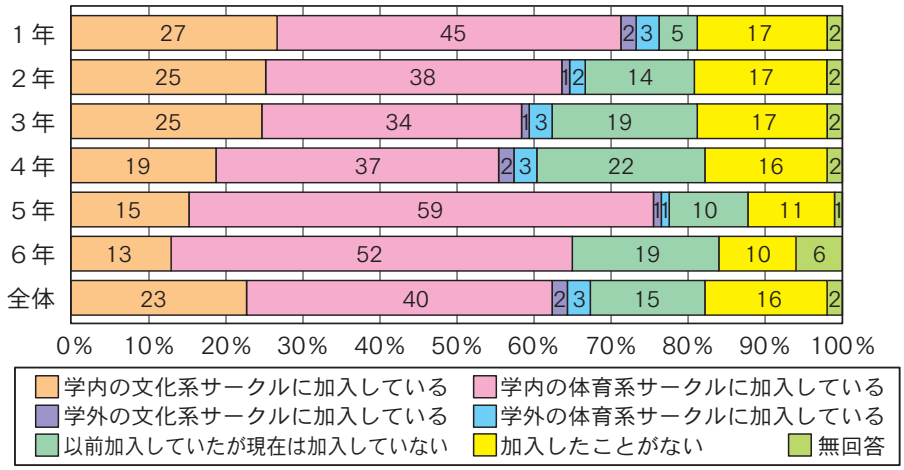

図７－１③　サークル加入状況（学年別）（問 66）

７－２　活動状況（図７－２①，図７－２②）

サークル活動状況（図７－２①）は，2,333 名のサークル入会者の回答を検討した。「かなり熱心に活動している」は 30％で，「まあまあ熱心に活動している」は 42％であり，72％の学生がサークル活動を積極的にすすめている。「どちらとも言えない」が 13％，「あまり活動していない」が８％，「ほとんど

活動していない」が７％である。これらの結果は，前回調査時とほぼ同様の割合である。サークル加入者の活動状況は前回調査時と同様に活発だといえる。

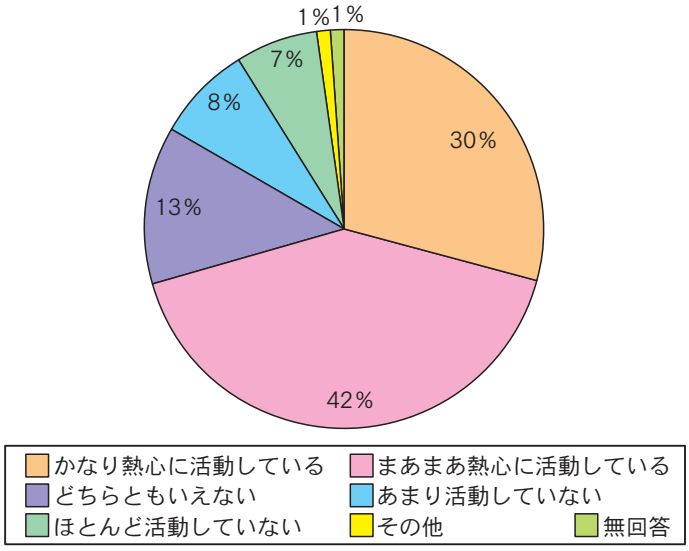

図７－２①　サークル活動状況（全体）（問 67）

＜学年別＞

学年別（図７－２②）のサークル活動状況の内，１年生から４年生については，すべての学年で65％以上の学生が熱心に活動していると回答した。１年生から４年生の活動状況は前回調査時とほぼ同程度であった。５年生，６年生は医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答であるが，熱心に活動している学生が60％前後と大幅に減少する傾向にある。前回調査時と比較すると熱心に活動している学生が５年生では55％から59％に微増，６年生では69％から62％に減少していることが確認できる。

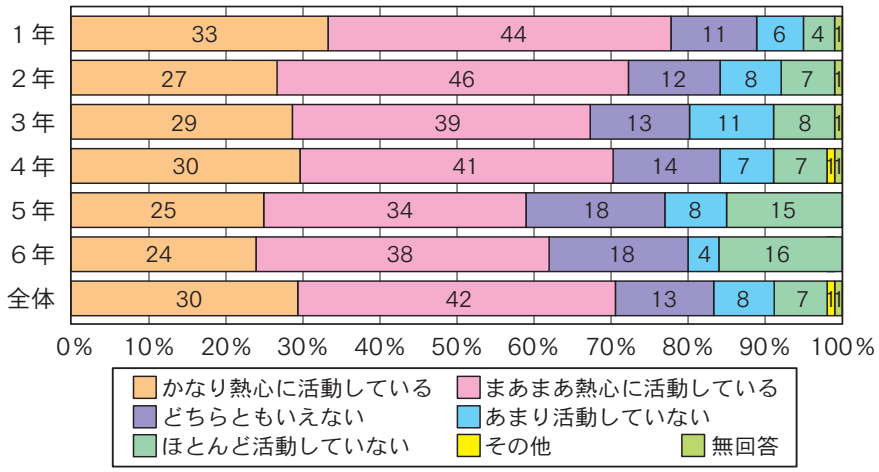

図７－２②　サークル活動状況（学年別）（問 67）

７－３　加入の動機（図７－３①～図７－３②）

サークルへの加入動機（図７－３①）は，「サークルの活動内容に魅力があったから」が46％で最も高く，次いで「先輩・友人に勧められたから（13％）」，「学生生活を豊かにするため（11％）」が拮抗しており，「友人を得るため（９％）」と続いている。

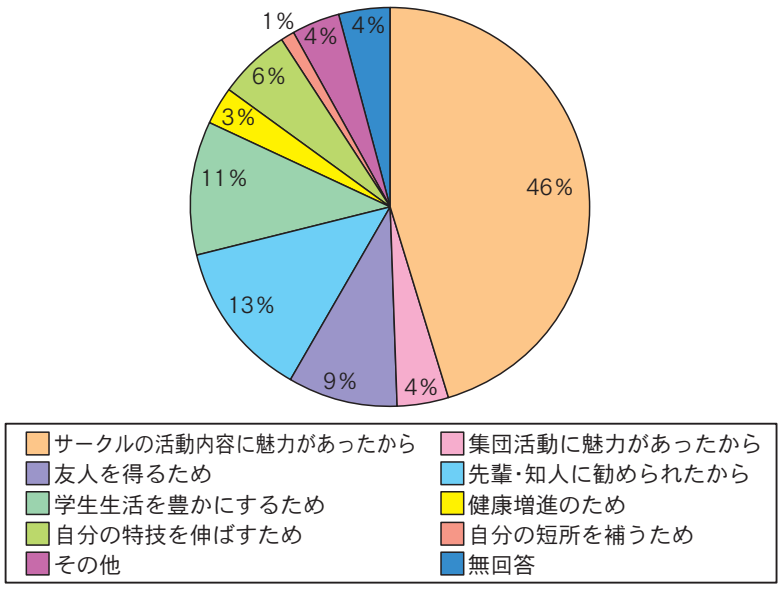

図７－３①　サークルに加入した主な動機（全体）（問 68）

＜男女別＞

男女別（図７－３②）にみたサークル加入動機は，「サークル活動内容に魅力があったから」が男女ともに最も高く，男子学生で 44%，女子学生で 49%と共に概ね半数に近い。

男女で顕著な差が現れるのは，「学生生活を豊かにするため」とするもので，女子学生の方が男子学生に比べ７％高かった。一方，男子学生は，「集団活動に魅力があったから」，「自分の特技を伸ばすため」

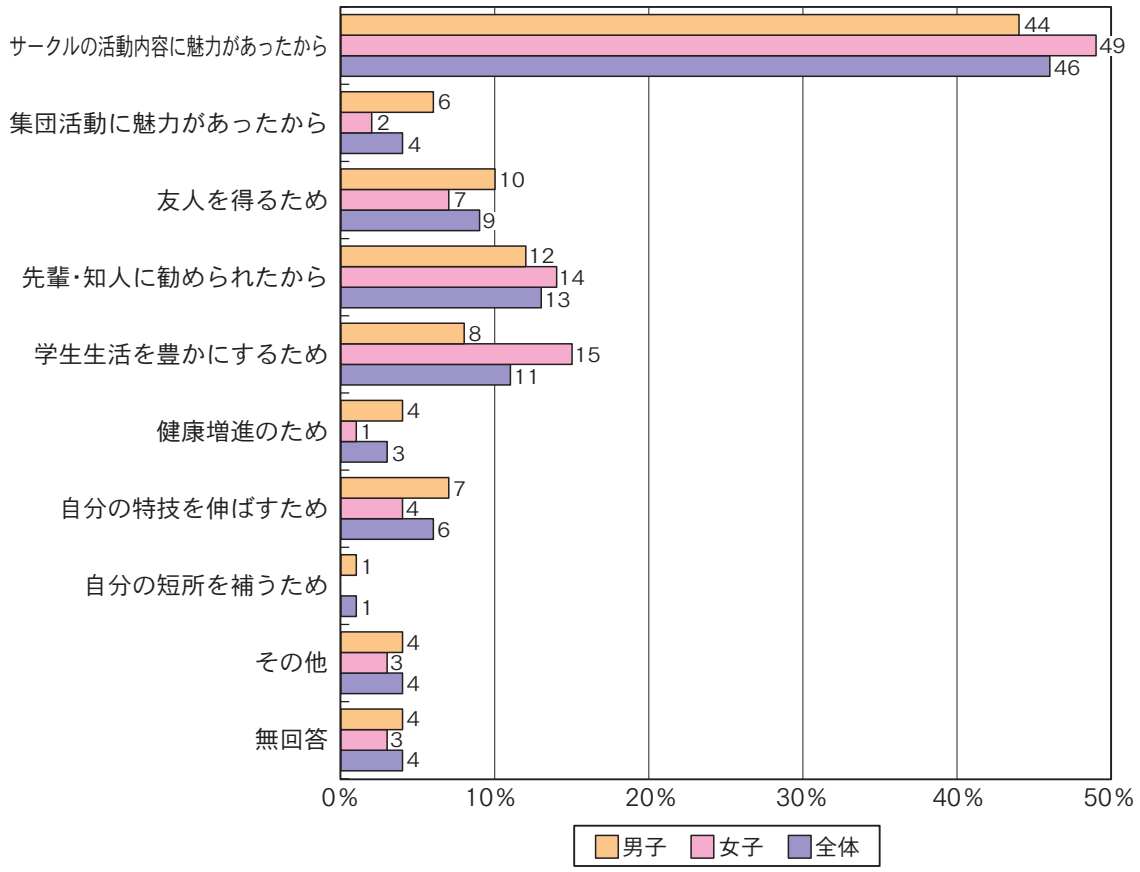

図７－３②　サークルに加入した主な動機（男女別）（問 68）

及び「健康増進のため」というものが，女子学生よりも高い動機として現れた。

7－4　サークルに加入していない理由（図7－4①～図7－4④）

サークルに加入していない945名の回答結果（図7－4①）から，最も高いのが「魅力的なサークルがない（22%）」であり，「学業の妨げになる（15%）」，「特に理由がないが何となく（14%）」，「個人の自由が束縛される恐れがある（11%）」「アルバイトをしているので時間的余裕が無い（9％）」と続いている。一方で「練習がいやである（14%→3％）」，「集団生活についていけない（11%→3％）」，及び「通学に時間がかかるので時間的余裕がない（11%→4％）」は前回調査から大きく減少している。

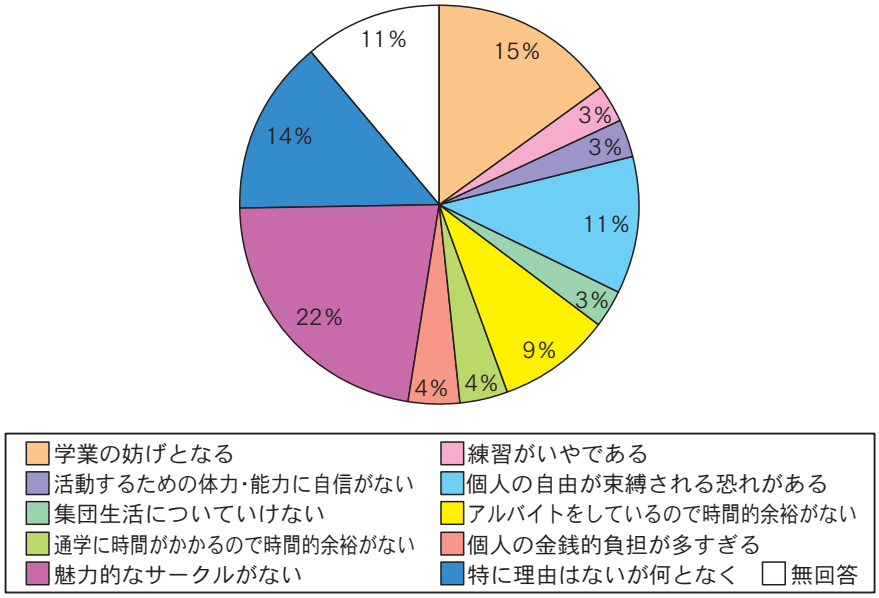

図7－4①　サークルに加入していない主な理由（全体）（問69）

＜男女別＞

加入しない理由を男女別(図7－4②)で見てみると，「個人の自由が束縛される恐れがある(男子12%，女子8％)」，「特に理由はないがなんとなく（男子16%，女子11%）」については男子学生のほうで，「通学に時間がかかるので時間的余裕がない（男子3％，女子6％）」，「個人の金銭的負担が多すぎる（男子4％，女子6％）」については女子学生のほうで理由にあげられる割合が高かった。

＜学部間の比較＞

学部別の未加入理由を示したのが，図7－4③である。図7－1①で示されたように，未加入率が平均より高い学部は，工学部夜間48%，工学部昼間35%となっている。前回の調査時には工学部夜間52%，工学部昼間30%となっていたが，特別大きな変化は無く他学部と比較して未加入の割合が高い。未加入の理由は，学部別でも大きな差異は見られず，「魅力的なサークルが無い」，「学業の妨げとなる」，「個人の自由が束縛される恐れがある」がその上位をしめている。総合科学部，医学部と工学部昼間では「魅力的なサークルがない」，薬学部と工学部夜間では「学業の妨げとなる」の比率が理由として高い。「特に理由はないがなんとなく」は，学部に依存せず前回調査に比べ減少した。

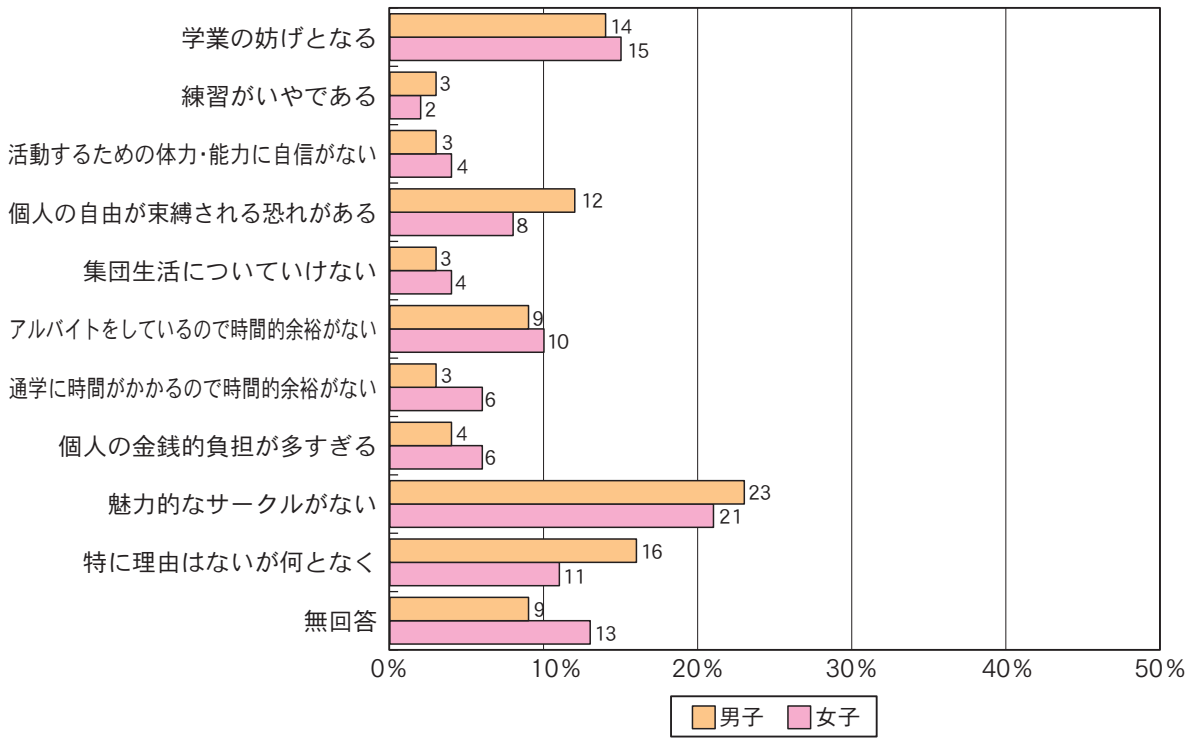

図７－４②　サークルに加入していない主な理由（男女別）（問 69）

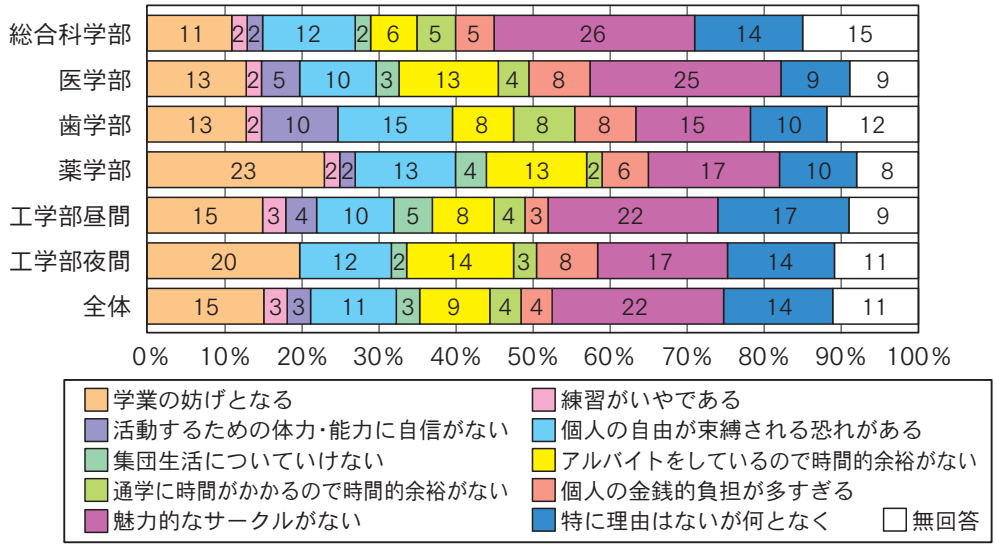

図７－４③　サークルに加入していない主な理由（学部別）（問 69）

＜学年別＞

学年別の結果を図７－４④に示す。「魅力的なサークルがない」が学年が上がるにつれてその比率が減少している。それ以外の理由の比率が均等化して行く傾向が確認できる。「個人の自由が束縛される恐れがある」では学年別の差異が少ない。「学業の妨げとなる」では，学年の増加に対する相関は少ない傾向であった。

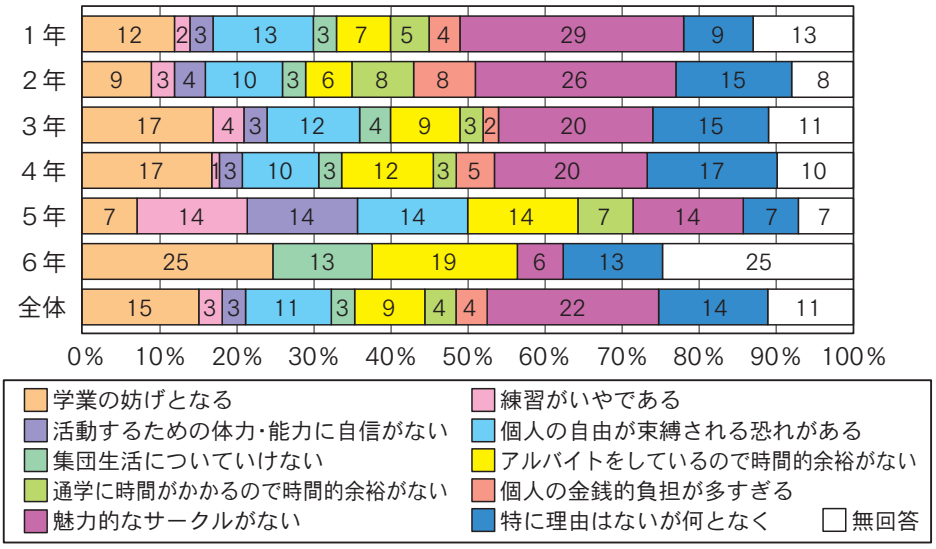

図７－４④　サークルに加入していない主な理由（学年別）（問 69）

７－５　学生行事（図７－５①～図７－５④）

新入生歓迎会や大学祭などの学生行事（図７－５①）については，その必要性を74％が認めている。ただし必要だがあまり参加しない層が34％と多い。この傾向は，前回調査時とほぼ同じであった。

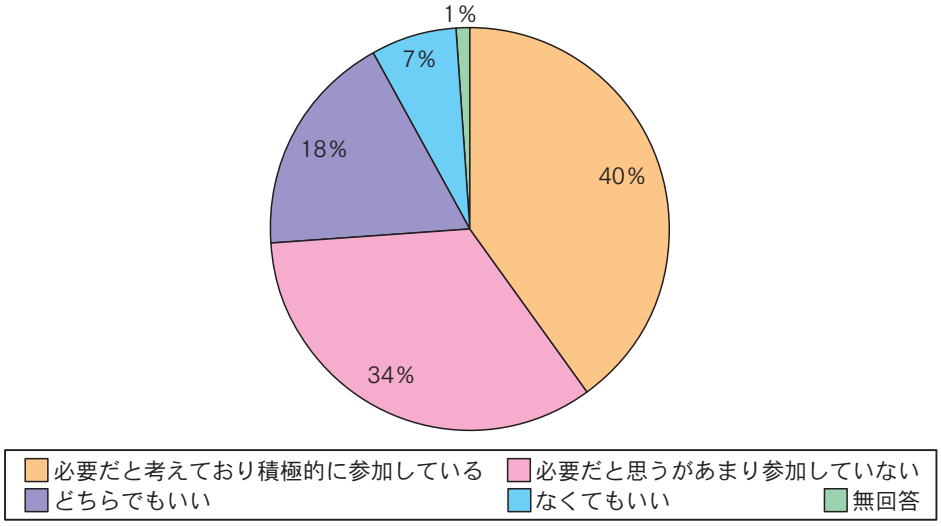

図７－５①　新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（全体）（問 70）

＜学部別＞

学部別の意識を図７－５②に示した。「必要だと考えており積極的に参加している」または「必要だと思うがあまり参加していない」と回答した学生行事の必要性を認めている学生は，全ての学部で63％～80％と多かった。ただし，積極的に参加している学生は工学部では少ない。特に工学部夜間では25％と最も多い医学部の52％の半分以下である。

前回調査との比較では，全体としてはほぼ同様の結果であったが，薬学部では「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した学生の割合が６％増加している。工学部昼間では，「必要だと考えており積極的に参加している」が４％増加したのに加え，「必要だと思うがあまり参加していない」におい

ても５％増加しており，工学部昼間においては大学祭などの学生行事への関心が増加していることが確認できた。

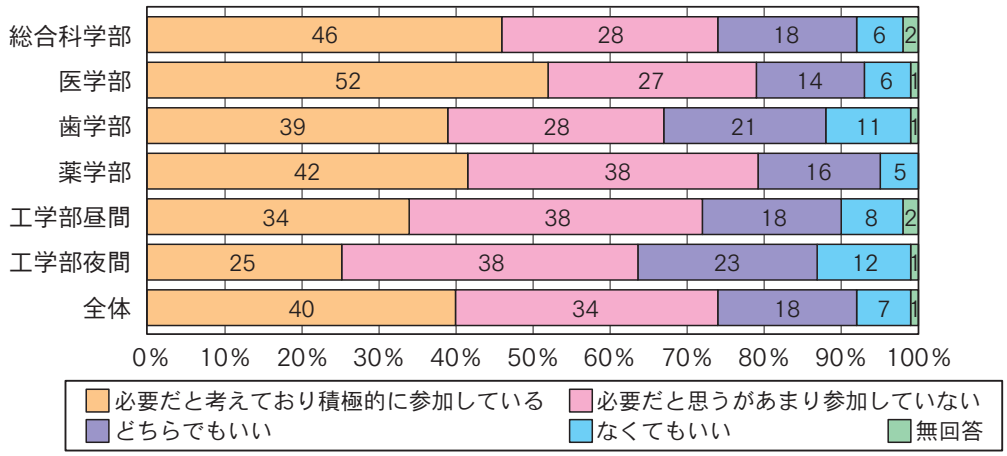

図７－５②　新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（学部別）（問 70）

＜男女別＞

男女別（図７－５③）では，「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した男子学生は 36％であるのに対し，女子学生は 46％であった。一方，「どちらでもいい」との回答は男子学生が 19％，女子学生が 16％，「なくてもいい」は男子学生が９％，女子学生が５％であった。これらの結果は，女子学生のほうがより強く必要性を認め，また，参加意欲が高いことを示している。この傾向は，前回調査時とほぼ同じであった。

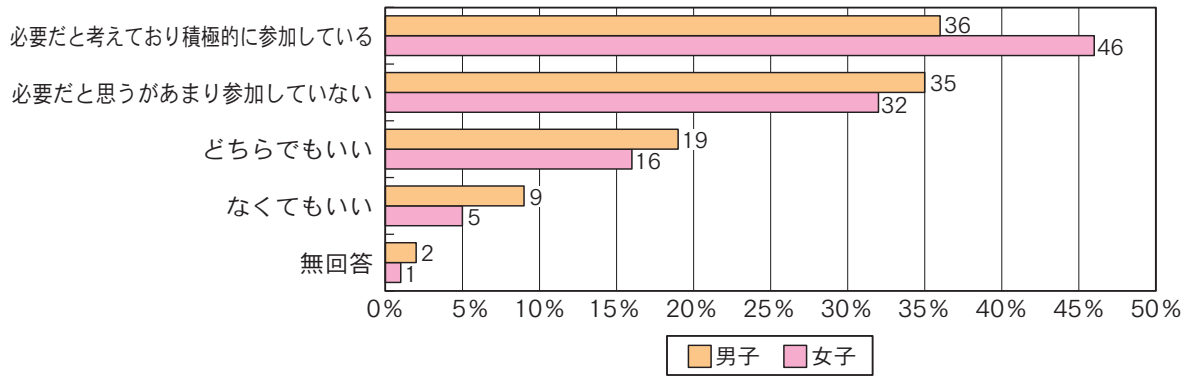

図７－５③　新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（男女別）（問 70）

＜学年別＞

学年別の参加と意識の状況を図７－５④に示す。「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した学生の割合は，１年生で最も高く，６年生でも２番目に高い，優位性は低いが４年生でも３番目に高いことから，入学時や卒業年度に関心が高くなっていると考えられる。４年生において「どちらでもいい」と回答した学生が少ないこともこれを裏付けていると考えられる。

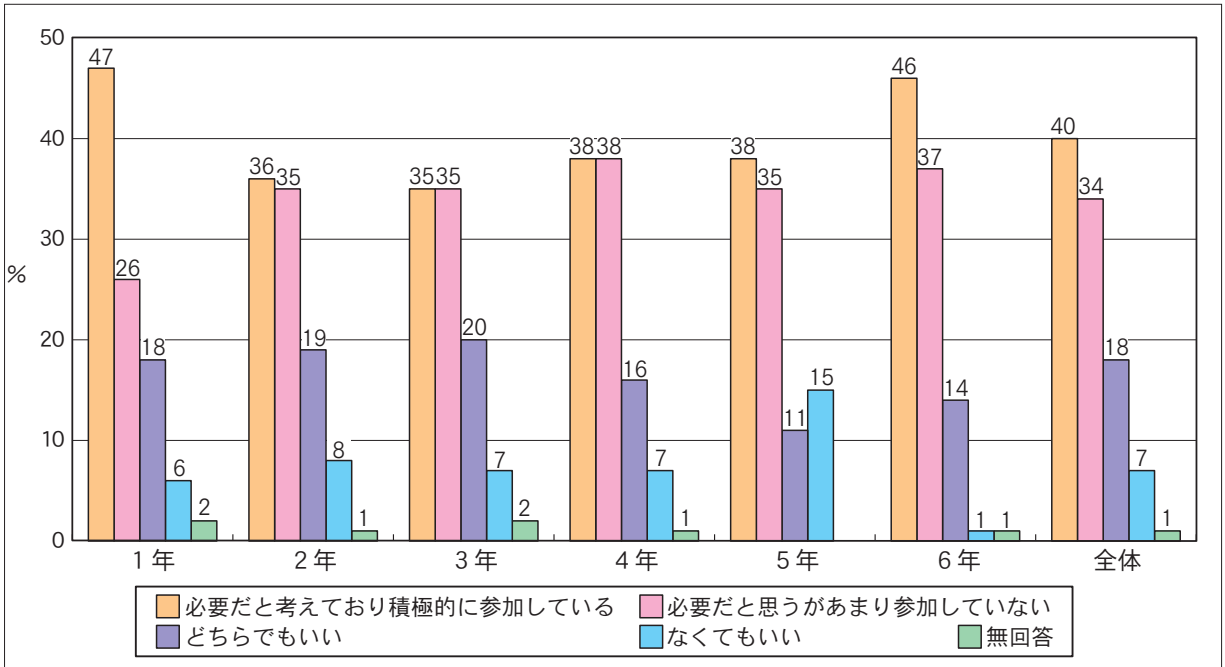

図７－５④　新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（学年別）（問 70）

７－６　大学祭への参加状況（図７－６①，図７－６②）

大学祭への参加意志（図７－６①）は，前回調査と同様に全体の 53%が「参加する」と回答している。前回調査時と同様，医学部学生の参加率が最も高く，73%であった。総合科学部および歯学部も，57%の学生が参加している。一方，薬学部，工学部昼間，工学部夜間の参加率はそれぞれ 48%，47%，38%と比較的少ない。

前回調査との比較では，総合科学部および歯学部で「参加する」と回答した学生が前回調査時の 65%から８%減少，薬学部では逆に前回調査時の 41%から７%増加している。

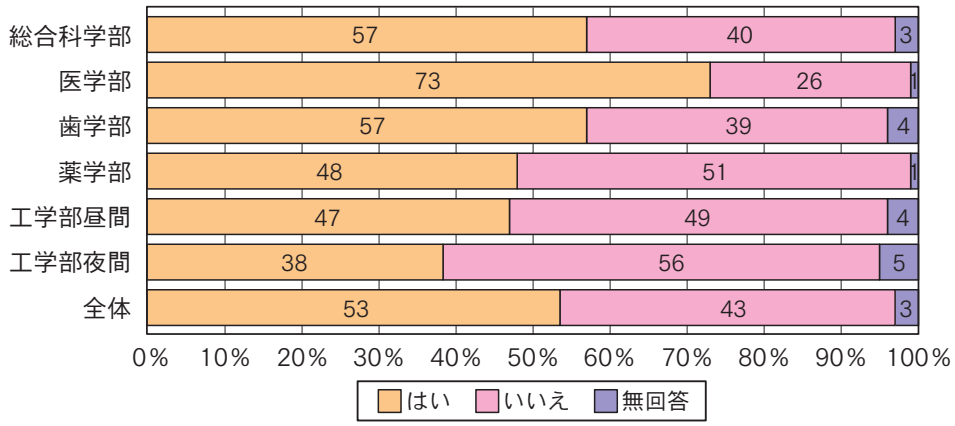

図７－６①　大学祭への参加（学部別）（問 71）

＜学年別＞

学年別（図７－６②）では，１年生 69%，２年生 55%，３年生 47%，４年生 43%と学年進行に従って参加率は減少し，不参加者の割合が増加していた。前回の調査時には65%であった１年生の参加率が増加している。

医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答である５年生，６年生の参加率は，それぞれ 47%，

39%であり学年進行による減少傾向がみられた。

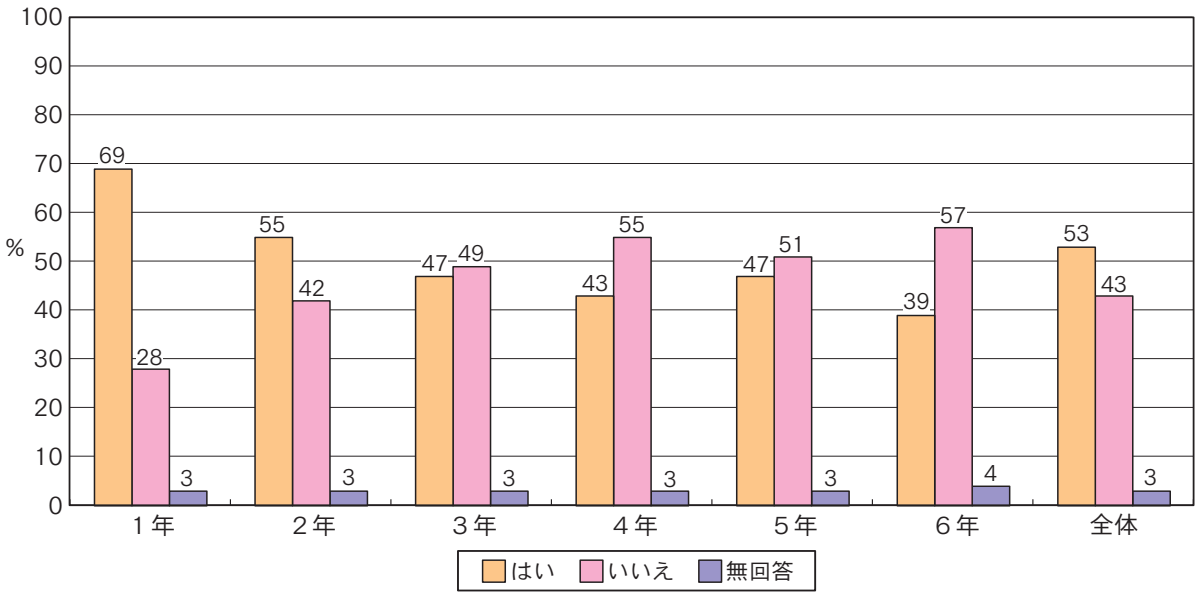

図７－６②　大学祭への参加（学年別）（問 71）

７－７　ボランティア活動（図７－７①，図７－７②）

＜大学入学後のボランティア活動＞

ボランティア活動（図７－７①）では，全体では「個人でしたことがある」学生は16%，「団体（組織）に入ってしたことがある」学生は21%であり，合わせて37%の学生がボランティア活動を経験している。前回調査時は31%であったので増加傾向が伺える。総合科学部が前回調査時の44%から51%に増加し，前回調査時に39%であった医学部の46%を上回った。工学部夜間が23%から30%に，工学部昼間は24%から32%に，薬学部は19%から23%にそれぞれ増加した。いっぽうで，歯学部が前回調査時の29%から23%に減少した。

歯学部以外が増加したため，全体では増加傾向にある。

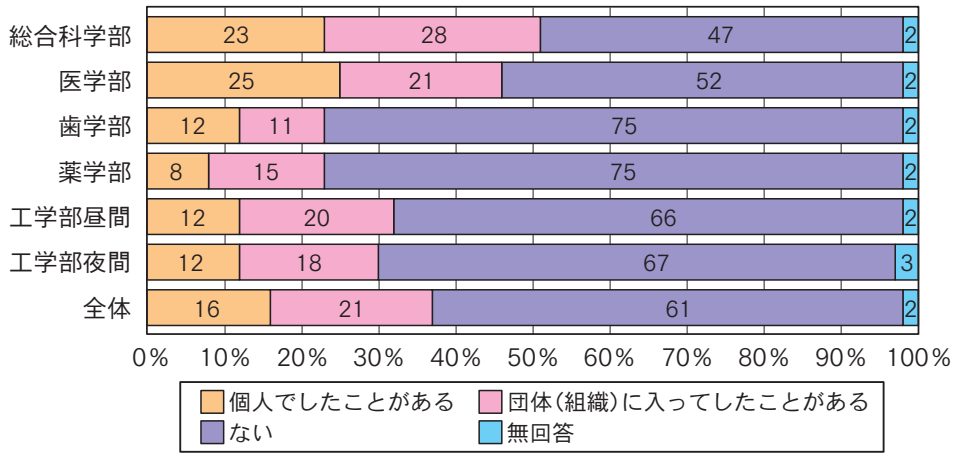

図７－７①　ボランティア活動の有無（学部別）（問 72）

＜男女別＞

男女別（図７－７②）では，「個人でしたことがある」と「団体（組織）に入ってしたことがある」を合わせると，男子学生で32%，女子学生では44%が活動を経験している。ボランティア経験者は女子学生の方が高い。前回調査時と比べると，男子学生，女子学生ともに６％増加した。

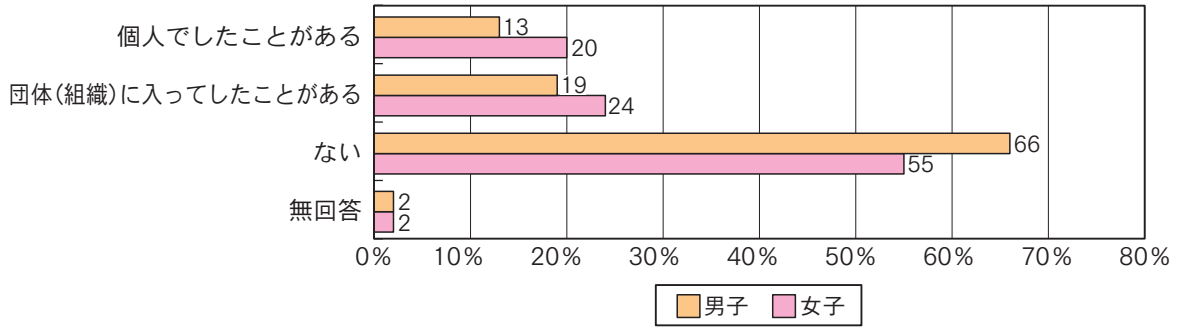

図７－７②　ボランティア活動の有無（男女別）（問 72）

第８章　進路・就職について

８－１　進路情報入手手段（図８－１）

図８－１は，学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的に前回調査とほぼ同様の傾向を示している。各学部とも大局的にはよく似た傾向にあり，「インターネット利用」と「先輩･知人」がほとんどの学部で20％台と最も多く，次いで「指導教員」，「就職情報誌・新聞・マスコミ」ならびに「大学内資料」の順となっている。薬学部，歯学部および医学部では，この順に「先輩・知人」の割合が高く(ともに25％超)，かつこの手段に関しては他の学部より高い比率となっている。また歯学部，医学部および薬学部では，この順に「指導教員」の比率が高く（ともに17％以上），かつこの手段に関しても他の学部に比較して高い比率となっている。これらのことより医学部・歯学部・薬学部では約半数の学生が「先輩・知人」あるいは「指導教員」から情報を得ていることがわかる。キャリア支援室からの情報入手率は５％と高いとは言えないが前回調査（４％）よりは上昇している。今後とも同室の情報収集･整備と学生への広報活動の充実が望まれる。また前回調査同様，「直接会社に照会」は２％に過ぎない。学生のより積極性な活動を促す必要がある。

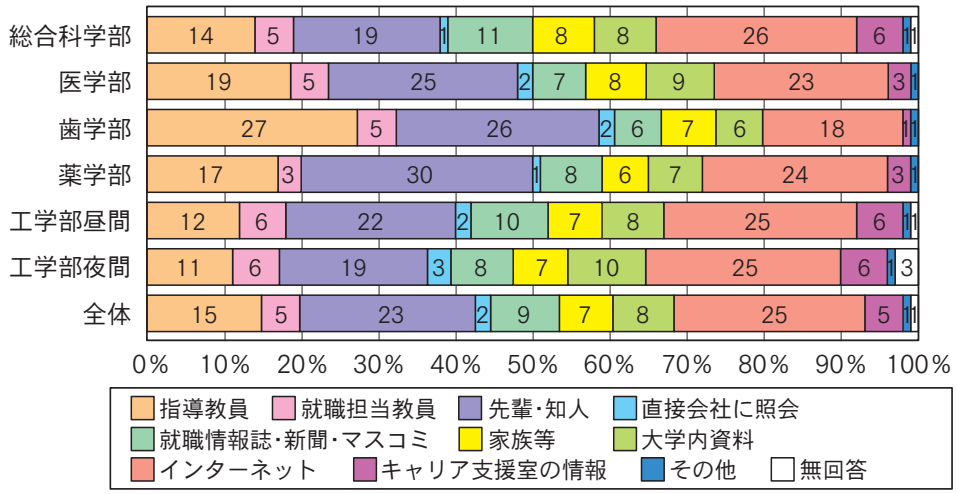

図８－１　進路情報入手手段（問 73）

８－２　就職・進学希望について（図８－２）

図８－２は，学部生全員に対して卒業後の進路を尋ねたものである。就職希望と進学希望の比率は全学部とも前回調査ならびに前々回調査とほとんど同じである。全体での進学希望者の割合は３分の１強であり，最も学生数の多い工学部の昼間コースでは54％の学生が進学を希望している。それに対し，歯学部，総合科学部および医学部における進学希望者の割合はこの順に低く，ともに20％を下回っている。これらの学部における大学院進学希望者の増加対策の検討が求められる。

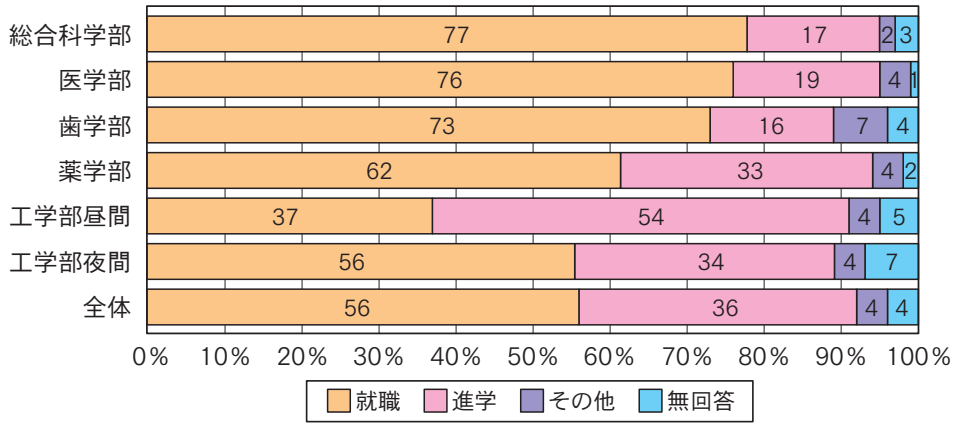

図８－２　就職・進学希望について（問 74）

８－３　就職先選択で重視するもの（図８－３）

図８－３は，前出の問 74 で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともよく似た傾向を示しており，全体的な傾向も前回・前々回調査と大きくは変わっていない。全体をみると，「就職先の将来性・安定性」が 27%（前回，前々回調査とも 26%）と最も多く，次いで「収入」20%，「人間関係の良いこと」18%，「能力を発揮できること」13%，「勤務地の地理的条件」12%となっている。「就職先の社会的評価」は６％と少なく，「先端技術を駆使しているところ」と「研究評価をしてくれるところ」はともに１％とさらに少ない。専門分野にかかわらず全体的に安定志向の傾向にあるといえる。

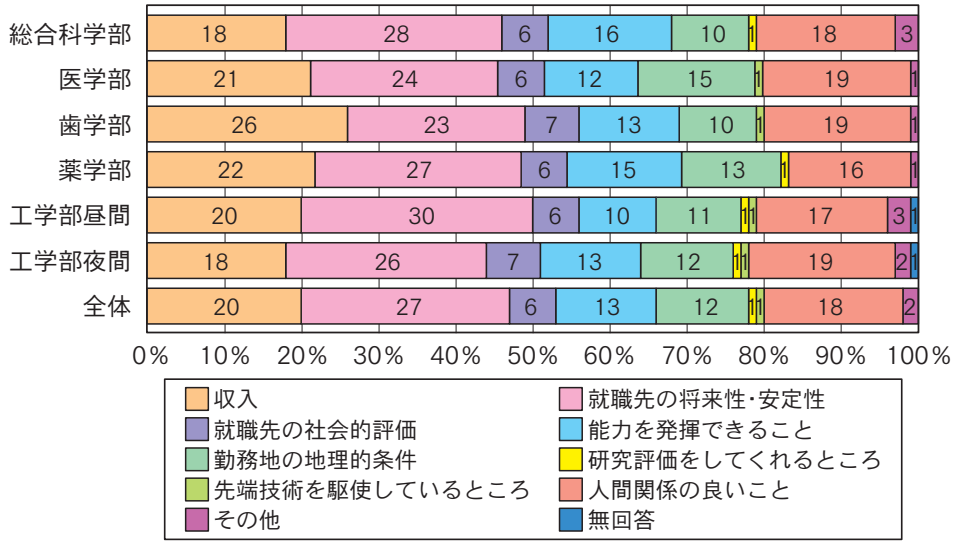

図８－３　就職先選択で重視するもの（問 75）

８－４　就職情報の入手方法（図８－４）

図８－４は，学部卒業予定の就職希望学生に対して，複数回答可として就職情報入手方法を尋ねたものである。各学部とも前回調査および前々回調査の分布とほぼ同様である。全体の傾向としては「インターネット」が 35%（前回調査 36%，前々回調査 34%）とやはり多く，次いで「先輩・知人」15%，「就職担当教員」10%，「新聞・就職情報誌」９％と続き，「キャリア支援室」，「会社等説明会」および

「親・親戚」の３つがともに８％となっている。歯学部，医学部ならびに薬学部では，この順に「先輩・知人」の割合が高く，かつこの方法に関しては他の学部より相対的に高い比率となっている。この傾向は前出の８－１の進路情報入手手段の場合と同様である。「新聞・就職情報誌」については医学部，歯学部，薬学部でその割合はそれぞれ６～７％と低いが，その他の学部ではすべて10％前後となっている。「直接会社に照会」は前出の８－１と同様で全体の２％に過ぎない。学生の自主的で積極的な行動が望まれる。

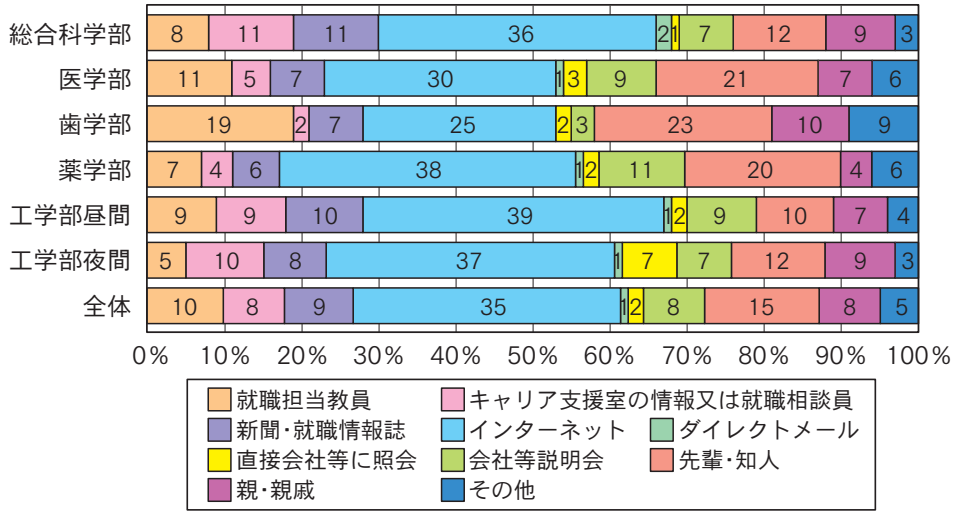

図８－４　就職情報入手方法（問 76）

８－５　希望する職種（図８－５）

図８－５は，問74で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的な傾向は前回調査とほぼ同様である。医学部・歯学部・薬学部では「専門職（医師・看護師等）」がそれぞれ62％・60％・52％と卓越している。工学部では「技術職」が30％強であり，続いて「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」20％弱，「企業等の研究職」７％強，「大学・官公庁の教育・研究職」５％となっている。総合科学部では「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が21％と最も多いが，他の職種の割合も「総合職・営業職」17％，「事務職」13％，「教育職」17％，「マスコミ関係」４％となっており，他の学部に比べ希望職種が多岐にわたっていることが分かる。薬学部でも「大学・官公庁

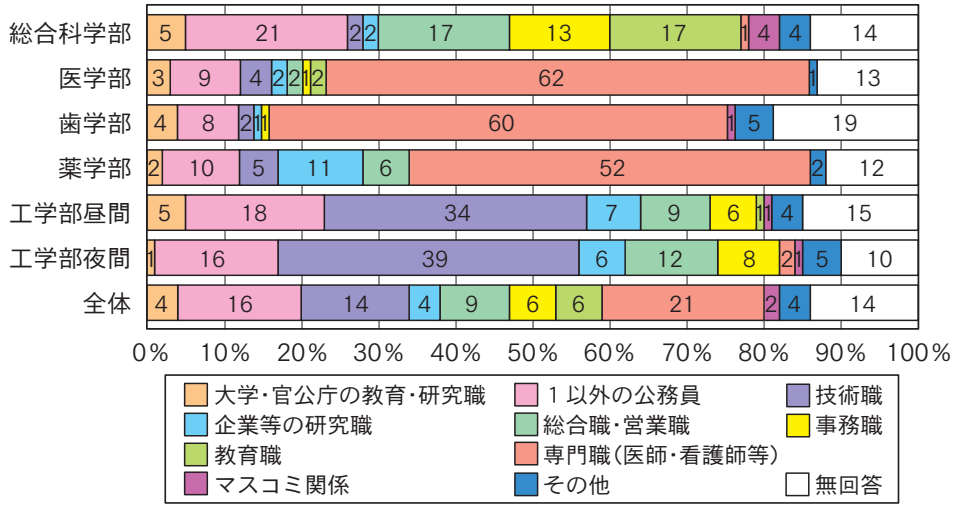

図８－５　希望職種（問 77）

の教育・研究職以外の公務員」が10%（前回調査９％）となっており比較的公務員志望者が多いことが分かる。

なお，この問に対する「無回答」が全体で14%（前回調査16%，前々回調査20%）あり，特に歯学部が19%と突出している。他の学部でも12～15%が無回答である。このことは自らの明確なキャリアプランを描けていない学生が多いことを示唆しているとも受け取れる。今後，大学全体としてのキャリア教育の充実が望まれる。

８－６　就職セミナーへの参加（図８－６）

図８－６は，大学が行う就職セミナー参加について学部生全員に尋ねたものである。全体では，「参加する」14%（前回調査16%，前々回調査18%），「時間があれば参加する」59%（前回調査，前々回調査とも53%），「参加しない」24%，（前回調査27%，前々回調査26%），「無回答」３％（前回調査４％，前々回調査３％）であった。総合科学部，工学部ならびに薬学部では，「参加する」および「時間があれば参加する」を合わせて70%以上であるのに対して，医学部と歯学部の同割合は50%台と20%程度低くなっている。これは，就職セミナーの内容が主に一般企業関連であるためと思われる。

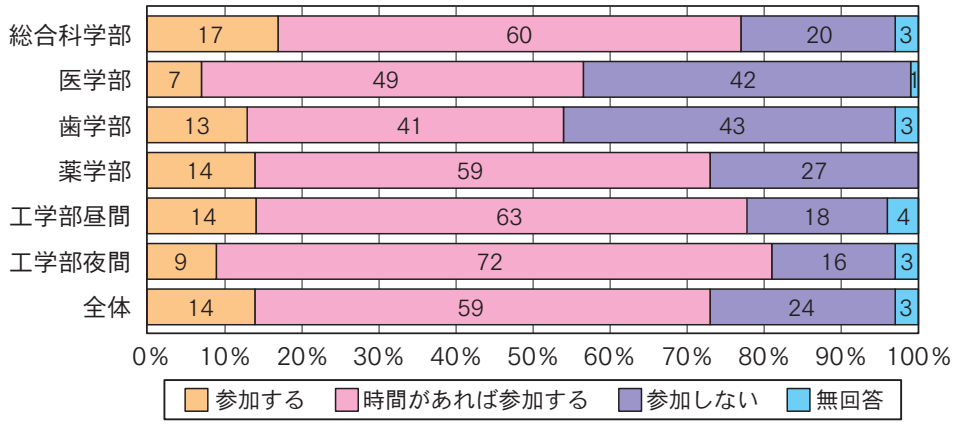

図８－６　大学が行う就職セミナーへの参加（問78）

８－７　キャリア支援室の利用状況（図８－７）

図８－７は，全学生に対してキャリア支援室の利用状況を尋ねたものである。キャリア支援室の利用状況を全体的に見ると，「キャリア支援室を利用したことがない」75%（前回調査78%，前々回調査81%）に対して「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計は22%（前回調査17%，前々回調査15%）となっている。全学年を対象としているため，利用した事がない割合が際立っているものの，その割合は徐々に減少し，その分利用経験者の割合が増加している。

各学部別に「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計を前回，前々回の調査結果と比較すると，総合科学部26%（前回調査28%，前々回調査24%），工学部昼間28%（前回，前々回調査とも22%），工学部夜間32%（前回調査29%，前々回調査11%）であった。また医学部，歯学部および薬学部ではそれぞれ10%，9%，12%であり，医学部，薬学部で前回調査より２～３％程度上昇しているものの，これら３学部の利用率は総合科学部と工学部に比べ低いことが分かる。ただし，就職活動期にあたる学年に限定すればその利用率はもっと高いと思われる。

なお，キャリア支援室では常三島地区および蔵本地区において就職相談体制を整えており，加えて常三島地区には就職コーディネーターを配置し，学生と企業の橋渡しを行っている。また就職ガイダンス

やセミナーを実施するとともに，すべての卒業・修了予定者に対して冊子『就職ハンドブック』や履歴書入りクリアファイルを配付し，希望学生には携帯電話登録で就職セミナーや求人情報を提供している。さらに，平成27年度よりウェブ上の情報サービスであるTwitter（ツイッター）を開始し，就活情報を広報している。また毎年度末に大阪等で開催される合同企業説明会へのバスツアーを企画・実施するとともに，大規模な学内合同企業説明会を複数回開催している。

キャリア支援室における直接的な利用以外にも，このような間接的サービスを受けている学生も数多いとみられる。今後さらにサービス内容の充実とともに学生への周知徹底を図ることが望まれる。

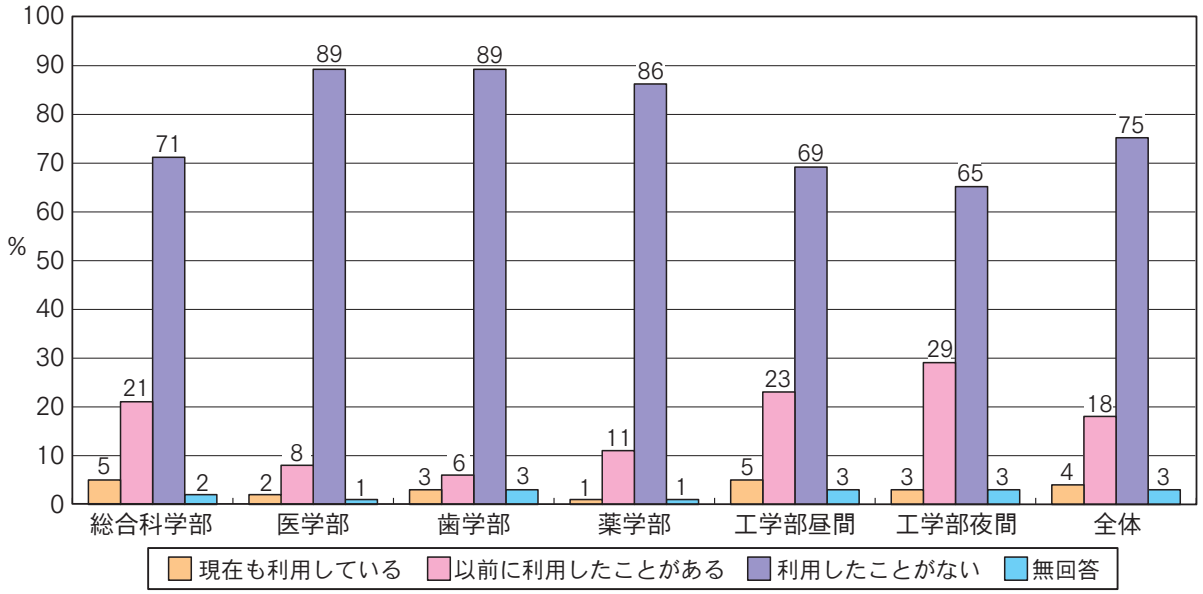

図８－７　キャリア支援室の利用状況（問79）

第９章　学部の現状と課題

９－１　総合科学部

総合科学部は，人間文化学科（一学年 100 人），社会創生学科（一学年 100 人）と総合理数学科（一学年 65 人）の３学科体制をとり，100 名を超える専任教員がその指導に当っている。

今回の調査において総合科学部の調査票回収率は61.5％で，前回調査の53％からさらに改善した。総合科学部の場合３・４年の学生が全体として受講する科目がないため，調査票を一括して配布・回収する機会がほとんどない。しかし今年度については，ゼミナールや卒業研究の指導教員を経由して配布するように依頼したことが功を奏したと考えられる。以下，各設問項目について検討する。

「住居･通学について」では自宅通学者が 33％を占める。これは前回調査の 35％，前々回調査の 40％から低くなっている傾向が続いているが，いずれにせよ県内出身者の比率の高さを反映したものと考えられる。家賃支出については，同じ常三島地域の工学部学生とほぼ同じ傾向が認められ，５万円未満の学生が 92％を占める。通学方法については全学の傾向と同じで自転車がもっとも多い。

「収入･支出について」では，家庭の年間所得が 500 万円未満とする回答が 31％で，全体平均の 29％に近づいた。授業料免除状況では，年収 500 万円未満の層で「授業料免除制度を知らない」という回答が 11％と多く，依然として周知不足であることは否めない。また「授業料免除制度は知っているが申請していない」とする回答が 54％にのぼる。申請を躊躇する背景を調査する必要があるかもしれない。

ここで自宅外通学者の回答に限ると，家計状況として保護者等から「５万円未満」の援助を受けているとする回答が 73％であり，前回調査の平均 60％から大幅に上昇し，全学平均より６ポイントも多くなった。一方，１か月の平均支出額は「５万円未満」が 53％を占め，１か月の食費は３万円未満が 81％で全学平均の75％より目立って大きい。総合科学部では定期健康診断受診率が低いこともあり，健康管理へのアドバイスも必要と思われる。

総合科学部の 71％の学生がアルバイトに従事しており，その 46％が週 10 時間以上の時間をアルバイトに割いている。他方で「勉学に支障はない」とする回答が 86％にのぼる。アルバイトの目的に対する回答と照らし合わせると，食費・住居費を切り詰めながら，「生活費・学費」と学生生活を豊かにするための「レジャー・旅行費」をアルバイトで補おうとする学生の姿が覗える。

「健康状態について」では，睡眠時間，また喫煙や飲酒の頻度についても，男女ともに回答に他学部と大きな違いは認められない。

「学生生活上の問題点」では，大学生活の意義を「勉強や研究」に見いだす割合が 31％であり，全体平均の 37％より低く，学習意欲の向上に対する取り組みを進める必要があると考えられる。

「就職や進路」について悩む割合が総合科学部では多く，女子では 47％，男子 32％となっている。医歯薬といった専門職を目指す学部とは異なり，多様な選択肢を就職先として検討することになる本学部の性質に起因するもので，工学部にも同様の傾向がみられる。学生への様々な情報提供，相談窓口を通じたきめ細かい対応が，今後とも必要であろう。

セクハラ，アカハラ，サークル内でのいじめ（嫌がらせを含む）を感じた学生は１％前後存在し，さらに悪徳商法，いたずら電話，ストーカー被害についても回答がある。また今回の調査では「カルトの勧誘」について総合科学部の５％が「受けた」と回答している。カルトへの勧誘はここ数年活発化してると懸念され，今後も継続して学生に注意喚起を行うことが必要である。なお迷惑行為を受けた際の相談先として友人，教員，学生相談室とする回答が多く，家族が相談相手になっていない点に懸念が残る。

「修学状況について」では，他学部と同様，「国立大学だから」(47％）と「地元の大学だから」(29％）

の回答が多い。その一方で，「希望する学部・学科があったから」とする回答が23%と前回調査よりもわずかに減っている（前回調査28%，前々回調査17%）。今後も受験生に対して，学部の教育方針をより積極的に広報する努力が求められる。

所属学部への満足度では，「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が63%で，全学平均の66%と大差ない。「満足している」とする回答割合は前回調査の10%から31%に上昇している。「満足できない」と回答した57%が「授業がつまらない」と答えている。これは全学的に同じ傾向にあり，基礎科目に共通した傾向ではないかと考えられる。

「課外活動について」では，「サークル加入状況」が他学部と比べて高い割合を示している。サークル加入の動機で活動内容に魅力があったとする理由が46%を占め，学生生活を自主的かつ意欲的に過ごそうとする傾向が表れている。学生行事を大学・学部側とともに充実させていこうとする学生側の自主組織が誕生し，サポート系サークルとして認可されるようになった。

大学入学後のボランティア活動では，総合科学部の51%の学生が何らかの活動に従事しており，全学平均の37%に比べると極めて高い。「東北大震災」後，ボランティア活動への関心が高まったことも大きいと思われるが，本学部が「地域貢献」を教育の柱として，その指導に力を入れていることも影響していると考えられる。

「進路・就職について」では，公務員志望者が21%，総合職17%，事務職13%，教員17%，マスコミ４%と分かれる。実際，総合科学部の学生の多くが公務員講座などのセミナーに参加している一方で大学が行う就職セミナーへの参加率はわずか17%に留まる。また就職先の選択で重視するものとしては，「就職先の将来性・安定性」(28%)，「人間関係のよいこと」(18%)，「収入」(18%)，「能力を発揮できること」(16%）である。公務員志望者の多くは地元の地方公務員を目指しており，全体として地元志向，また安定志向が見て取れる。他学部に比べて就職活動が進路決定に大きな影響を及ぼすと考えられるにも拘わらず，キャリア支援センターを利用したことが無い学生が71%にのぼり，就職の幅が広い学部であるにもかかわらずキャリア選択に関する関心が低いことが懸念される。初年次からのキャリア教育をさらに推進する必要がある。

９－２　医学部

医学部は，医学科，栄養学科・医科栄養学科，保健学科の３学科から構成されており，各々の学科の回収者数と回収率は，医学科141人（20.7%），栄養学科・医科栄養学科87人（42.9%），保健学科304人（59.4%）であり，医学部全体では532人（38.1%）であった。大学全体の回収率（59.1%）と比較すると回収率は良くない。前回調査での回収率は医学部全体で80.0%であり，今回は半減している。回収率は３学科とも低下しているが，医学科の回収率が著しく低く，男女別では特に男子が低いことが問題である。

医学部は，蔵本地区の他の学部と同様に，卒業時に国家試験（医師，管理栄養士，看護師，診療放射線技師，臨床検査技師，保健師等の国家試験）を受験して免許を取得し，卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり，在学中は目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮し，以下に現状と課題を考える。

「住居・通学について」は，自宅通学が32%であり，前回調査の28%とほぼ同じであり，約30%の学生が自宅から通学している。また，約80%の学生が毎月５万円未満の家賃を支払っている。「通学方法」では，「自転車」が72%と一番多く，他学部とほぼ同じ割合である。「通学中の事故あり」が13%であり，約１割の学生が通学中に事故を起こしているので，自転車通学を含めて事故に対する注意と交通ルールやマナーの遵守が必要である。

「収入・支出について」は，「家庭の年間収入」では，「750 万円以上の収入」がある家庭が 39%で，歯学部，薬学部とほぼ同じであり，全体と比較して割合がやや高いが，「500 万円未満の収入」の家庭が 26%，「500 ～ 750 万円未満」の家庭が 29%みられる。年収 500 万円未満の家庭において「全額あるいは半額免除を受けている」が 25%あるが，「授業料免除を知っているが申請していない」が 54%あり，「授業料免除制度を知らなかった」が 11%あることから，授業料免除制度を十分に周知して活用してもらう必要がある。「自宅外通学者」について，「１か月の平均収入額」で，「10 万円以上」の収入がある学生が 23%であり前回調査の 28%より減少し，「５万円未満」の収入がある学生が 32%であり前回調査の 26%より増加し，生活の苦しい学生が増えている。また，「保護者等からの援助額」では，「10 万円以上」の学生が８％であり前回調査の 14%から減少し，「５万円以下」の学生が 56%であり前回調査の 50%よりも増加していることから，保護者等からの援助額も減少している。「経済的状況」では，「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせて 32%であり，前回調査と同じ状況である。経済的にゆとりがない学生の割合は他学部とほぼ同じであり，経済的に困窮している学生に対して，授業料免除および奨学金の受給などを通して経済的な支援を行う必要がある。アルバイトは他学部と同様に約 60%の学生が行っており，従事日数および従事時間も全体の割合とほぼ同じであるが，アルバイトを行う学生の 11%が勉学に支障が生じており，何らかの対策が必要である。

「健康状態について」は，「気になる症状」は，他学部とほぼ同じ内容であり，男女とも「アトピー・アレルギー」，「頭痛・めまい」，「不眠」等が多く，女子では「生理痛・生理不順」，「下痢・便秘」が多い。「喫煙について」は，男子の 85%が喫煙したことがなく，前回調査の 78%よりも増加しており，非喫煙者の割合が増加している。女子は 97%が喫煙したことがなく，前回調査とほぼ同程度である。「飲酒について」は，男子の 26%，女子の 28%が飲酒をしないが，女子で１回当たりの飲酒量が３合以上４合未満の割合が 25%あり，飲酒量について注意が必要である。

「食事について」は，「昼食の利用場所」は「蔵本会館食堂」が 38%で最も多く，次いで「弁当を購入」が 18%，「自宅（下宿）」が 13%であり，昼食に蔵本会館食堂を利用する学生が多い。「学生食堂について感じていること」は，「昼食時の混雑がひどい」が 54%，「値段が高い」が 31%，「メニューが少ない」が 18%であり，昼食時における食堂の混雑を解消することが望まれる。

「学生生活上の問題点」については，「主な悩みと不安」は，学生の 33%には悩みや不安がないが，「勉学」（28%）に関する悩みが最も多く，次いで「就職や進路」（25%），「交友・異性関係」（23%），「自分の性格」（16%），「経済状態」（14%）などがある。「迷惑行為」では，「迷惑行為を受けたことがない」のは，栄養学科・医科栄養学科が 82%であり医学部の３学科の中で一番低く，注意喚起が必要である。「悪徳商法の被害」は各学科とも１～３％あるが，医学科の男子は６％あり，被害者が多い。「ストーカーの被害」は，医学科の女子が４％，栄養学科･医科栄養学科の女子が５％であり，被害者が多い。「大学内でのセクハラ」は，医学科の女子が１％，栄養学科・医科栄養学科の女子が２％であり，防止対策を行う必要がある。「大学内でのアカハラ」は，医学科の男子が６％，女子が５％あり，栄養学科･医科栄養学科の女子が４％あることから，防止対策が求められる。「カルトの勧誘」について，栄養学科･医科栄養学科の男子が 17%，女子が 11%勧誘を受けており，適切な対策を講じる必要がある。

「修学状況について」は，「本学を選んだ理由」では，「希望する学部・学科があったから」が 48%で最も高く，次に「国立大学だから」が 45%で，「地元の大学だから」が 34%であり，他学部の理由と類似している。「所属学部満足度」では，「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて 76%であり，他学部と比較して満足している学生が多い。「これまでの単位取得状況」は，「全部取得できた」が 80%で，他学部と比較して割合が高い。医学部では，卒業時に国家試験を受けて取得する免許の種類と卒業後の進路が明確であり，本学を選んだ時点で将来の職種を考えている学生が多く，学部に対する満足度が高いと思われる。「授業に対する満足度」は，「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて

69%であり，全学平均の62%よりやや高い。授業に満足していない学生は８％おり，「満足できない」理由として「授業内容がつまらない」と「教員の教え方に工夫がたりない」が他学部と同様にみられ，公開授業等で意見交換する等の努力が求められる。「オフィスアワーの利用状況」では，医学部では「オフィスアワーについて知らない」が52%と全学部で最も高く，オフィスアワーの周知と活用法を検討する必要がある。

「課外活動について」は，「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせて74%であり，学内のサークルへの加入者が多い。学生行事に積極的に参加している学生は52%で，「大学祭への参加」も73%あり，他学部と比較して学生行事や大学祭に積極的に参加している。

「進路・就職について」は，「希望職種」は「専門職（医師，看護師等)」が62%であり，歯学部，薬学部と同様に卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。「大学が行う就職セミナーへの参加」では，「参加する」や「時間があれば参加する」と答えた学生が56%で，全体の73%と比較して少ない。「キャリア支援室の利用状況」は，89%の学生が利用したことがなく，全体の75%よりも利用していない割合が高い。医学部では，診療放射線技師，臨床検査技師などの医療系の職種に就職する学生が多いので，医療機関に関する就職情報の広報やセミナー開催等によって就職支援を充実させる必要がある。

９－３　歯学部

歯学部には歯学科と口腔保健学科の２学科があり，今回の調査の回収者数と回収率は歯学科168人(67.5%)，口腔保健学科60人（100.0%）である。大学全体の回収率が前回調査に比べ10.3%低いにもかかわらず，歯学科は前回調査に比べ5.1%高く，口腔保健学科は今回学生全員から回答が得られた。歯学部全体の回収者数と回収率は228人（73.8%）であり，前回調査（69.2%）よりも高く，前々回調査(78.8%）よりは５％低い値である。歯学部学生数は全学部の中で最も少ないが，歯学部全体の回収率は大学全体の値（59.1%）を大きく上回り，全学部の中で最も高い。

住居については，28%が自宅通学であり，前回調査（30%）と同程度である。一方，家族と別居しアパートあるいはマンションを借りている学生の割合は61%で前回調査（56%）よりも５％高く，間借り（下宿）の割合は９％と前回調査（11%）よりもわずかに低い。１か月の家賃は３万円～６万円未満が80%を占め，前回調査（84%）よりも低い。また，その住居の満足度については「満足している」と「ほぼ満足している」学生の割合は合わせて81%であり，前回調査（76%）よりも５％高く，概ね満足している。住居の紹介・斡旋者は，不動産業者の割合が51%と最も高く，徳大生協からの紹介（26%）の約２倍である。通学方法は自転車が最も多く63%を占めるが，前回調査と同様，全学部の中でその割合は最も低い。一方，徒歩通学の割合は11%，自動車の割合は11%で全学部の中で最も高い。通学時間は15分未満が60%，15分～30分未満が22%，30分～１時間未満が17%で，大学全体の結果よりも若干通学時間が長い傾向を示す。また，歯学部学生の13%が通学中の交通事故を経験しており，これは前回の調査（11%）よりもわずかに増えた。

経済面については，家庭の年収が750万円以上の学生の割合は43%であり，全学部の中で最も高く，前回および前々回の調査（47%，43%）と同程度である。とくに1500万円以上の割合も９％と，全学部の中で最も高かった。一方，500万円未満の収入の家庭は28%で，前回および前々回調査（24%，21%）と比べ，回ごとに増えている。日本経済にはわずかに改善がみられるようだが，学生の経済面にはそれがまだ反映されていないと考えられる。年収500万円未満の家庭の授業料免除状況では，「授業料免除を知っているが申請していない」が53%と最も多く，「制度を知らなかった」の５％と合わせて，58%が免除申請をしていない。特に「制度を知らなかった」学生の割合は前回および前々回調査（６％，

13%）と比べ，回ごとに減り，授業料免除制度が周知がされていることが伺える。全額免除あるいは半額免除を受けている学生は合計25%で，前回調査（30%）よりも減り，大学全体の結果（26%）とほぼ同じ割合である。自宅外通学者の１か月の平均収入額は10万円未満が70%を占め，前回調査（64%）よりも増えた。自宅外通学者の保護者等からの援助額については13%が援助を全く受けておらず，この割合は前回調査（10%）よりも微増した。３～７万円未満の援助を受けている学生の割合は42%であり，10万円以上の援助の割合は15%で前回調査（20%）よりも低いが，いずれも全学部の中で最も高い。自宅外通学者の１か月の平均支出額は，３～５万円未満の学生の割合が26%と最も多く，10～20万円未満が18%と全学部の中で最も高い。一方，8%の学生は支出額が３万円未満で，切り詰めた生活を送っている。自宅学通学者の１か月の食費は，3万円未満が55%を占め全学部の中で最も低く，3～７万円未満は41%で全学部の中で最も高い。学生自身の経済状況は，「ゆとりがある」と「普通」の占める割合は合計67%で前回調査（73%）よりも低いが，全学部の中では最も高い。一方，「大変苦しい」と回答した学生は８％（前回調査７％）である。奨学金を受給している学生の割合は40%であり，前回調査36%よりも高く，受給率は上がっている。一方，60%は受給しておらず，56%の学生は今後も奨学金を必要としていないようだ。41%の学生はアルバイトをしておらず，前回調査（39%）よりも微増した。アルバイトをしている学生は，週に１～３日が合計46%と最も多い。１週間のアルバイト従事時間数は，５～10時間未満の学生の割合が33%と最も高く，次いで，5時間未満が30%，10～15時間未満が16%を占め，合計79%である。前回調査では15時間未満の割合は86%であり，アルバイト従事時間数は減少していると考えられる。歯学部は高学年では学内臨床実習や研究室配属，学外臨床研修など長時間の実習・研修があるため，長時間のアルバイトは従事しにくいと考えられる。アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生の割合は12%であり，前回調査（18%）よりも減少した。アルバイト収入としては５万円未満が75%を占め，さほど高額の収入は得ていない。73%はアルバイトにおけるトラブルの経験はなく，何らかのトラブルを経験した学生は20%であり，前回調査(14%)よりも高かった。

健康状態については，歯学部男子学生の９％は睡眠時間が４時間未満であり，全学部の中で最も割合が高いが，男子学生の49%と女子学生の52%の睡眠時間は６～８時間未満である。また，何らかの気になる症状を持っていると回答した歯学部学生は女子では43%，男子では32%であり，男女差が存在する。女子の気になる症状としては，生理痛・生理不順が18%で最も多く，次いで頭痛・めまいとアトピー・アレルギーがともに12%，下痢・便秘７％と続いている。男子はアトピー・アレルギーが12%，頭痛・めまいが11%で高い。喫煙に関しては，「喫煙歴がない」が男女とも最も高く，男子は67%，女子は97%であり，特に男子の割合は全学部の中で最も低い。これは前回調査と同じ傾向である。喫煙している男子のうち，毎日喫煙している学生は９％であるが，ときどき喫煙している学生は15%を占め，全学部の中で最も高かった。飲酒では，飲酒しない学生は男子の16%，女子の29%である。たまに飲酒する割合が最も高く，男子で52%，女子で59%である。一方，男子では「１週間に３～４日飲酒している」(12%)と「１週間に５日以上飲酒している」（５％）が他の学部よりも多かった。週３回以上の飲酒習慣があると回答した学生の１回あたりの飲酒量は，男子で「１合以上３合未満」が計58%，「３合以上」は計28%を占めていた。女子は「１合以上２合未満」と「２合以上３合未満」がそれぞれ50%を占めており，学生に対する飲酒量についての指導が必要と考えられる。

食事について，歯学部の27%は昼食に弁当を購入しており，弁当を食べる場所は53%が教室である。学生の25%は蔵本会館食堂を利用しているが，利用率は前回調査（34%）よりも減少し，蔵本地区の学部の中で最も低い。歯学部学生の48%が学生食堂の昼食時の混雑に不満を抱いている。前回調査時は蔵本会館食堂の改修･再開半年後であったため利用率が高かったが，昼食時の混雑や値段が高い（23%），メニューが少ない（21%）ことを理由に，２年間で利用者が減少したと考えられる。

大学生活の意義としては「勉強や研究」が41％と最も高く，前回調査（42％）とほぼ同じである。次いで「将来を考えた資格等の取得」（15％）が高く，全学部の中で最も高かった。悩みと相談については，歯学部の男子の47％と女子の37％は「ない」と回答しており，ともに他学部よりも割合が高い。悩みの内容としては男子は「経済状況」（21％），女子は「就職や進路」（25％），や「勉学」（24％）が高い割合を示し，男女で傾向が異なっている。相談相手としては，男女ともに「友人」（男子57％，女子65％）と「家族」（男子32％，女子54％）の割合が高く，一方，「誰にもしない」と回答した男子は22％，女子は８％で，全学部の中で最も低かった。これまでもメンター制度の充実を図り，教員が相談相手となれるような支援体制で臨んできたが，「教員」が相談相手の割合は男子４％，女子３％であり，今後さらに維持・強化していく必要性を感じる。クーリング・オフ制度は歯学部学生の92％が認識している。歯学部学生の82％は迷惑行為を受けたことがないが，男子の９％は「悪徳商法」の，学生の２％は「いたずら電話」の，女子の２％は「ストーカー」の被害を受けたことがある。「大学内でのセクハラ」は女子の１％が，「大学内のアカハラ」は学生の４％が被害を受けたことがある。「サークル退部の阻止」は男子の２％が，「サークル内のいじめ」は女子の１％が経験しており，サークル活動に対する指導も必要と考えられる。「カルトの勧誘」は１％が被害を受けている。さらに，迷惑行為を受けた際の相談先が「友人」と回答した学生は40％を占め，20％の学生は学生相談室に相談している。学生相談室を利用したことがある学生は14％で，前回調査（11％）よりも高く，全学部の中で最も割合が高い。

教職員・友人との交流について，教員との会話あるいは質問を７回以上したことがある学生が40％と最も多く，一方，教員との交流を全くしたことのない学生も11％いる。親しい教職員がいる学生の割合は36％であり，前回調査同様，この割合は全学部の中で歯学部が最も高い。また，学生の83％には親しい友人がいる。一方，4％の学生には親しい教職員も友人もいないことから，このような孤立した学生に対する支援体制の構築や強化が必要と考える。大学事務室の対応について「満足」と「ほぼ満足」と感じる学生の割合は合計47％で，前回調査（54％）よりも低く，「やや不満」と「不満」は合計23％で，前回調査（17％）よりも高く，大学事務室の対応への満足度は下がっている。

盗難等犯罪被害としては14％の学生が被害に遭っている。被害の種類としては，男女とも盗難（男子15％，女子６％）が最も多く，女子では次いで痴漢（２％）が多い。盗難等犯罪被害を受けた場所は男女ともに大学構内が最も高い（男子41％，女子47％）。早急に，大学構内の治安改善の方策が必要である。

修学状況では，本学を選んだ理由として「国立大学だから」が39％と最も高く，次いで，「希望する学部・学科があったから」が38％，「地元の大学だから」が30％である。この傾向は前回調査（それぞれ35％，41％，27％）と同じである。所属学部満足度としては，「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせると68％であり，前回調査（67％）と前々回調査（65％）とほぼ同じ値で，３人に２人は満足していることになる。一方，何らかの不満を抱いているのは９％で前回調査（14％）よりも少ない。単位取得状況については，「全部取得できた」が72％で最も高く，「ほとんど取得できた」の23％を合わせると，95％の学生がほぼすべての単位を取得している。また，授業出席状況では，88％の学生が「全部」あるいは「ほとんど」出席しており，「ほとんど」あるいは「全く」出席していない学生はいない。しかし，7％の学生は「出たり出なかったりしている」ため，このような学生に対して何らかの指導が必要である。授業欠席理由として，31％が「勉学意欲がわかない」と，次いで，25％が「授業に魅力がない」と回答した。いずれの値も前回調査（67％，50％）からは大きく減少した。一方，「授業が理解できない」学生も13％おり，このような学生に対する学習面のサポートについて何らかの対処が必要と考える。授業満足度については，「満足」と「ほぼ満足」が合わせて67％で，「やや不満足」と「不満足」と感じているのは合計10％である。いずれも前回調査（60％，7％）より微増した。不満な理由として，「授業内容がつまらない」，「教員の教え方に工夫が足りない」がそれぞれ54％，42％と高く，前

回調査（48%，47%），前々回調査（31%，33%）に比べても高い。一方で，授業の予習復習にかける時間は１時間未満が59%，１時間以上～２時間未満が29%で，薬学部を除く他の学部と同様の傾向である。学生教育にアクティブ・ラーニングの導入が促進されるなか，学生側の予習・復習はまだ不十分と考えられる。残念ながら，カンニングの経験がある学生は５％であり，他学部でもほぼ同様の割合である。

オフィスアワーの利用状況として，「利用したことがある」のは38%で，全学部の中でも工学部夜間（39%）に次いで高い。また，「オフィスアワーがあるのは知っているが，利用したことはない」（26%）と合わせて，約６割強の学生はオフィスアワーの存在を知っている。オフィスアワーを利用しない理由としては，「講義内容を十分理解できるのでその必要がない」（22%）という肯定的な理由と「教員に相談するのが面倒である」（28%）を除くと，「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」という理由が20%を占める。「講義の理解は充分ではないが，どのように質問してよいかが分からない」という回答が10%あり，このような学生に対して何らかの対処が必要である。図書館の利用回数については，「月２，３回程度」が22%で最も多く，次いで，「週２，３回程度」が21%，「月１回程度」（16%）であり，「毎日」利用する学生も７％いる。８割の学生は月１回以上の頻度で図書館を利用しており，前回調査と比べると，利用率は高くなっている。その一方，図書館を「利用しない」学生も12%いる。図書館を利用する理由としては，「自習」が52%と最も高く，前回調査と同様の傾向であった。

課外活動として，「学内の文化系あるいは体育系サークルに加入している」のは67%であり，「加入していない」（28%）を大きく上回っている。サークルに加入しない理由は，「個人の自由が束縛される恐れがある」と「魅力的なサークルがない」がそれぞれ15%で最も高く，次いで，「学業の妨げとなる」（13%）である。これは，前回調査（「学業の妨げとなる」17%，「練習がいやである」14%，「集団生活についていけない」14%，「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」14%）と比べて，異なる傾向を示している。新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事に積極的に参加しているのは39%で，前回調査（43%）よりも少なかった。大学祭への参加は57%，不参加は39%であり，医学部，総合科学部とともに参加が不参加を上回っているが，前回調査（65%）よりは参加は減少した。また，75%の学生はボランティア活動の経験がなく，前回調査（70%）よりも高い。

進路・就職については，歯学部の場合，その進路情報の入手手段は限られており，「指導教員から」（27%）と「先輩・知人から」（26%）が多く，前回調査と同様の傾向である。73%の学生が就職を希望しており，進学希望は16%であり，前回調査とほぼ同じである。歯学科においては，歯科医師免許取得後１年以上の臨床研修が義務づけられているため，大学卒業後すぐに進学できないことが反映されている。就職先選択で重視するものは，「収入」（26%）や「就職先の将来性・安定性」（23%）であり，他の学部と同様の傾向である。就職情報の入手先も他の学部同様，「インターネット」（25%）が最も高く，歯学部に特徴的な「先輩・知人」（23%）と「就職担当教員」（19%）がそれに次ぐ。希望する職種は専門職が60%で，医学部，薬学部とともに卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。大学が行う就職セミナーへの参加は43%の学生は参加せず，全学部の中で参加率は最も低い。歯学部では89%がキャリア支援室を利用したことがないが，その代りに，歯学部学生委員会が独自の研修医マッチング説明会や卒業生・開業ＯＢによる就職説明会を開催し，支援している。また，歯学部同窓会主催で毎年，歯学科６年生と口腔保健学科４年生が参加できる懇親会を設け，全国各地の支部同窓会会員に各地の歯科医需給状態などを直接聞くことができる機会を提供している。歯学科学生に対しては今後も独自の就職支援活動として，同窓会や後援会の協力を得ながら継続していく予定である。また，口腔保健学科学生の就職支援活動については，キャリア支援室と連携を図りながら，医療専門職に適した支援体制を充実させていきたい。

9－4　薬学部

薬学部は，薬学教育改革にともない平成18年度から薬剤師養成を主たる目的とする6年制の「薬学科」と，創薬・製薬科学の研究者養成を目的とする4年制の「創製薬科学科」で構成されているが，入学試験において両学科を一括募集し，3年次後期（10月）から各学科に配属することとしている。そのため，今回の調査対象者は，薬学部共通学科174名（1～2年次），薬学科162名（3～6年次），創製薬科学科76名（3～4年次）の合計412名であり，調査票の回答数は薬学部共通学科78名，薬学科127名，創製薬科学科66名であった。薬学部全体での調査票回収率（65.8%）は，前回調査（71.7%）より低いが，前々回調査（59.4%）よりは上回る結果であった。創製薬科学科（今回調査86.8%，前回調査85.4%）と薬学部共通学科（今回調査44.8%，前回調査43.5%）では前回調査と回収率に大きな差はないが，薬学科の回収率（78.4%）が前回調査（92.6%）に比べ低かった。回答数全体に占める割合は，薬学科47%，創製薬科学科24%，薬学部共通学科29%であり，調査結果には薬学部高学年の学生の考えがより反映されていることは否めないものの，前回調査とほぼ同様の回答数背景であり，薬学部学生の現状と傾向を経時的に反映していると考えられる。3～6年次生は配属先の各研究室単位で調査票の回収を実施していることが，両学科の高い回収率に結びついている。一方で，研究室に配属されていない薬学部共通学科（1～2年次）の学生の調査票回収率は依然として50%を割っていることから，クラス担任制度の活用などにより回収率の向上を図る必要がある。

「住居・通学」について，自宅からの通学学生の割合は19%（全学部平均27%）であり，他学部と比較して最も低い。この結果は，前回調査，前々回調査と同様であり，県外からの入学者が多い傾向に変わりはない。通学方法としては「自転車」が最も多く（79%），通学時間は「15分未満」が75%であった。通学中に交通事故に遭った割合は15%（全学部平均10%）と，前回調査（14%），前々回調査（17%）同様高く，交通安全への意識喚起対策を一層進める必要がある。

「収入・支出」について，1か月の平均支出額を7万円以上と回答した自宅外通学者は32%であり，全学部平均（23%）を上回っている。一方で，アルバイトをしていない学生は49%（全学部平均37%）と他学部と比較して最も高く，保護者から1か月に7万円以上の援助を受けている学生は27%（全学部平均15%）と高い。高学年学生の調査票回収率が高かったことを考慮すると，実務実習や卒業研究など教育カリキュラムと相関した時間的制約が一因ではないかと考えられる。奨学金については，35%の学生が「現在受給中であり，受給の継続（または増額）を希望する」と答えた。経済状況について「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と答えた学生が34%（前回調査34%）を占め，依然として生活に余裕がないことがわかる。奨学金や授業料免除等の経済的支援は，今後も継続して取り組むべき重要課題の一つである。なお，授業料免除制度の周知に努めた結果，「授業料免除制度を知らなかった」と回答した年収500万円未満の家庭の学生は2％（全学部平均11%）と，前回調査（13%）から大幅に減少した。

「健康状態」について，睡眠不足とされる「6時間未満」と答えた学生が男子43%，女子44%であった。気になる症状が「特にない」と答えた学生は男子で71%と前回調査（67%）よりやや増加しているが，女子は49%と前回調査（52%）よりやや減少し，半数以上が現在気になる症状を抱えている。それぞれの症状に対する早期の対処法について，保健管理センターとも連携したきめ細かい生活指導の必要性が感じられる。

「食事」について，昼食の利用場所として「蔵本会館食堂」との回答（59%）が最も多く，前々回調査（19%），前回調査（48%）と増加している。今回の調査票回収率が，蔵本キャンパスに常駐する高学年学生で高かったことを考慮すると，蔵本会館の改修を機に利用者が増加していると考えられる。食堂利用率が高い一方で，メニューや値段などに不満を持っている学生が多いことから，学生の意見を食

堂に働きかけるなど，学部として学生の食生活をサポートする検討が必要かもしれない。

「学生生活上の問題点」について，男子で95%，女子で89%の学生が「迷惑行為を受けたことはない」と答えており，男子，女子ともに前々回調査（それぞれ78%，82%），前回調査（それぞれ86%，87%）と増加していることから，保健管理・総合相談センターと連携した，カルト問題，悪徳商法問題，薬物乱用問題，ハラスメントなどに対する継続的な啓蒙活動・予防対策が成果を上げていると考えられる。一方で，「学生相談室を知らない」と答えている学生が21%と，前回調査（15%）から増加していることから，一層の周知に努める必要がある。

「修学状況」について，本学を選んだ理由としては「希望する学部学科があったから」，「国立大学だから」の順に回答数が多く，前回調査と同様の傾向であり，入学時における目的意識の高さがうかがわれる。一方で，「薬学部に満足していますか」との設問に対し，「満足している」あるいは「ほぼ満足している」と答えた学生は63%（全学部平均65%）であり，志望理由に対して満足度は低いと言える。「授業に満足していますか」との設問に対しても，「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は55%（全学部平均62%）であり，授業への満足度は他学部よりも低い結果であった。授業に満足できない理由としては，「授業内容がつまらない」と「教員の教え方に工夫が足りない」が最も多く，「授業内容が難し過ぎて理解できない」が続いている。また，授業の予習・復習時間が「１時間未満」との回答が80%（全学部平均59%）と他学部と比べて高く，学生の自学自習を促す一層の取組が必要である。教員はこれらの調査結果を真摯に受け止め，一括募集や薬学科と創製薬科学科という修業年限の異なる学科が同一学部内に存在するという他学部にない教育システムの中で，学部や授業に対する満足度が100%となることを目標とした不断の努力が求められる。なお，カンニング経験が「ある」と答えた学生は５%で，前回調査（８%）から減少しているが，完全防止に向けて今後も厳格に取り組んでいくことが肝要である。

「課外活動」について，サークルへの加入率は78%と高く，前回調査(71%)からも増加している。サークルへの加入や学生行事への参加は，学生教育の一翼を担う重要事項であることから，今後も学生の意見を聴取しながら，学部内サークル活動支援の充実などに今後も努めていく必要性を感じる。一方で，ボランティア活動をした学生の割合は，前回調査の19%から23%に増加したが，他学部と比べ未だ低い(全学部平均37%)。

「進路・就職」について，就職を希望する学生は62%であり，現行の２学科制になって以降，前々回調査（65%），前回調査（67%）と傾向は変わらない。希望職種としては「専門職（薬剤師)」が52%で最も多くなっている。これらの結果は，回答数に占める薬学科生の割合が高いことによると考えられる。薬学科と創製薬科学科では卒業後の進路が大きく異なるため，まだ進路未定の薬学部共通学科（１～２年次）も含めて，回答数に占めるそれぞれの割合の変動によって，調査結果は大きく変わることに留意する必要がある。

はじめにも述べたとおり，学校教育法の改正により平成18年度から薬剤師教育のための薬学教育は修業年限が４年から６年に延長され，同時に，多様な分野へ進む人材育成のため４年制学科が併設されることとなった。徳島大学では，両学科を入学試験時に一括募集し，３年次後期より両学科に配属するというカリキュラムを採用している。平成28年の３月には，６年制教育を受けた第５期生が卒業を迎える。このように大きな変革期にあって，学部学生を対象とした学生生活実態調査の貴重なデータを有効に活用し，より良い修学・生活環境を構築するための実効性のある学生支援体制の充実に努めなければならない。

9－5　工学部

「住居･通学」について，工学部学生の１ヶ月家賃は，他学部に比べて４万円未満とする学生の割合が昼間 66%，夜間 69%と多い。前回調査と比較して，夜間では 10%ポイント以上良化したが，３万円未満の夜間学生が 30%と，特に安い住居を利用している。これを反映して，住居満足度は他と比べて夜間学生で低い傾向にある。

「収入・支出」について，工学部夜間では，年収が 500 万円未満と回答した学生が 42%と，他と比べて非常に多い。また，750 万円未満とする学生は，夜間と昼間ともに 64%であり，68%の総合科学部と概ね同程度であり，医学部，歯学部，薬学部の 50%台との差異が認められる。また，工学部夜間では，保護者からの援助が全くないと回答した学生が 19%であり，他学部の２倍程度の多さとなっている。アルバイトに関しても，１週間に３日以上従事する割合や，１週間の従事時間でも，夜間学生が最も多い割合となっている。昼間学生でも，夜間ほどアルバイトの依存が高くないが，医学部，歯学部，薬学部よりもはるかに多い傾向に有る。こうしたことを反映してか，アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生は，夜間学生で 32%と昼間学生の 17%の倍近く，それ以外との比較では３倍程度の割合で見られた。生活上仕方の無い部分も有ると思われるが，勉学とアルバイトに対する適切な助言や授業料免除制度についても周知徹底していく必要がある。また，大学としては，こうした経済的不均衡を考慮しながら，学内での奨学金の配分方法等について検討していく必要があるだろう。夜間主学生では，アルバイトの比率が高い一方で受け取る収入が低いことも特筆される。

「健康状態」について工学部学生では，喫煙･飲酒の頻度や程度において他学部と大きな差異は認められなかった。「食事」について，常三島地区では，他学科同様に昼食時の混雑に不満を感じている学生が多いことが確認出来る（昼間 53%，夜間 44%）。生協の第一食堂「きらら」が開店し，不満の解消につながることが期待される。

「学生生活上の問題点」について，大学生活の意義として勉学や研究が最も高い（昼間36%，夜間39%）ものの，勉学と資格が直接結びついている医学部や薬学部に比べ低い結果となっている。工学部でも修学した知識が就職後に必要になるが，直接的では無く実感出来にくいことが原因と考えられる。実学を意識した授業等の工夫により，勉学意欲も向上させる努力が必要であろう。工学部では，「志望する学部・学科があったから入学してきた」とする学生が少ないことを前提とし，「勉学や研究」への動機・意欲を向上させるための取り組みも必要であろう。

「勉学」，「就職や進路」，「交友･異性関係」など，多くの学生が何らかの悩みを持っている。工学部では“学びの相談室”を設置し，学生相談室等との橋渡しを行なっているが，学生相談室等の利用は少なく，友人が主な相談相手となっている。また，１／４程度の男子，１／６程度の女子は，悩みを「誰にも相談しない」としている。この程度は前回調査時と変化は無い。教員に相談するのは男子女子とも数%に留まっている。教員側からも，学生に積極的に働きかけ，学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要があるだろう。

悪徳商法やいたずら電話等も５％弱で被害を受けているようである。女性ではストーカーやセクハラも昼間・夜間で５％程度の被害が見られる。学生相談室には女性職員の相談員もおり，相談可能であることを周知すべきである。カルトの勧誘も工学部全体で５％程度確認出来る。新入時にカルト予防の教育を行っているが，高学年においても啓蒙予防策を講じる必要がある。

工学部学生の入学動機は，「国立大学だから」という回答が多い。満足度は他学部と比べてもそれほど低くはないが，単位修得数や授業への出席状況は，他学部よりも劣っている。これらの傾向は前回の調査と大きな変化が無い。授業に「不満足」もしくは「やや不満足」な夜間学生は 15%，昼間学生は 11%であるが，その理由として「内容がつまらない」「教え方に工夫が足りない」との回答が多い。

「課外活動」について，工学部夜間の学生のサークル加入率は，他学部に比べてかなり低い。「勉学の妨げになる」や「アルバイトをしているので」が，「魅力的なサークルがない」と同程度に高く，時間管理のタイトな夜間学生の特性が反映していると思われる。

また，工学部学生は学生行事への参加率（夜間 25%，昼間 34%）は他学科に比べ最下位であり，多少増加するものの，大学祭の参加に限っても同様に最下位（夜間 38%，昼間 47%）である。

「進路・就職」について，就職先を考える上での情報は，インターネットを通じて得ると回答した学生が最も多く，次いで，「先輩・知人」，「教員」であった。多くは技術職を希望する学生が特に多く（夜間 39%，昼間 34%），公務員（夜間 16%，昼間 18%）が続く。大学が行う就職セミナーや就職支援センターの利用は，「時間があれば参加する」（夜間 72%，昼間 63%）のが大多数で，「参加する」のは（夜間 9 %，昼間 14%）と少数である。参加者からは良いセミナーとの評価が多聞されることから，広報の充実が望まれる。一方で，工学部では各学科で就職担当教員が配置されているため，きめ細やかな対応が行えているものと思われる。

第10章　総括と提言

第27回学生生活実態調査は，本学に在学する学部学生全員（5,900人）を対象として実施し，3,488人から回答を得た。回収率は59.1％で，前回の69.4％に比べて大幅な低下がみられた。実態の正確な把握には高い回収率が必要なので，この回収率をあげる工夫が求められる。前回調査に比べて回収率が向上した学部では，授業および卒研等のゼミの指導教員を経由してアンケート用紙を配布・回収して回収率を向上させている。

調査項目は，「基本的事項」，「住居・通学」，「収入・支出」，「健康状態」，「食事」，「学生生活上の問題点」，「修学状況」，「課外活動」，「進路・就職」の９項目で，過去の調査との継続性を考慮し，今回の総設問数は79問となった。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し，全学的な立場から学生生活支援をおこなうために，以下の総括と提言をまとめた。

１．住居・通学について

全体の80％以上が30分未満の通学時間である。これは大学の近くに住居があり，通学する学生が多いためである。問題は10％の学生が通学中に何らかの交通事故に遭っていることである。被害者になる場合も重大だが，加害者になる場合もあり，交通安全に関する指導を確実におこなう必要がある。自転車通学者は72％に達していることが徳島大学の大きな特徴といえる。道路交通法が平成27年６月１日に改正され，自転車の通行に関する罰則の強化がなされているが，いまだに大学近辺において違法な自転車運転（夜間無灯火や雨天の傘さし運転）が減る様子がない。交通安全に関する指導を一層強化する必要があるだろう。

２．経済状況について

学部間の違いはあるが，家庭の収入が250万円未満に満たない家庭が８％，多い学部では17％に達しており，これに対応するように「生活が大変苦しい」という学生が８％，「生活がやや苦しい」という学生が26％に上る。この割合は，前々回，前回の調査とほとんど同じである。年収500万円未満の家庭の授業料免除については半数以上が「授業料免除は知っているが申請していない」と回答している。授業料免除の制度を活用しない理由について調査し，申請しやすい環境や体制を整えるように取り組む必要があると考える。

生活費や学資のためにアルバイトをしている学生の比率が43％となっており，家計を助けながら学生生活を維持している様子がうかがえる。これまでの調査ではアルバイトのトラブルは少ないが，近年問題になっているブラックバイトについては今後学生からの情報収集を行い，被害を未然に防ぐように働きかける必要があろう。

３．健康状態について

例年と同様であるが，４時間未満の過度の睡眠不足の学生が男子４％女子２％，さらに何らかの気になる症状を抱えている学生が男子32％女子49％にのぼっている。気になる症状を抱える女子学生が半数近いという状況は改善のために何らかのアクションを起こすべき状況であると考えられる。

これらの症状への対処や生活習慣等の生活面の指導を含めた対処法の事例や解決の手伝いをする仕組みが，保健管理・総合相談センター保険管理部門等の大学側の仕組みとしてあることをしっかり知らせることが大事であると思われる。また，健康診断も含めて，自発的に大学側の仕組みを利用するような周知も重要である。入学後および卒業前の健康診断以外は受診率が下がる傾向にあるため，年度初めのガイダンスにおいて健康診断の受診を促すように指導する必要がある。

喫煙する学生は年々減少する傾向にあるが，これらの学生に対する積極的な禁煙指導や治療など，

なんらかの対策が必要であろう。また，キャンパス内の禁煙区域は広がっており，構内全域における分煙の徹底やマナー向上，非喫煙者への配慮を目指すべきであろう。

4．食事について

朝食をほとんど取らない学生が23%いるという状況は，前回，前々回調査とほとんど同じである。これについては生協食堂からの協力もあるのだが，なかなか改善しない。当人も自覚するような顕著な障害が現れないためであろう。下宿生，学生寮生の朝食率がそれぞれ40%，45%と，自宅生に比べて大きく下回っている。朝食を取らないために勉強の効率低下，健康への影響が懸念されるため，一人暮らしの学生に対する健康指導を推進する必要がある。

常三島第一食堂の改善等，本年は大変充実した改善が大学側によって行われたが，平成27年後期は第一食堂の改修工事でほとんど使用できなかったため，昼食時の混雑に対する不満については一時的な影響も反映されていると思われる。恒常的な昼食時の混雑の緩和については，自主学習スペースの活用，昼食時間内における時間差での利用等工夫できる部分もあると思われる。

5．学生生活上の問題点について

学生生活の意義として，「勉強や研究」におく学生の比率が最も高いことは望ましい傾向と言える。もっとも，「ただ何となく」というネガティブな回答も依然として６％ほど存在し，これらの学生の就学意欲を惹起させるようなケアも重要な点である。

悩みや問題があっても誰にも相談しない学生が男子の22～28%，女子の８～21%存在し，前回調査に比べて減少したものの依然として多いと感じられる。その中には相談すること自体によって何らかの解決法が見つかるものも存在するはずであるが，他者への悩み相談をすること，さらには大学教員等に相談することへの強い抵抗感があると考えられる。学生指導担当の教員および卒研・ゼミの指導教員は，学生とのネットワークを活用して悩みを持ちながら相談できずにいる学生を見つけ，保健管理・総合相談センター総合相談部門への相談を促すことができるように心がける必要がある。

また，学生相談室（平成27年１月より保健管理・総合相談センター総合相談部門）があることを知らない学生が23%に達し，前回調査の19%より増加した。平成25年度からの蔵本での常駐相談開設によって全学部の利用率が均等化され一定の効果が得られた。

何らかの迷惑行為を受けたことがある学生は15%と前回調査の18%より減少したが，学内での盗難被害にあった学生も少なからず存在する。未成年や，成人後間もない学生が様々なトラブルに巻き込まれないように，対処法をしっかり伝えておく必要がある。「クーリング･オフ制度」を知らない学生がいなくなるように，オリエンテーションでの周知が必要である。

アカハラについては全体では１％の比率であるが，今回調査では医学科全体で６％，歯学部男子で６％がアカハラの被害にあったと答えている。そもそもアカハラは存在してはならないもので，指導教員と学生の間の信頼関係ならびに指導方針について十分な意識の共有が行われていないことを示す。ある大学のポスターには「相手がそう感じたらハラスメントですよ」という厳しい文言がかかれている。大学におけるハラスメント行為を根絶すべく，大学として学生，教職員等の構成員全てが，真摯に取り組み続けて行く必要がある。

6．修学状況について

出席状況のあまり芳しくない学生が10%程度いるのが問題である。授業の欠席理由について「授業に魅力がない」とする回答が37%と最も多く，続いて「勉学の意欲がわかない」が36%，「授業が理解できない」が16%と前回，前々回調査から変わっていない。授業に本当に出ていない学生はこの調査に対する回答をしていない確率が高く，調査票を提出しなかった学生（40.9%）の動向が懸念される。

欠席理由の「授業に魅力がない」「勉学の意欲がわかない」についてはシラバスおよび授業ガイダン

スにおいて「基礎科目は魅力があるという観点で選ぶものではない」ことを良く周知して，上記のような理由で欠席しないような指導を粘り強く行う必要がある。これはいまどきの「よくわかる～」や「おもしろい～」といった学習参考書や進学塾の指導傾向をそのまま学問に適用しようと考える学生の意識が垣間見られる。プロスポーツ選手の華やかなプレーの陰には厳しい基礎トレーニングがあることと同じく，高度で真に面白い学問の最高峰に登るためには厳しい基礎勉強が必要であることを初年次のできる限り初めのうちに学生に認識させることが必要である。

授業の予習復習時間については１時間未満との回答が59％と極めて高い状態は改善する必要がある。本来の単位の考え方からすればあってはならないレベルの短さである。授業前後の予習復習の課題をきちんと学生に課し，学生の本分を忘れたような状況を改善する必要がある。反転授業を推進することが予習復習時間の増加に功を奏することを期待する。

カンニングをしたことがあるという学生が４％と，前回調査の約７％から半減している。これは試験時の徹底した指導およびカンニング防止に対する取り組みが功を奏し始めているのではないかと期待される。どのような小さな不正行為もしてはならないという高い倫理意識を持たせると同時に，試験を実施する側もカンニングさせない態勢をきちんと整えておく必要がある。

７．課外活動について

サークルの加入率は全体で68％を占めており，大変望ましい状況と言えるが，前回調査時より加入率が微減の傾向を示している。学生の自主的な活動を行うことにより，社会人として必要な様々な資質を自主的に身につけ，鍛練する場となって頂きたい。31％の学生が課外活動を行っていないが，課外活動以外の学園祭等の学生行事や，ボランティア活動，さらには勉学生活を通じて，しっかりとした勉強や研究の上に，社会における必要な資質を自主的に学んで頂きたい。その意味でもボランティアサークルへの積極的なサポートが有効に機能するように大学側も周知徹底する必要がある。

新入生歓迎行事や大学祭については「必要だ」と考える学生が全体で74％となっており，良好な割合になっていると考えられる。「あまり参加していない」「なくてもいい」とする学生が全体で約40％になっているが，これは学生の興味の多様性に伴う傾向であると考えられる。

８．進路・就職について

進路情報の主な入手先は「インターネット」「先輩･知人」が主でキャリア支援室の利用割合は５％にとどまっている。インターネットによる情報収集は人との会話を経ずに情報収集できるために多くの学生が頼りがちであるが，他者とのコミュニケーションを苦手とすることがその理由である場合には就職後の仕事に影響が出る可能性が高い。インターネットを利用する理由について調査することで就職後の継続年数などとの相関を見ることができるかもしれない。キャリア支援室にはコミュニケーション力とインターネット利用に関連する調査項目について精査し，今後の就職後の安定した就業継続が出来るような教育指導のあり方について検討願いたい。

学生生活における大きな悩みの一つに進路や就職の不安があり，人生のキャリアをどのように設計するかについてもきめ細かいサポートが必要である。

学生支援室としては，今回の調査結果が徳島大学における学生支援に適切に反映されるよう願っている。

あ　と　が　き

この調査の目的は「今後の福利厚生などの改善および修学支援に関する基礎資料を得ること」です。平成16年の第22回調査以降は学部生全員を対象とする調査となっており，今回調査の回収率は59.1％と全学生の半数を超える詳細なデータを得ることができました。

およそ80の設問によって本学学生の収入，生活態度，授業への取り組み，課外活動，さまざまな悩みについて詳細な傾向が明らかになってまいります。指導にあたられます教員各位には，本書に現れたさまざまなデータをご自身が指導されている学生にもあてはめ，授業運営に活用していただけますようお願い申し上げます。さらに，本書を徳島大学に関わる全ての方にお勧めいただき，FDの資料にも活用していただきたいと思います。

近年の景気変動により，学生をとりまく経済状況は年ごとに大きく変動し，授業料免除や奨学金などの経済援助を必要とする学生が増えている傾向にあります。生活を支えるためにアルバイトに従事する必要が生じ，学業に専念できなくなる学生が少なからず存在します。しかしながら学生と教員間のコミュニケーションが希薄な場合には適切な指導の機会を逃してしまうことがあります。

上記のような学生の生活環境が本書に記載されているデータを読むことによって紡ぎだされ，学生指導に大いなる威力を発揮できることを祈念します。

最後に，本調査の貴重なデータを提供していただきました本学学生の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。同じ時期に多数のアンケート調査依頼が来てアンケート疲れになっているのではないかと危惧したのは杞憂に終わったことを喜んでおります。多数のデータを分析し，報告書を作成していただきました徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員および協力者各位には，厳しい日程の中で完璧な分析結果をお示しいただきましたことに感謝申し上げます。本書の作成を取り仕切っていただきました学生生活支援課の事務職員の皆様に御礼申し上げます。

本書が徳島大学学生のために更に活用され，楽しくて有意義な学生生活を送るための役に立てることを祈ります。

平成28年3月

徳島大学総合教育センター
学生支援部門学生生活支援室長
伏　見　賢　一

平成28年3月

徳島大学

徳島大学は、学校教育法第 109 条第 2 項の
規定による「大学機関別認証評価」を受け、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
（平成 26 年 3 月 26 日）
・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
・認定期間：7 年間（平成 26 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日）